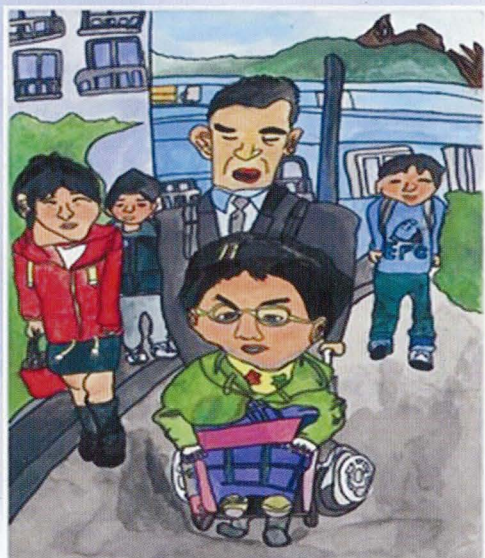


# ぬくもい

思いやりを行動へ



平成21年度 「障がい者週間のポスター」  
(中学生部門) 優秀作品  
吹田市立山田東中学校  
2年生 榎 維真 さんの作品

\*\*\*\*\*

## は じ め に

\*\*\*\*\*

今日の社会は、物質的に豊かになり、便利で快適な生活を享受できるようになった反面、物質万能、経済優先の社会的風潮を生み出し、人と人との間のぬくもりやうるおいが薄れ、心の貧困化が指摘されています。また、核家族化、少子化などが進行するにつれて、家庭が本来もっていた教育的機能が低下するとともに、地域の連帯感の弱まりなどにより、人間関係が希薄化しております。

このような状況の中、高齢化をはじめ情報化や国際化などに対応した人間性あふれる“ぬくもりのある社会”を創造するために、心豊かでたくましい人間の育成が強く求められています。

そのためには、学校教育においてノーマライゼーションの理念に基づき、子どもたち一人ひとりがお互いを尊重し、認めあい、他人への思いやりの心をもつように指導していくことが大切であり、大阪府においても、すべての児童・生徒が「ともに学び、ともに育つ」ことを基本に、互いに信頼しあい支えあう集団づくりをめざして教育を進めてまいりました。

自分のことだけでなく周りの人も大切に思い、一人ひとりそれぞれの考え方、生き方を尊重し、ともに生きる喜びを求めることができる「福祉のこころ」をもった心豊かな人間を育成することは学校教育の大きな課題であります。

この課題に対応するため、小学校段階から、障がい者や高齢者などを取り巻く課題と、障がいや高齢などについての理解を深め、その人々の様々な生活や生き方に気づき、福祉の意味や福祉活動の役割について理解できる福祉教育指導資料集を平成10年に作成し、各学校において、「福祉のこころ」をもつような指導を進めてまいりました。

その後、「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられ、新学習指導要領の総則において、「障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習や高齢者などとの交流の機会を設けること」と、「交流及び共同学習」が新たに規定されるなど、福祉教育や障がいについての理解を深める教育を推進するための諸状況が大きく進展しました。

そこで、今回の改訂では、障がいなどに関する児童・生徒の理解が表面的にとどまるのではなく、障がい者や高齢者などとの出会いや体験活動などを通して、学んだことが自分の身近にいる障がいのある仲間や高齢者などへの理解、思いやりや行動につながるような指導事例を盛り込みました。さらに、今日的な課題に取り組んだ指導事例、福祉教育の実践に向けたポイントや社会福祉協議会との連携のあり方なども加えて、学校現場で教員が、より活用しやすいように工夫しています。

この資料集が活用され、各学校でさらに素晴らしい実践が展開されることにより、児童・生徒が、すべての人を“かけがえのない人”として尊重し、みんなが幸せに暮らせる社会の実現のために「思いやりを行動へ」と移す実践力が育成されることを期待しております。

平成22年3月

大阪府教育委員会 市町村教育室 小中学校課長



# 《目 次》

はじめに

第1章 福祉教育とは何か — 心豊かな、ぬくもりのある社会を創り出すひとりとして —

## 1. 福祉教育のねらい

- (1) 「福祉」とは何か ..... 1
- (2) 「ともに学び、ともに生きる」理念に基づいた教育活動 ..... 1
- (3) すべての人々の生き方にかかわる教育活動 ..... 2

## 2. 福祉教育の指導内容

- (1) すべての教育活動を通して進める ..... 2
- (2) 3つの側面からアプローチ ..... 3

## 3. 福祉体験からボランティア活動へ — 思いやりを行動へ —

- (1) 子どもの発達段階に応じた体験的な学習を取り入れる ..... 4
- (2) 「福祉のこころ」に根ざしたボランティア活動 ..... 5

## 第2章 福祉教育の進め方

### 1. 福祉教育のカリキュラム作成のポイント ..... 6

### 2. 福祉教育の指導方法

- (1) これまでの福祉教育の課題 ..... 7
- (2) 指導のポイント ..... 7
- (3) プログラムの提案 ..... 8

### 3. 福祉教育を進めるためのポイントQ&A ..... 10

### 4. 参考資料

- (1) 視覚障がいとコミュニケーション手段に関すること ..... 13
- (2) 聴覚障がいとコミュニケーション手段に関すること ..... 14
- (3) 障がい教育に役立つ参考資料 ..... 15
- (4) 指導資料 ①『福祉のこころ』を育てる学級づくりに役立つ福祉教育ワーク ..... 16
- ② いっしょに考える『しょうがい』のこと（小学3、4年生向け教材） ..... 23

### 5. 社会福祉協議会との連携

- (1) 社会福祉協議会の役割 ..... 26
- (2) 社会福祉協議会の活動内容 ..... 26
- (3) 社会福祉協議会との連携で福祉教育の充実を ..... 27
- (4) 社会福祉協議会との連携の進め方（例） ..... 28
- (5) 大阪府内社会福祉協議会一覧 ..... 29

## 第3章 学校における取組み事例

### 1. 小学校の事例

- \* ゆびもじはみみのきこえないひとにとってたいせつなんだね〔聴覚障がい理解〕 ..... 30
- \* いっしょにいとあんしん〔高齢者との交流〕 ..... 34
- \* みんなちがっていいんやなあ〔支援学級との交流及び共同学習〕 ..... 38
- \* 自分たちにできることは何だろう、伝えようAさんのこと〔支援学級との交流及び共同学習〕 ..... 43
- \* とともに生きていく、やさしい町に〔視覚障がい者との出会いから行動へ〕 ..... 46
- \* であい・つながり・ともに生きたい〔障がい理解と交流〕 ..... 51
- \* 車いすから見た新しい世界〔障がい（肢体）理解とバリアフリー〕 ..... 57
- \* 心（こころ）通（かよ）わせて〔支援学校との交流〕 ..... 61
- \* みんなであくしゅ〔学校全体をあげての構造化の取組み〕 ..... 65

### 2. 中学校の事例

- \* 「違い」を認める〔障がい理解〕 ..... 70
- \* 地域に育まれ、発展する学校づくり〔地域、社会福祉協議会と連携したボランティア活動（高齢者との交流）〕 ..... 75

# 第1章 福祉教育とは何か

－ 心豊かな、ぬくもりのある社会を創り出すひとりとして －

## 1. 福祉教育のねらい

### (1) 「福祉」とは何か

- 「福祉」とは、「幸せ」や「ゆたかさ」を意味する言葉です。この冊子で、「福祉教育」というときの「福祉」は、まず憲法 25 条の「生存権の保障」を基盤とし、その上で、憲法 13 条「幸福追求権」の実現をめざすものです。つまり、「福祉」とは、「人を幸せにすること」や「よりよく生きること」ということであるといえます。
- そして、「福祉」は、『ふだんの 暮らしの しあわせ』を実現させる営みであるといわれることがあります。しかし、何を幸せと思うのかは、人によって様々な感じ方があり、だれもが「自分の幸せ」を願っています。だからこそ、「他の人の幸せ」も大切にすることが求められます。
- 「福祉」とは、自分のことだけでなく、周りの人も大切に思い、一人ひとりそれぞれの人の考え方、生き方を尊重し、「ともに生きる力」を培うことであるといえましょう。



### (2) 「ともに学び、ともに生きる」理念に基づいた教育活動

年少者も高齢者も、障がいのある人もない人も、国籍や言葉の異なる人も、すべての人々がこの社会の中で、誇りをもって、心豊かで幸せな生活を送ることができるようにすることが、福祉教育のめざすものです。

- 言い換えると、福祉教育は、すべての人がかけがえのない存在として尊ばれ、差別や排除されたりすることなく社会生活の中でともに支えあい、一人ひとりが生きる喜びを感じることができるよう、「ともに生きる力」を育むことを目標とした教育でもあります。
- 人は一人ひとりみんな違うということ、そして、違うがゆえに一人ひとりが尊重されなければならないという理念に立って、「違うことは素晴らしい」という“違いを豊かさ”にした教育活動を推進していかなければなりません。
- それだけに、学校が地域社会と連携しながら、子どもたちが互いに人間的に成長しあえるような福祉教育を進めていくことは重要であるといえます。子どもたちが、障がい者や高齢者などとの出会いやふれあい体験などを通じて、生命の尊厳や人間の生き方について学び、それぞれの立場や心情を思いやり、互いに支えあうことの素晴らしさにふれるような教育活動を創造していくことが重要です。



### (3) すべての人々の生き方にかかわる教育活動

福祉教育は、私たちの社会の中で、人々が一人残らず幸せであることを願い、追求する教育活動であり、それは一部の人のための教育活動ではなく、すべての人々にかかわる教育活動であるといえます。

- これまで長い間、福祉といえば障がい者や高齢者、あるいは生活に課題をかかえた人など、社会の特定の人々について考えることだととらえがちでした。つまり、社会的に「弱い人」「気の毒な人」「かわいそうな人」を助ける弱者救済的な内容が福祉であると理解されてきました。
- しかし、これからの(本来の)福祉は、人々が平和で幸せに生きたいという願いにかかわる課題として広くとらえるべきであり、福祉を他人事としてではなく、自分自身の課題として理解し認識することが大切です。
- 福祉という言葉は、英語で「*welfare*」(ウェルフェア)といいますが、これは「よい暮らし」という意味で使われてきました。しかし、国際機関や欧米諸国では、積極的な人権尊重の理念に立脚して、他者との関係を重視しながら自己実現を保障するという意味あいをもつ「*well being*」(ウェルビーイング)という「よりよく生きる」という用語の方がより多く使われるようになってきました。それは自己実現を自己中心的に追及するのではなく、他の人とともにによりよく生きるというノーマライゼーションの理念に立ち、相手との結びつきや関係を重視する価値観に立っているからといえます。
- 子どもたちが、ふるさととなるわが町を、福祉のこころに満ちあふれた心豊かな生活を営めるやさしい社会にする担い手となることが福祉教育のねらいです。



小学生と高齢者とのふれあい交流

## 2. 福祉教育の指導内容

子どもたちは、学校生活の中でいろいろな活動を通して、子どもどうし、あるいは教職員との間で様々なふれあいを体験しています。それらの体験が人間としての成長の糧となり、思いやりの心や助け合いの心、協力すること、我慢することなどを学びとっています。そうして人間関係を深めながら仲間づくりを行い、友情の輪を広げているのです。

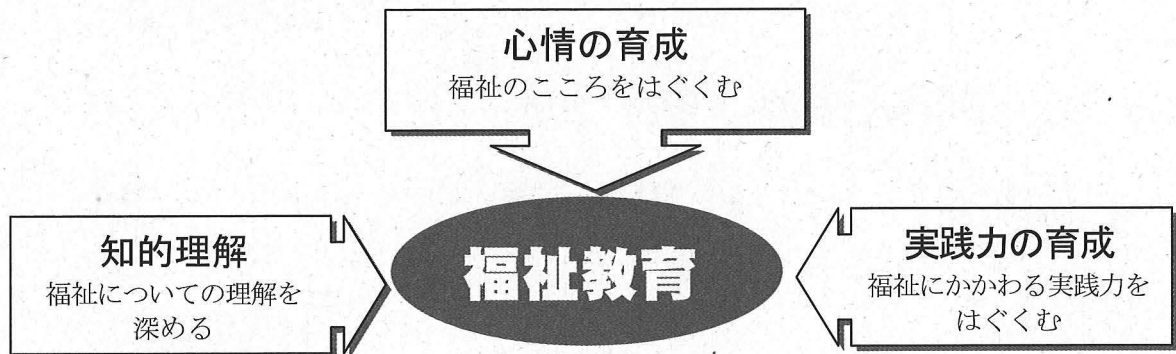
このように、学校では、すでに福祉教育を進めるための素地は十分培われているといえます。

### (1) すべての教育活動を通して進める

- 福祉教育は、子どもの発達段階、学校の実態や地域の特性を生かし、学校におけるすべての教育活動を通して、意図的、計画的に進めなければなりません。

- 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動などは、それぞれ固有の目標をもっていますが、それぞれが、子どもの生活と結びつき、子どもの生活の中に生かされ、日常生活の中で生きて働くものとなり、そして、それらの活動が統合した実践こそが福祉教育そのものといえます。
- よって、体験学習、施設訪問といった取組みを行うだけでなく、様々な教育活動につながるよう、相互に補い、組み合わせていくような視点が大切です。

## (2) 3つの側面からアプローチ



### ① 福祉のこころをはぐくむ(心情の育成)

福祉のこころは、自分のことも周りの人も大切にする精神であり、これを基盤として、公共奉仕・社会連帯の精神を高めさせることが大切です。そのため、全教育活動を通して、生命を尊重する心、自立心や思いやりの心、助け合い協力する心を育てる必要があります。具体的には、人権尊重をテーマにした教材を取り上げて指導に生かしたり、教科の指導の観点や内容の工夫を行ったり、子どもの生活の中にある様々なできごとを取り上げ、それを自分の日常生活と関係づけて自分自身の生き方をみつめさせることなどにより、情操や感性を高め、豊かな人間性を培い、豊かな心情の育成を図ることが大切です。

### ② 福祉についての理解を深める(知的理解)

福祉を理解するためには、次の3つのことを理解することが必要です。

#### ア. 福祉そのものを知識として学ぶ。

社会の仕組みや制度を理解するとともに今日の社会福祉のあり方を知ることです。

#### イ. 福祉に関する現状を知る。

障がい者や高齢者あるいは生活に課題をかかえた人などのおかれている状況や立場、障がい者や高齢者本人や当事者を支える周りの人々の思いや願いをきちんと受けとめ理解することです。

#### ウ. 福祉に関する取組みを知る。

障がい者や高齢者、あるいは生活に課題をかかえた人などに対する配慮や社会福祉に関わる様々な施設、機関などについて理解を深めたり、実際に町にある点字ブロック、ワークショップなどの役割を考えたりすることです。



このような学習をすることで、福祉に関する理解と関心を深め、それが実践化への動機づけとなって、主体的で積極的な実践意欲を高めることにつながっていきます。

### ③ 福祉にかかわる実践力をはぐくむ(実践力の育成)

福祉に関する知的理解や豊かな心情を自分自身のものにするためには、幅広い体験的な活動を通して、身近な人々とのふれあいを深め、学ぶことにより、福祉にかかわる実践力をはぐくむことが大切です。

例えば、支援学校や支援学級との交流や共同学習、高齢者や障がい者施設への訪問、ユニセフ募金やボランティア活動などの体験が、実践への心がまえや積極的な態度を養っていきます。

以上の＜心情面＞＜知的面＞＜行動面＞の育成にかかわる3つの目標は、それぞれ別個のものではなく、すべての教育活動を通して相互に関連しあい、達成されるものです。特に、小学校では、体験活動を通して「福祉のこころ」を育てることが大切です。



このような学びは、いじめのないクラスづくり、子どもたちが豊かに学ぶことのできる人権が尊重された学校づくりにつながっていくことでしょう。

## 3. 福祉体験からボランティア活動へ — 思いやりを行動へ —

### (1) 子どもの発達段階に応じた体験的な学習を取り入れる

- 福祉教育を進めるにあたっては、子どもの発達段階に応じた体験的な学習を取り入れることが大切です。特に、幼少期・小学校段階での福祉体験は、みずみずしい感動を伴うものであり、ごく自然な行動として子どもたちが福祉のこころを培うことが期待されます。また、豊かな人間性の形成やその後の健全なパーソナリティの発展の上で、このような体験をもつ意味は大きく、子どもの健全育成に極めて有効です。



アイマスクによる体験活動

- 実際に、わかるということは、体で確かめたり覚えたりして、体全体を通して得られるものであり、人間的な共感は、いろいろな人々とのふれあいを通して、理屈を越えて体得するものです。体験を重ねながら、多様な人々とのふれあいの中で、感動すること、内省すること、我慢すること、自主的に行動すること、また、自分自身の中に偏見を発見し、自己変革をすることなどの態度が育っていきます。
- 様々な体験が次の福祉の実践を促し、自立的、自発的なボランティア活動へとつながっていくことでしょう。

## (2)「福祉のこころ」に根ざしたボランティア活動

- ボランティア活動は、個人の自由意志に基づき、その技能や時間などを進んで提供し、他人や社会に貢献する活動です。その特徴は、①自発性、②無償性、③公共性です。ボランティア活動は、自分を生かすとともに、特定の個人や地域社会などの人々の役に立つ活動であるので、子どもたちは、この活動を通じて、自分が社会の他の人たちの役に立ちうる存在であると実感し、社会における人々との連帯感を醸成することになります。
- ただ、ここで留意しなければならないことは、ボランティア活動の根底には「福祉のこころ」がなければならないということです。普段は身近な障がいのある仲間や高齢者などが困っていても何の支援もせず、無関心でありながら、いざ、自然災害が起こった時にだけ、ボランティア活動をするというのでは、「福祉のこころ」に基づいた永続性のあるボランティア活動とはいえないでしょう。
- 日常生活の中であたり前のこととして「福祉のこころ」に基づいた実践を行い、その活動が大きく飛躍してボランティア活動へとつながっていかねばなりません。教育において重視しなければならないのは、日常の実践活動であり、日常的に実践活動を行っている子どもたちはボランティア活動をスムーズに取り組むであろうと期待できます。



幼児から高齢者までの三世代交流会に  
ボランティアの中学生が参画  
〔地域のシルバー&チャイルドまつり〕



高齢者とボランティアの  
中学生との交流  
〔地域の敬老行事(土曜サロン)〕



## 第2章 福祉教育の進め方

### 1. 福祉教育のカリキュラム作成のポイント

児童・生徒の発達段階に応じて、学校として6年間（3年間）の長期計画のもとで、ねらいを明確にすることが必要です。その際には、学校教育目標と福祉教育の目標を関連させ、学校全体として共通理解しておくことが大切です。

### 年間指導計画の作成のポイント

#### 全教育活動を通して実践的な態度を育成すること

- 福祉教育は人権尊重の精神に根ざした教育活動であり、国語や社会などの各教科、人権教育、特別支援教育、道徳教育、平和教育など、様々な「教育」と共通の基盤をもつものであることから、それらを並列的に扱う発想ではなく、互いに補いあって組み合わせられるよう横断的・総合的にカリキュラムを作成する。
- 聞き取り学習や体験活動などを通して、障がい者や高齢者などの生き方や取り巻く課題を学び、実践的な態度を育成する指導の観点をいれる。
- 障がいの特性、障がい児（者）、高齢者、その周りの人々などの状況や社会福祉を広く理解するという観点から、学年の系統性を考慮する。

#### 身近な人への思いやりにつなげること

- 様々な取組みにより、身近な障がい児（者）や高齢者への理解、いじめのないクラスづくりなど、児童・生徒の日常生活につながるようにする。また、学校に在籍する障がいのある仲間と「ともに学び、ともに育つこと」を通して、より深く理解するという観点を盛り込む。

#### 地域に根ざした交流を行うこと

- 地域に根ざした福祉活動になるよう、地域の支援学校や障がい者・高齢者の施設などとの交流を積極的に組み込み、地域のニーズにあった学習活動を展開しながら、児童・生徒に対してエンパワーメントを促進する。（個々がもつ能力を引き出し、児童・生徒自らが問題解決に向かうことができるように援助する。）



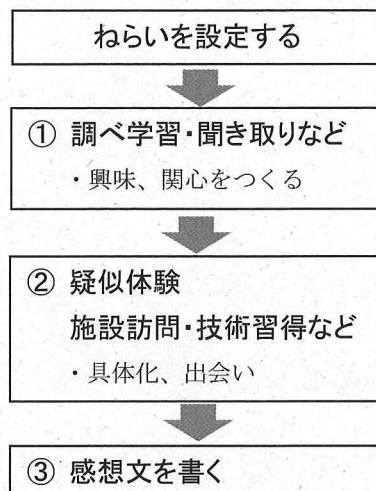
#### <第2章 参考資料>

- |                            |                        |
|----------------------------|------------------------|
| ○ 福祉教育実践ハンドブック             | （発行：社会福祉法人 全国社会福祉協議会）  |
| ○ 先生のための福祉教育ガイド            | （発行：社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会） |
| ○ 福祉の心の種をまく                | （発行：社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会） |
| ○ 共に生きること共に学びあうこと          | （発行：大学図書出版 原田正樹）       |
| ○ 「ともに学び、ともに育つ」障害教育の充実のために | （発行：大阪府教育委員会）          |

## 2. 福祉教育の指導方法

### (1) これまでの福祉教育の課題

- これまでの学校における福祉教育のプログラムは、右図のようなパターンが多かったのではないのでしょうか。
- 車椅子体験やアイマスク体験、高齢者体験などの体験学習は、指導者がそのねらいをしっかりとおさえないと、子どもたちが、少しの体験であたかも相手を理解したかのような一面的なとらえ方をしてしまったたり、高齢者や障がいのある人を、「大変な人」「かわいそうな人」という一面的なとらえ方をしてしまうような「貧困的な福祉観の再生産」(日本福祉大学：原田正樹准教授)に終わってしまう危険性があります。



### (2) 指導のポイント

#### 体験学習の目的を明確にすること

- 疑似体験自体や点字や手話などの技術習得が目的ではありません。疑似体験の目的は、高齢者や障がいのある人が安心できるサポートとは何かを考えたり、そのための人とのつながりを構築したりすることにあります。手話や点字学習の目的は、視力や聴覚に障がいのある人が社会参加を図る際のサポートのあり方を考えたり、当事者とのコミュニケーションを実際に図るためであるべきです。体験学習の目的をおさえ、子どもたちに主体的に考えさせ、その後の振り返りをしっかりと行うことが重要です。

#### 主体的に考える力を育てること

- 福祉教育は、現実に行っている現在進行形の問題を学習素材としているという特徴があり、現実の課題に向き合う学習であるため、誰も確実な答えをもっているわけではありません。
- 「正解を教わる」のではなく、「解決策を考える」という性格を帯びています。受動的に知識や情報、価値観を受け取るだけではなく、児童・生徒自らが主体的に考え、解決に向けてのヒントをつかみとることが求められます。

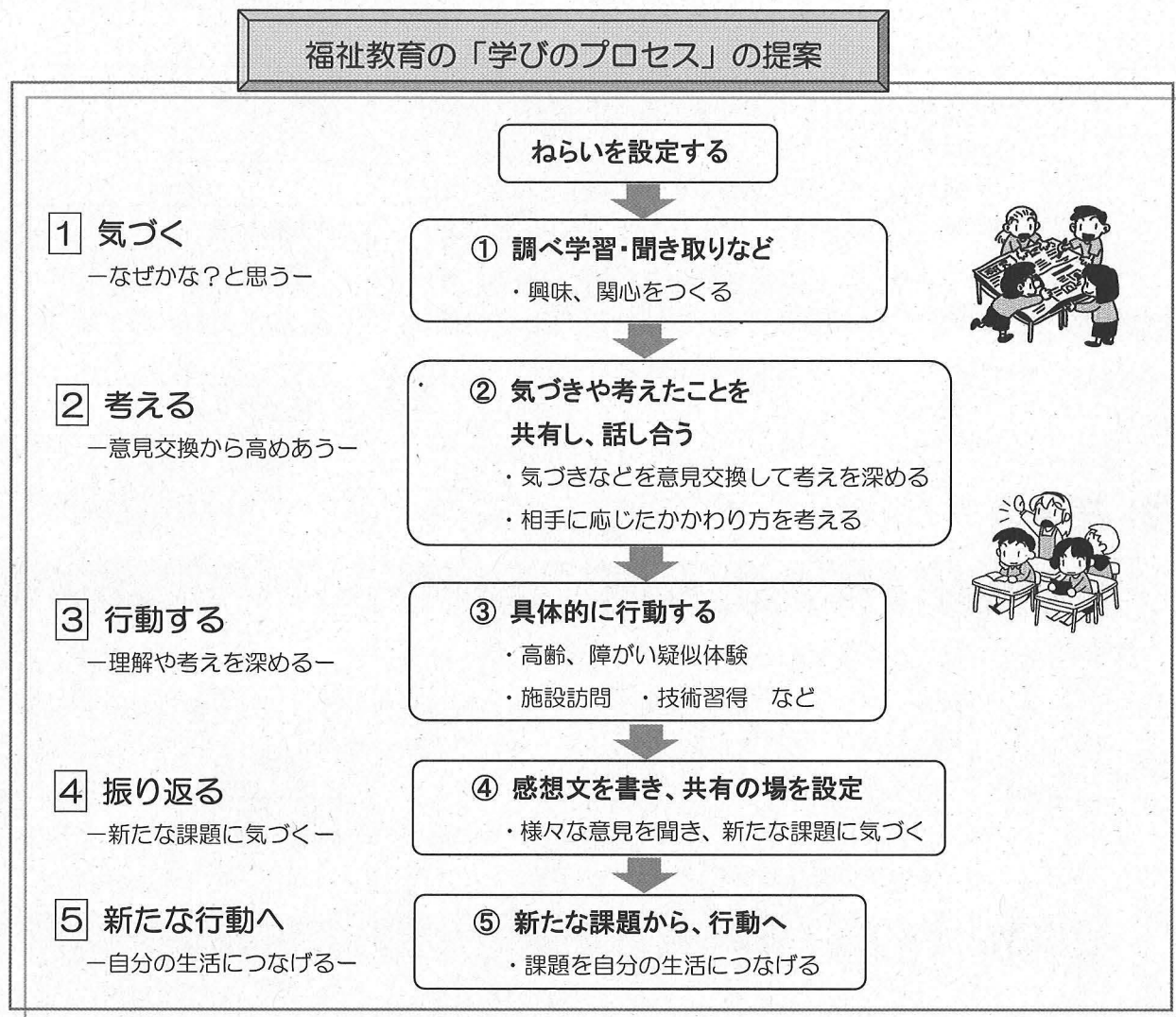
#### 事実を、自分とのつながりとしてとらえること

- 単なる客観的な知識としてではなく、自分とのつながりとして事実をとらえ、解決に向けての行動を起こすことにつなげるためには、「実感としてわかる」ことが不可欠になります。
- 自分にとって関係のあるものとして福祉を学ばないことには、問題解決に向かう行動には決してつながっていきません。充実感をともなった学びをもたらすものとしての体験学習の効果が注目されます。



### (3) プログラムの提案

子どもたちの心に響く、福祉教育の「学びのプロセス」をつくるために、これまでのスタイルに加えて次のような要素を取り入れたプログラムを提案します。



#### ねらい—学習目的・ねらいを定める—

子どもたちが何について学ぶのか、最終的に子どもたち自身の身近な生活につながるのか、学びの興味や関心を明確にして学習素材を定めます。

#### 1 気づく—なぜかな？と思う—

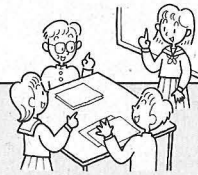


子どもたちが障がいのある人や高齢者などと出会って、思いや生活について調べるとき、多くの場合において自分の認識を新たにする（気づき）があります。

例えば、障がいのある人の思いや生活を聞き、障がい者を取り巻く社会の課題に気づきます。また、障がいのある人と自分との違いや同じ部分に気づいたり、人間の心と体の持つ力について驚いたり感動したりすることもあるでしょう。さらに、障がいのある人や周りの人の、あたたかさやひたむきさなどにふれて、何かを感じ、考えていくこともあるでしょう。

まず、子どもたちが「なぜかな？」「もっと知りたい」と思えるような場を設定しましょう。

## 2 考えるー意見交換から高めあうー

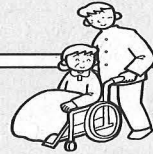


子どもたちは、出会いや調べ学習での気づきなどを意見交換することで、考えを深めていきます。

意見交換が活発になり、考えが深まっていくためには、事前に自分自身の意見をしっかりと考えたり、話し合うテーマを明確にしたりすることが必要です。

その際には、相手と相互に理解するためには、「どのようにかわっていくのか」ということを考えることが重要です。ここでは、障がいの特性や支援・介助の仕方などの一般的な知識と、一人ひとりの相手にあったかわり方や自分自身をどう理解してもらうかなどを試行錯誤しながら考えていく過程が大切です。

## 3 行動するー理解や考えを深めるー



自ら「課題」意識をもち、人と人とのつながりを大切にしたいと思うと、自然にいろいろな「行動」につながるものです。

②で考えた「かわり方」を、人とつながる具体的な行動（福祉施設訪問、地域のボランティア、募金活動など）に移したり、ポスターや文章表現で啓発活動を行ったり、障がいのある人とのコミュニケーションを図るため、車いすの操作や手話や点字などを学習することもあるでしょう。それぞれの行動の仕方や内容は様々だと思います。

このような体験をすることにより、理解や考えがより深まっていくことでしょう。

## 4 振り返るー新たな課題に気づくー

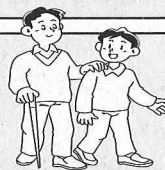


行動し、実際に人と関わることにより、新たな「気づき」があります。そのような「気づき」を、周りと共有すると、新たな「課題」がみえてきます。

その際には、出会いや体験を通して学んだこと（「気づき」）が、身近にいる障がいのある仲間や高齢者、幼児などへの理解から行動につながっていくことが重要です。

そんなとき、子どもたちは「ちょっとかわった自分」に気づくことでしょう

## 5 新たな行動へー自分の生活につなげるー



＜新たな行動の例＞

- \* 身近な仲間や家族が困っていることに敏感に気づき、積極的に助けることができるようになる。
- \* 児童会（生徒会）や学年、学級でのボランティア活動や募金活動に取り組む。
- \* 子ども会や社会福祉協議会などの地域の福祉活動に積極的に参加するようになる。
- \* 障がいのある人とコミュニケーションをもっととりたくなり、点字や手話などの学習をする。
- \* 地域のフェスティバルを行う際に、障がいのある人も参加しやすいような配慮を考えて企画する。
- \* 人は一人ひとり違う存在で、それぞれの特性があり、様々な可能性を秘めていることを理解し、周りに対する偏見がなくなったり、自尊感情を高めて意欲がもてるようになったりする。
- \* 障がいのある人や高齢者が「どう生きてきたか」にふれて人としての知恵を学び、改めて自分の生き方を振り返り、前向きに生活できるようになる。



### 3. 福祉教育を進めるためのポイントQ&A

**Q1**

「疑似体験」「施設訪問」などの体験を行う際、児童・生徒が、障がいや高齢は「大変だ」「かわいそうだ」「だから助けてあげよう」という一方的な考え方をしないようにするポイントは？



**A1**

#### 目的やねらいを明確にして行う

- ねらいがはっきりしないままになんとか行われ、障がい者や高齢者に出会ったら「助けてあげましょう」などといった一方的な印象を与えるだけの疑似体験では、相手の気持ちを理解できません。
- 疑似体験は、あくまで「気づき」の導入の一つであって、当事者と交流して思いや生活を聞き取るなどの、その前後の展開が不可欠です。
- 生命の大切さや人間の尊厳を学ぶ中で、疑似体験により「老いる」とは、「障がい」とはどんなことなのかを理解することが重要であり、目的やねらいを明確にして、関わる指導者全員でプログラムを検討し、共通理解しておくことが大切です。

#### 双方向の学びあいを大切にする

- 施設訪問では、「してあげる」という、支援する側の視点だけでプログラムをつくるのではなく、相手が何を望んでいるのかを考えて、相手との交流を通して「学びあう」という視点が大切です。
- 例えば、施設訪問において児童・生徒が出し物を披露し、プレゼントを届けるという一方的なプログラムではなく、利用者と一緒に楽しんだり、学びあったりするなどの交流を通じて、ポジティブな姿（イメージ）をとらえ、その存在の尊さを知ることが重要です。

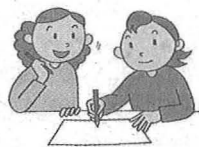
#### 「振り返り」と「周りとの共有」を大切にする

- 従来の福祉教育では、事前学習に重きをおく傾向があり、体験の後は「感想文」を書いて終わりというような「振り返り」が十分になされていないプログラムがありました。
- しかし、この「感想文」から始まる授業こそが大事であり、一人ひとりの「振り返り」によって、自分自身が確認した「気づき」や「変化」が、「周りとの共有」によって刺激を受け、さらなる「気づき」へと向かうことでしょう。
- 自分とは違う「気づき」や角度の違う視点にふれることによって、一つの体験からテーマに対する視野が格段に広がり、新たな「課題」がみえ、行動につながっていくでしょう。



**Q2**

手話や点字の技術習得により、コミュニケーションの方法として聴覚障がい者とは手話、視覚障がい者には点字というステレオタイプの(固定的・画一的)なとらえ方をしないようにするポイントは？

**A2**

### 障がいには様々な状況があることを学ぶ

- 例えば、聴覚障がい者には、音声言語獲得前の失聴者である「ろう者」のひとと音声言語獲得後の失聴者である「中途失聴者」の人がいます。また、聞こえにくいけれど、聴力が残っている人もいます。
- 障がい者や高齢者を取り巻く課題を理解するには、それぞれの障がいの状況に応じて、そのコミュニケーションの方法や支援の方法が様々であることを知ることが重要です。

### 自分と他者との関わりを学ぶ

- 点字や手話を知ることは大切ですが、単に「技術」を正確に覚えることが目的ではありません。コミュニケーションの一環として、いかに相手に近い立場で考えてふれあうことができるかということに目的があります。
- まずは、視覚や聴覚に障がいのある人との出会いを通じて、日常生活の状況を知り、その生き方を学びながら、その人とつながりたいという気持ちを育むことが大切です。
- その上で、安心できるサポートのあり方やコミュニケーションのとり方を考え、よりよい人間関係を構築するためにはどうしたらいいのかを考えていくべきです。

### 様々なコミュニケーション手段があることを学ぶ

- 例えば、聴覚障がい者のコミュニケーション手段は、その人の失聴年齢、聴力、家庭環境などによって異なります。一般的には、聴覚障がい者だから手話ができると思いますが、手話を習得していない人もたくさんいます。聴覚障がい者は一つの手段だけで十分な情報を得ているわけではなく、また、児童・生徒もコミュニケーションを手話のみでとることは難しいでしょう。
- 聴覚に障がいのある児童・生徒に対しては、まず、「書いて伝えること」や「背を向けたままで話さないこと」などが大切であり、教員も板書の際は、背中を見せて話さないことが重要になります。また、話すときは、メリハリのある話し方をしましょう。
- 児童・生徒が聴覚障がい者の日常生活での不便な状況を知り、思いを受けとめ、相手と相互に理解しあうためにはどのようなコミュニケーションのとり方があるのかを考えていく中で、手段としては、指文字、読話、筆談、要約筆記など、聞こえを補う方法が様々あることを学ぶことが大切です。

参考資料

13, 14 ページ

(1) 視覚障がいとコミュニケーション手段に関すること (13 ページ)

(2) 聴覚障がいとコミュニケーション手段に関すること (14 ページ)



## A3

**打ち合わせ**

- 訪問の時期は、風邪が流行しやすい12月～3月までは避けた方がよいと思われますが、施設では年間を通じて様々な行事を予定しており、施設によって都合は異なりますので、できるだけ早い時期に相談するべきです。
- 福祉サービスの利用者の迷惑にならないよう、事前に施設や機関のしおりなどを読むとともに、十分な打ち合わせが必要です。まず、教員が事前に施設に行って利用者の様子を見て、施設についてよく理解した上で、児童・生徒に指導することが重要です。
- 教員の一方的な思いでの実践ではなく、福祉の専門家（施設や機関の方）と教育の専門家（教員）との協働で実践をつくりあげるというスタンスが大切です。そういう取組みを通じて、協働実践そのものの手法のおもしろさと意義に気づくことでしょう。

**援助の仕方や交流の内容**

- 児童・生徒ができる援助や交流については、様々な方法があります。福祉に関心を持ち、学んでくれる人が増えることは福祉従事者にとってうれしいことであり、利用者も子どもがいると活気があって楽しいと思う人はたくさんいます。児童・生徒に何を学ばせたいかなどの目的や状況を具体的に施設に伝えて相談しましょう。
- かつては、みんなで励まして元気にしてあげましょうといった「慰問」のような視点での出し物やプレゼントをあげるなどの一方的なプログラムになりがちでした。訪問者と利用者との間に関係が築けていない状況でのモノのやりとりの前に、人と人との心のやりとりがまずあるべきです。
- 例えば、高齢者や障がい者から「思い」を聞き取り、「どう生きてきたか」にふれて人としての知恵を学ぶといった、利用者から「学ぶ」という視点を大切にしたいプログラムをつくるのが重要です。

**児童・生徒が主体的に取り組むようにする**

- 指導者側の一方的な思いでつくられた学習プログラムでは、児童・生徒は交流に必然性を感じないでしょう。興味・関心のもてる導入の工夫や、福祉について考える時間を十分に取るなど、児童・生徒の感情や思考の流れに沿って、必然性をもって施設訪問が行われるようなプログラムを組み立てる必要があります。
- 受動的であっても、利用者や施設の方などの教職員とは違う関わりが、「小さな変化」をもたらすこともあります。また、変化には個人差があり、すぐには見えなくても、心の中に「小さな変化」が芽生えていることもあります。
- 受動的な児童・生徒については、気持ちを否定して封じてしまうのではなく、その児童・生徒自身の心の動きや背景に思いをはせたとき、どうすべきかが見えてくるのではないのでしょうか。優しいまなざしで見守りながら、気持ちを揺さぶるような働きかけを模索していきましょう。

## 4. 参考資料

### (1) 視覚障がいとコミュニケーション手段に関すること

#### 視覚障がいとは

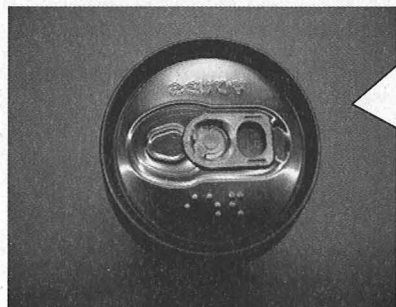
- 視機能（見ること）は、視力、視野、色覚、明暗順応、眼球運動、調節、両眼視などの各種の機能から成り立っています。視覚障がいとは、これらの機能のいずれかが低下したため、見ることが永続的に不可能または不自由になった状態を意味します。眼は、外界からの情報の取り入れ口として重要な役割を果たしているため、視覚に障がいがあると、文字の読み書きといったコミュニケーションだけでなく、単独歩行や日常生活動作にさまざまな制約や困難が生じてきます。
- 視覚障がいは、見えにくさの程度によって、大きく「盲」と「弱視」に分けられます。一般的に、「盲」とは矯正視力がおおむね0.02未満で、視覚以外の感覚を用いて学習や生活を行う必要がある状態です。「弱視」は両眼の矯正視力がおおむね0.3未満で、視覚による学習や生活が可能です。しかし、視機能の障がいや見え方が千差万別であるため、文字の拡大や弱視者用レンズ等の特別な配慮が必要となります。
- 他にも、「視野狭窄」「色覚障がい」「光覚障がい」などがある人もいます。

#### コミュニケーション手段

- 視覚障がいのある人とのコミュニケーションでは、視覚の情報を聴覚（音声等）や触覚（点字等）の情報に置き換えて提示します。街中に設置された青信号でメロディが流れる横断歩道はその一つです。他に、聴覚情報を活用したものには録音図書や音訳テープなどがあります。最近では、デージー図書（世界の点字図書館で合意したフォーマットによってCD-ROMに記録している音声情報）のようなパソコンを利用した音声読み上げソフトや便利な情報機器がいろいろと開発されています。
- また、触覚を利用したコミュニケーション手段である点字は、社会の中に浸透してきており、身近な生活の様々な場面で使われるようになってきました。しかし、点字が読みにくい中途失明の人や、パソコンを使わない人にとっては、音声での情報がやはり重要です。
- 不必要に騒いでアナウンスの邪魔をしたり、点字ブロックの上にうっかり物を置いたり、仕事中的盲導犬を触ったりすることがないように注意するとともに、駅や階段で白い杖をついている人を見かけたら「お手伝いしましょうか。」と優しく声をかけてみましょう。

#### 生活の中の点字

身の回りのいろいろな所に、点字が使われています。探してみよう！



お酒であることが、  
区別できるよう  
なっています。

【缶ビールにある点字】



【洗濯機のスイッチにある点字】



## (2) 聴覚障がいとコミュニケーション手段に関すること

### 聴覚障がいとは

- 聴覚障がいとは、身の回りの音や話しことばが聞こえにくかったり、ほとんど（全く）聞こえなかったりする状態をいいます。補聴器を装用すれば日常生活にさほど支障がない「軽度難聴」から、補聴器を装用しても音や話しことばの聞き取りが困難な「高度難聴」まで、広い範囲にわたる概念です。
- 聴覚障害の種類には、空気の振動（音）を外耳から中耳まで伝達・増幅させる働きに障がいのある「伝音性難聴」、振動を内耳で電気信号に変換して脳に伝える働きに障がいのある「感音性難聴」、両方が混合している「混合性難聴」があります。
- 聴力を補う手段として、音を増幅して鼓膜に伝える補聴器を活用する他に、最近では内耳に電極を挿入し直接聴神経を刺激する人工内耳の手術も行われています。

### コミュニケーション手段

- 聴覚障がい者とのコミュニケーションといえば真っ先に「手話」を思い浮かべがちですが、2001年の厚生労働省による調査によれば、聴覚障がい者自身のコミュニケーション手段の状況は「補聴器」79%、「筆談・要約筆記」24.6%、「手話・手話通訳」15.4%、「読話」6.2%、「その他」17%となっています（複数回答）。
- コミュニケーション支援は、その障がいが先天性か後天性かによって、また、生育歴や障がいの程度の違い、コミュニケーション場面の違いなどによっても異なり、手話、音声、文字など多様な手段が用いられます。身振り動作も立派なコミュニケーションの手段になります。
- 聴覚障がい者とのコミュニケーション＝「手話や指文字」とステレオタイプにとらえて、「手話ができないから」としり込みするのではなく、個人の状態や場の状況に合わせて「手話」と「筆談メモ」、「身振り」と「空書き」などの組み合わせで、相手や場面に応じたコミュニケーションや支援を考えることが大切です。

### 生活をサポートする道具の一例



振動によって、設定した時刻を知らせてくれます。

【振動式アラーム腕時計】

電話お願い手帳の中にある日常によく使うメッセージが書かれたカード。近くの人に協力をお願いする際に使用します。



【電話お願い手帳（カード）】

### (3) 障がい教育に役立つ参考資料

ホームページアドレスは平成 22 年 3 月現在

障がい者（児）を取り巻く課題と、障がいについての理解を深めるための教育を進めるにあたって、参考になる大阪府教育委員会や大阪府教育センターのホームページや冊子です。

①「『ともに学び、ともに育つ』障害教育の充実のために」（大阪府教育委員会 平成 18 年 6 月）

幼稚園から高校までの教育現場での実際の事例を多く取り入れ、障がいのある子どもが共に学ぶ上でさまざまな支援のあり方を示しています。

<http://www.pref.osaka.jp/shochugakko/tomonimanabi/index.html>

②「精神障がいについての理解を深めるために」（大阪府教育委員会 平成 20 年 5 月）

精神障がいについての知見、当事者の思いについて学ぶことのできる資料、学校などでの実践事例や教材をまとめています。

<http://www.pref.osaka.jp/shochugakko/syougaiyouiku/index.html>

③「ともに学び ともに育つ 一貫した支援のために」（大阪府教育委員会 平成 20 年 10 月）

障がいのある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援を効果的かつ継続的に行うための「個別的教育支援計画」の必要性や、作成の参考となる様式例などを示しています。

<http://www.pref.osaka.jp/attach/5023/00000000/shienkeikaku.doc>

④「明日からの支援に向けて」～高等学校における発達障がいのある生徒に対する適切な指導と支援のために～（大阪府教育委員会 平成 20 年 10 月）

教職員が、発達障がいの生徒に対して適切な指導と支援を行う上で役立つように、理論編、事例編、資料編の 3 部構成で編纂されています。

<http://www.pref.osaka.jp/shienkyoiku/koukou-hattatsu/index.html>

⑤「LD、ADHD、高機能自閉症、アスペルガー症候群の理解と支援へ」（大阪府教育委員会 平成 16 年 3 月）

<http://www.pref.osaka.jp/attach/5023/00000000/LDADHD.doc>

⑥「学校全体で取り組む総合的な体制作り（気づきから支援へ）」（大阪府教育委員会 平成 17 年 3 月）

<http://www.pref.osaka.jp/attach/5023/00000000/taiseipanphlet.pdf>

⑦「高等学校におけるLD・ADHD・高機能自閉症等のある生徒の理解と支援のために（改訂版）」

（大阪府教育委員会 平成 19 年 3 月改訂）

⑤⑥⑦は、通常の学級に 6 % 程度はいるといわれる LD、ADHD、高機能自閉症、アスペルガー症候群の子どもへの理解と支援について、わかりやすく簡潔にまとめてあります。

<http://www.osaka-c.ed.jp/tokushiken/5ri-furetto/koukourikaitoshien.pdf>

⑧「大阪府教育センター 支援教育研究室ホームページ」

大阪府教育センターが研究している支援教育についての様々な情報をみることができます。

<http://www.osaka-c.ed.jp/tokushiken/index.html>

⑨「発達障害のある子どもの支援に関する研究

ー LD・ADHD・高機能自閉症等の子どもへの通常の学級を中心とした支援の在り方ー

（大阪府教育センター 平成 19 年 3 月）

<http://www.osaka-c.ed.jp/sog/kankoubutu18/kenkyuu18/chapter05.html>

発達障がいのある子どもへの通常の学級における支援を「学習面」「学習態度」「対人関係面」の 3 項目に分け 43 の事例を用いてわかりやすく示しています。

⑩「みつめよう一人一人を」（大阪府教育センター 毎年度）

それぞれの障がい特性について基礎的な情報や対応・指導の方法のヒントが得られます。

## (4) 指導資料

### ① 「福祉のこころ」を育てる学級づくりに役立つ福祉教育ワーク

福祉教育において体験学習を進めるにあたっては、児童・生徒が不安や緊張をもったままではその効果が半減します。プログラムの初期段階に緊張感をほぐして互いにつなぐことが必要でしょう。

そのような場面で実施すると効果的なワークを6つ紹介します。このようなワークは、「みんなが安心して過ごせる学級」にするために、互いの違いを認めあえるような雰囲気をつくっていくことに有効であり、学級開きなどの適切な時期に実施するのも効果があるでしょう。

## ワーク1 「キャッチコピーで自己紹介」 ～互いを知り合う～

### 手順1

- 一人ずつ、自分自身のキャッチコピーを考えます。
- ※ わかりやすいように、先生がまず例を示します。
- (例) 「声の大きな〇〇先生です。」



### 手順2

- 先生の隣から、一人ずつ順番に自分のキャッチコピーと名前を言って自己紹介します。
- 2番目以降の人は、自分より前に自己紹介した人全員のキャッチコピーと名前を言ってから、自分のキャッチコピーと名前を加えて自己紹介します。
- (例) A 「声の大きな〇〇先生の隣のサッカーが得意なAです。」
- B 「声の大きな〇〇先生の隣のサッカーが得意なAさんの隣の漫画を描くのが好きなBです。」

### 手順3

- 前の人の自己紹介を覚えきれなかった時には、その人からまた自己紹介を始めます。

### (留意点)

- \* 記憶ゲームではないので、忘れた時には横の人に聞いてよいことを、あらかじめ伝えておきます。
- \* 忘れたり、間違ったりしても大丈夫！とみんなが思えるような楽しい雰囲気づくりを心がけます。

### <ねらい>

- \* 新しいクラスになった時に、楽しい雰囲気の中、短時間で自己紹介ができます。前の人のキャッチコピーを覚えようとして注意して聴くことで、友だちの良いところや好きなものなどを知り、お互いに理解が深まります。
- \* 年度はじめの「自己紹介」としてだけでなく、「自己PR」として日頃のクラス活動にも取り入れることができます。「私の自慢」「読んで面白かった本」「幸せだなあ、と感じる時」など、テーマを決めてキャッチコピーを考えてもよいでしょう。



## ワーク2 「私の仲間はだれ？」

～コミュニケーション力と仲間の大切さ～

### 手順1

色の異なるシールを何種類か用意して、先生が見えないようにして、子どもたちの背中にどの色かのシールを貼ります。

### 手順2

子どもたちに、言葉を使わずに同じ色のシールの人とグループになるように指示します。

### 手順3

各グループができたら、子どもたちに「どうやって同じ仲間をさがしたか。」  
「今どんな気持ちか。」を聞いてみます。

### 手順4

色のシールが1枚しかなくて、どのグループにも入らないひとりだけのグループの子どもに、どんな気持ちか聞いてみます。

### <ねらい>

- \* 言葉が使えない代わりに、効果的な表情や身振り動作、身体接触などの豊かなノンバーバルコミュニケーション（非言語コミュニケーション）を体験することができます。  
何とか友だちに同じ色であることを伝えようとすることで、互いに伝え合おう、つながり合おう、仲間になろうという気持ちが高まります。
- \* 「自分には見えないものが人から見えていることがある。」ことに気づきます。
- \* 色のシールが1枚だけしかなかったときに自分だけ仲間がいない寂しさや心細さを体験することは、仲間の大切さや少数派の気持ちを想像することにつながっていきます。

<ワーク：1～6の参考資料>

- \* 「OSAKA人権教育ABC－人権プログラム－」（大阪府教育センター）
- \* こどもエンパワメント支援指導事例集（大阪府教育委員会）
- \* 「わたし 出会い 発見 part6」（監修 森 実・新保 真紀子：大阪府人権教育研究協議会編）

## ワーク3 「私の宝物？」 ～多様な価値観～

### 手順1

「わたしの宝物」を6つ考えます。  
紙を一人に6枚ずつ配り、1枚に1つずつ、  
自分の考えた宝物を書きます。



### 手順2

全員が紙をもって二人1組でじゃんけんをして、勝った人は相手の紙の中から好きなものを1つもらいます。  
決められた制限時間内に、相手を変えながらじゃんけんを繰り返します。

### 手順3

終わった後、  
「友だちは、どんな宝物をもっていたか。」  
「自分の宝物が相手に取られたら、どんな気持ちになったか。」など、  
感想を話し合います。

### <ねらい>

- \* 「人それぞれ、大切にしているものがちがう」ということを知ることは、価値観の多様性に気づくことにつながります。「こんな宝物があるんだ」という新しい発見や、「他人はそう思わなくても、その人にとってはかけがえのない大切なものなんだ」という気づきから、多様な考えを認め合う集団が生まれてきます。「みんなちがって、みんないい」という学級づくりに役立つことでしょう。
- \* 自分の宝物がなくなってしまった時の寂しさや喪失感を通して、大切なものを失った時の想いは相手も同じなんだという他者への共感が生まれ、自分も相手も同じように尊重しようという気持ちが育ちます。

## ワーク4 「3歩下かってこんにちほ！」 ～相手への信頼感～

### 手順1

全員が2つのグループに分かれて、向かい合って2列に並びます。  
向かい合った二人がペアになります。

### 手順2

パートナーが確認できたら、お互い向き合った状態で両手をつなぎ、  
そのまま目をつぶります。

### 手順3

目をつぶったまま、両手を離してお互い3歩ずつ後ろに下がります。

### 手順4

今度は目をつぶったまま、3歩ずつ前進してパートナーと両手をつなぎます。  
手をつなげたペアは、その場で座ります。

うまく手をつなげなかったペアは、目をあけて、もう一度、手順2からやりなおします。

### 手順5

終わった後、うまくいくコツや難しかった点などを聞きます。

### (留意点)

- \* 目をつぶることに不安や抵抗を感じる子どももいるので、無理強いないように配慮します。
- \* 後退・前進するときには、教師がゆっくり号令をかけると、わかりやすいでしょう。
- \* 目をつぶって動く際に、子どもどうしがぶつかったり、転んでけがをしないように気をつけましょう。

### <ねらい>

- \* 相手のいる場所がわからない不安な状況の中で行動するためには、「相手とつながろう」という強い気持ちを持ち続けることが必要です。

前方には相手がいて必ず自分の気持ちに伝えてくれる、自分とつながるために同じように行動してくれる、という思いがなくては前に踏み出すことができません。

見事、手をつなげたときに、相手に対する信頼感を実感することでしょう。



## ワーク5 あなたの「いいところ」探し

～相手のよさに気づく、自己肯定感～

### 手順1

6人ずつのグループになります。一人1枚ずつメッセージカードを受け取り、自分の右隣の人の名前を書いて、その人の「いいところ」を紙の1番下に書きます。

### 手順2

書けたら、書いた面を内側に折り曲げて、他の人に読めないようにして左の人に渡します。

### 手順3

同様にして、右側の人から回ってきたメッセージカードに、当人の「いいところ」を書き込み、折り曲げて左側の人へ回していきます。

### 手順4

最後は、5人全員が書き込んで細く折ったメッセージカードが、本人に渡されます。それを読んだ時の気持ちを、グループのメンバーに伝えます。

### (留意点)

- \* いいところについては、抽象的なことではなく、できるだけ具体的に気づいたことを書くようにします。

### <ねらい>

- \* 自分とクラスの友だちのよさに気づき、お互いの良さを認め合います。
- \* 自己肯定感と他者への共感を育てます。

### 「あなたへのメッセージカード」

#### ( ○ ○ ) さんへのメッセージ

- ◇ こんないいところがあるよ。
- ◇ こんな意外なあなたを発見したよ。

← 5人目

← 4人目

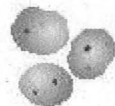
← 3人目

← 2人目

## ワーク6 ジャガイモと友だちになろう！

～相手を知ることの大切さ、偏見や先入観への気づき、自分のよさの再発見～

【準備物】 人数分のジャガイモとワークシート



手順1 ワークシートを1枚ずつもらいます。

手順2 袋の中から、一人につき1個、自分のジャガイモを選びます。  
ワークシートの項目を書き込みながら、ジャガイモと関係をつくります。

手順3 班をつくって、ジャガイモを見せながら、その紹介をしあいます。

手順4 お別れ前に1分間、じっとジャガイモを観察した後、全部のジャガイモを集めて袋のなかにいれ、よく混ぜ合わせます。  
ジャガイモをバラバラに広げ、その中から自分のジャガイモを探し出します。

手順5 最後に、ジャガイモと別れたときの気持ち、再びジャガイモを見つけたときの気持ち、このワークの感想を書きます。

### (留意点)

\* 自分のジャガイモを名前と呼んで、友だちのように扱ったり、探し出すときに「〇〇を探せ。」「間違えたらあかん。」という声が出てくると、場が盛り上がって成功します。

### <ねらい>

\* 子どもたちは、ジャガイモを紹介する形で実は自分のことを話しています。ジャガイモに託して自分自身を見つめることで、自分のよさを再発見するきっかけになります。

\* また、「外見は同じように見えながら、一人ひとりを知ってみると、実はみんな違う個性をもっているんだ。」ということを、ジャガイモを通して間接的に感じることができます。

その人を知るためには十分な時間をかけることが必要であり、よく知りもしないで決めつけてしまうことの愚かさや危険性に気づくことは、様々な状況にある友だちに対する先入観や偏見を克服することにつながっていきます。

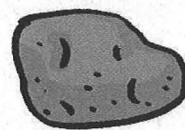
【次ページは、ワークシートの例】

## 「ジャガイモと友だちになろう！」

1:まず、友だちになるきっかけ・・・名前を聞いてみよう！！

◇ わたしの友だちの \_\_\_\_\_ です。(名前をつけてあげよう！)

にがおえ



2:聞いてみよう！！

☆ いま、いくつ？（何才？）

☆ 誕生日は？

☆ チャームポイント（自慢できる場所）は？

☆ 好きな食べ物は？

☆ 趣味や特技は？

3:友だちから話を聞いてあげよう！！

◎ 家族や友だちのことなどについて聞いてみよう。

◎ 夢は何だろう？ 聞いてみよう。

お別れです。・・・最後にひとこと、声をかけてあげて！！



## ② いっしょに考える『しょうがい』のこと（小学3、4年生向け教材）

～平成21年度:大阪ふれあいキャンペーン実行委員会「おおさかふれあいおりがみ」より～

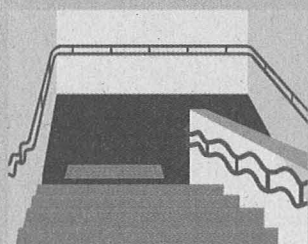
この教材は、平成21年度大阪ふれあいキャンペーン実行委員会（大阪府、府内全市町村、当事者団体、地域福祉団体などで構成）において、障がい者週間を中心とした啓発活動の一環として、小学3、4年生向けに、障がいについての基本的な部分を平易に学べるように作成されたものです。

※ サポートブックなど、詳しくは大阪ふれあいキャンペーン実行委員会ホームページへ  
(<http://www.pref.osaka.jp/keikakusuishin/syougai-info/fureai.html>)

※ 漢字は当用漢字表第3学年の欄までを使用。障がいの表記は「しょうがい」で統一しています。

# ユニバーサルデザインってなに？

大人も、子どもも、しょうがいのある人も、ない人も、  
みんなが使いやすい形を考え出すことをユニバーサルデザインといいます。  
いろんなくふうがみんなのまわりにあります。



かいだんを安全に上り下りできるように、  
手すりやすべり止めがついています。

けいたい電話には、  
ボタンのいちが分かるように  
5のボタンに  
とっきがついて  
います。



牛にゅうパックやカードには、  
開ける方向や入れる方向など  
が分かるように切りかき  
がついています。

だんさやしきがないゆかは、  
足をぶついたり、  
つまずいたりしません。  
車いすも通りやすくなります。



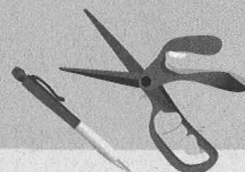
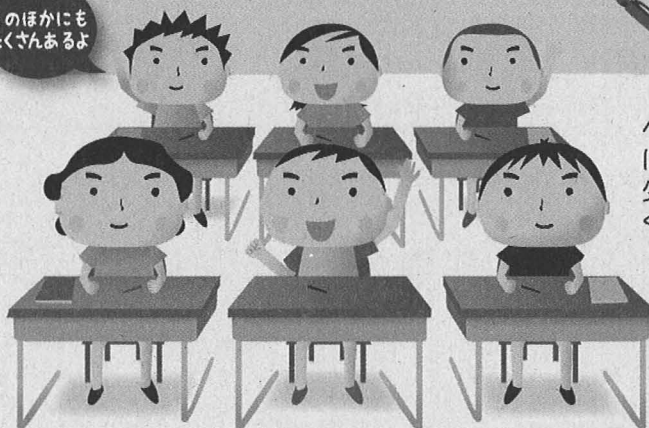
写真提供 国際障害者交流センター（ビッグアイ）

このほかにも  
たくさんあるよ



写真提供 国際障害者交流センター（ビッグアイ）

たもくてきトイレには、  
いろんな人が使いやすい  
さまざまなくふうがされて  
います。



ペンやはさみには、  
にぎりやすかったり、  
少ない力で使えたりする  
くふうがされています。

学校でも  
さがしてみよう！



シャンプーのようき  
には、リンスとまちが  
えないようにデコボコ  
がついています。



せんたくきには、  
だれでも、楽に  
せんたくものが  
出し入れができる  
くふうがされて  
います。

こうかは、それぞれ大きさ、  
重さ、あな、ぎざぎざの  
あるなしでちがいが分かります。



おさつは、横はばのちがいが、  
右下、左下の「しきべつマーク」  
でちがいが分かります。

## 「しょうがい」ってなんだろう？

- くらしの中でふべんを感じたり、こまったりすることがあることを「しょうがい」があるといいます。
- それは、みんなにもかんけいすることがあります。
- だれでも病気やケガをします。
- だから、「しょうがい」のことをみんないっしょに考えましょう。

## みんな同じ。でもちがっていい。

- あなたも、わたしも、「しょうがい」のある人もない人もみんな同じ「人」。
- よろこんだり、おこったり、悲しんだり、楽しんだりするのは同じです。
- でも、全く同じ人は一人としていません。顔や身長、体重が一人ひとりちがうように、みんなそれぞれちがいます。
- 一人ひとりがおたがいのちがいを分かって、おたがいを大事にしましょう。

## いろんな人がくらしています。

- わたしたちのまわりには、目が見えにくい人、耳が聞こえにくい人、車いすを使っている人、体の中のはたらきがうまくいかない人、気持ちや考えをうまくつたえられない人など、いろんな人がくらしています。

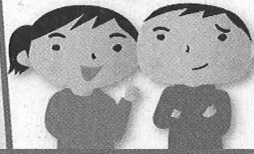
## おてつだいしませんか。

- あなたのまわりでも、ふべんを感じたり、こまっている人はいませんか。
- そんな時、あなたのちょっとしたおてつだいが役に立ちます。
- こまっている人がいたら、まず声をかけて。
- 気軽に「てつだいしましょうか」から始めましょう。





# みんなに できること あるかな？



## 耳にしょうがいがある人

＊聞こえにくい人、聞こえない人がいます。  
＊主に目で見て、まわりの様子などの  
じょうほうを知ります。  
＊手話や相手の話している口の形、  
文字で分かる人もいます。  
＊話せても、ほちよきをつけても、  
よく聞かれない人もいます。  
＊人によつたえ方がちがいます。  
＊みづりも交え、本人によく  
かくにんしましょう。

## 目にしょうがいがある人

＊見えにくい人、見えない人、色がかりにくい人が  
います。  
＊音を聞いたり、手でさわったりして、まわりの様子  
などのじょうほうを知ります。  
＊文字は音声読み上げソフト  
を使ったり、点字を読みます。  
＊なれていないところは、  
一人で動くのはむずかしいです。  
＊できるだけまわりのじょうほうを  
くわしくたえましょう。  
＊みづりも交えてください。  
＊いきなり引っぱたりしないです。  
いっしょに  
歩きまわります。

## 体(てい)にしょうがいがある人

＊手や足や体が動かしにくい人、手や足や体が  
動かさない人がいます。  
＊つえやきん、車いすを使っ  
ていっしょします。  
＊体温がうまく調整できない人も  
います。  
＊かいたんや大きいたんがある人  
では動けないときがあるので、「おつた  
しましようか。」と声をかけてください。  
＊車いすを使っている人とお話をするときは、  
目の高さを合わせてください。



## 体(てい)の中にしょうがいがある人

＊体の内はたらきがうまくいかない人がいます。  
＊外から見てもわからないので、  
ゆづせんせきやちゆうしやじよで  
「しょうがいがある」とを  
わかつてもらえず、こまる  
ことがあります。  
＊つかれやすいので、  
いつでも休んでもらわない  
ことが大切です。

いつもやさしい  
気持ちで  
いようね！

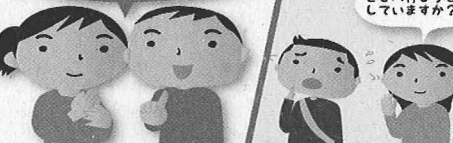


みんなに  
できること  
あるかな？

## 気持ちや考えを うまくつたえられない人

＊むずかしいことや、漢字や計算が  
特に苦手な人がいます。  
＊同じことをくり返したり、「この  
こと」にたわる人もいます。  
＊じゆんぱんがかわるとまじう人  
もいます。  
＊自分の意見を言ったり人にしつも  
んのが苦手な人もいます。  
＊友だちの中に入りにくい人、学校に  
来るのがつらい人もいます。  
＊ゆづくり、ていねいにくりかえして  
せつめいしてください。  
＊図や絵でせつめいするとよく分か  
ります。

クラスみんなで  
考えてみてね！



## みんな知ってる？ こんなマーク こたえ

見たこと  
あるけど...



しょうがいしゃのための  
こくさいシンボルマーク

車いすを使う人をはじめとして、みんなが使いやすい  
たてものやちゆうしやじよ、トイレなどのしせつがあることを  
しめす世界きょうつうのマークです。



しんたいしょうがいしゃ  
ひょうしき

体にしょうがいのある人が運転する車をしめすマークです。



ちようかくしょうがいしゃ  
ひょうしき

耳にしょうがいのある人が運転する車をしめすマークです。



もうじんのための  
こくさいシンボルマーク

目にしょうがいがある人が使いやすいたてものやしんごうなどの  
しせつをしめす世界きょうつうのマークです。



ほじょ犬マーク

目や耳や手足にしょうがいがある人の体の一部となつてはたらく  
ほじょ犬の受け入れをしめすマークです。  
スーパー、ホテル、飲食店などのしせつの入口で見かけます。



オストメイトマーク

人工こうもんや人工ぼうこうをつけた人が使いやすい  
トイレなどのせつびがあることをしめすマークです。



ハートプラスマーク

体の中にしょうがいがある人をしめすマークです。  
このマークを見かけたら、せきをゆづったり、  
トイレを先に使ってもらったりしてください。

<みんな、よくおぼえておいてね！>



## 5. 社会福祉協議会との連携

### (1) 社会福祉協議会の役割

- 社会福祉協議会は、住民の福祉向上を目的とした民間の社会福祉団体として社会福祉法に基づいて全国のすべての都道府県市町村に設置されており、地域福祉を推進する中核的な役割を担っています。
- 近年、高齢化の進行や都市化による近隣関係の希薄化を背景に、地域社会での支え合いが低下してきているといわれています。公的な福祉制度や在宅福祉サービスが充実し、その種類や量が増えてきた一方で、日常生活における軽易な手助けなど、それだけでは対応できない生活課題が数多くあります。さらには、高齢者の孤立・孤独死、児童虐待などは後を絶たず、地域社会が直面する課題はより複雑化し、サービス提供や支援にむすびつきにくい事例がたくさん起こっています。
- これらの制度だけでは解決できない課題などに対し、地域住民が主体となり、民生委員・児童委員、社会福祉施設などの福祉関係者、及び各種団体の参加と協力のもと、誰もが安心して暮らすことのできる地域の実現をめざし、様々な活動に取り組んでいます。

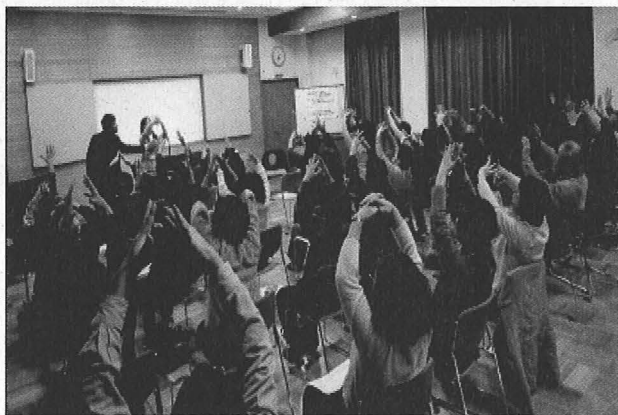


社会福祉協議会のロゴ

### (2) 社会福祉協議会の活動内容

#### ① 小地域ネットワーク活動を推進しています。

- 小地域ネットワーク活動とは、概ね小学校区を単位として地域住民で組織された地区福祉委員会を中心としながら、関係機関との協働で進める住民どうしの支え合い・助け合い活動です。
- 日常生活に支援を要する人が健康面での変調がないか、見守りを兼ねた訪問活動、地域住民が気軽に集えるサロン活動、子どもと高齢者とのふれあい交流などを通じ、誰かが見守ってくれているという安心感をもちながら生活が送れるよう、日常的なつながりづくりを支援しています。



介護予防講座



高齢・障がい疑似体験

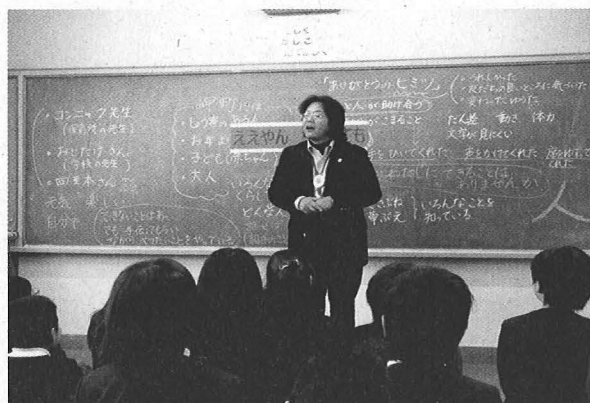
## ② ボランティア活動を推進しています。

- 市町村社会福祉協議会に設置されているボランティアセンターでは、ボランティア活動に関する相談や活動先の紹介をはじめ、小・中学校における福祉教育の支援、車いすや体験装具などの貸し出し、ホームページや広報紙での情報の発信及び啓発を行い、地域の福祉活動の拠点として機能しています。

## (3) 社会福祉協議会との連携で福祉教育の充実を

社会福祉協議会では、これまで学校に対して次のような取組みを行ってきました。

- 授業や活動の企画から実施までのトータルな相談
- 社会福祉協議会職員などによる指導  
〔講演、ボランティア講座、車いす体験、点字体験、手話体験など〕
- 社会福祉協議会の実施している事業の紹介  
〔地区福祉委員会のサロン活動、介護保険事業、障がい者自立支援事業など〕
- 情報提供、紹介  
〔社会福祉施設や当事者団体の紹介、ビデオ教材・福祉機器の貸出など〕
- 社会福祉協議会は地域の様々な人材や社会資源とつながりをもっています。福祉教育に関するだけでなく社会福祉に関する質問や相談も、最寄りの市町村社会福祉協議会まで気軽に寄せることができます。市町村社会福祉協議会によって対応できる内容が異なりますので、各地域の社会福祉協議会に確認してください。



社会福祉協議会の方による講話

#### (4) 社会福祉協議会との連携の進め方(例)

各学校で、社会福祉協議会と連携して福祉教育に取り組む際に、次のように進めてはどうでしょうか。

##### 授業や活動の検討

目的やねらい、内容を明確にしておきましょう。

##### 事前相談

- 社会福祉協議会の担当者に企画の目的や内容について説明し、
    - ・協力していただきたい人、講師や団体、施設の紹介
    - ・企画に必要な時間や経費
    - ・機材の手配
- など、不明な点について尋ねます。企画の段階でも相談に応じていただけます。

「任せる」という姿勢ではなく、一緒に取り組むという姿勢で臨みましょう。

##### 講師・施設の紹介等

##### 打ち合わせ

- 体験学習の講師や訪問する施設などと綿密な打ち合わせを行います。日時やタイムスケジュール、学年、人数、予算、服装、持ち物などについて確認します。
- 安全面や留意する点についても十分な確認をしておきます。児童・生徒の状況も伝えておきましょう。
- 施設には、教員が事前に訪問し、可能な限り、体験しておくといでしょう。
- このような綿密な打ち合わせが、成功の秘訣です。

##### 講師・施設へ依頼文書発行

##### 実施

児童・生徒の感想文を添えるなどして、学んだことや感謝の気持ちを伝えましょう。

##### 講師・施設へのお礼

##### 評価

- 体験だけで終わることのないよう、「児童・生徒が活動で何を感じ、何を学んだのか。」を感想文や話し合いを通して把握し、活動の振り返りや評価を行うことが重要です。
- 社会福祉協議会の担当者に、児童・生徒の活動の振り返りなどの報告をしておきましょう。
- 教員間や社会福祉協議会の担当者とも話し合い、「見えてきた課題から、次に何をどう取り組んでいくか。」について共通理解を図れば、さらに学びが深まることでしょう。



# (5) 大阪府内社会福祉協議会一覧(政令市除く)

地区	市町村	〒	社会福祉協議会 所在地	TEL番号	FAX番号
豊能	豊中市	560-0023	豊中市岡上の町 2-1-15 豊中市すこやかプラザ内	06-6841-9393	06-6841-2388
	池田市	563-0025	池田市城南 3-1-40 池田市保健福祉総合センター内	072-751-0421	072-753-3444
	箕面市	562-0036	箕面市船場西 1-11-35	072-749-1575	072-727-3590
	能勢町	563-0341	豊能郡能勢町宿野 114	072-734-0770	072-734-2623
	豊能町	563-0101	豊能郡豊能町吉川 187 町立保健福祉総合施設 豊悠プラザ内	072-738-5370	072-738-0524
三島	吹田市	564-0072	吹田市出口町 19-2 市立総合福祉会館内	06-6339-1205	06-6339-1202
	高槻市	569-0067	高槻市桃園町 2-1 市総合センター内 8F	072-674-7496	072-661-4901
	茨木市	567-0888	茨木市駅前 4-7-55 茨木市福祉文化会館内 4F	072-627-0033	072-627-0434
	摂津市	566-8555	摂津市三島 1-1-1 市役所 西別館内	06-6383-1111	06-6383-9102
	島本町	618-0022	三島郡島本町桜井 3-4-1 ふれあいセンター内	075-962-5417	075-962-6325
北河内	守口市	570-0083	守口市京阪本通 2-13-1 「さつきホールもりぐち」内	06-6992-2715	06-6993-0134
	枚方市	573-1191	枚方市新町 2-1-35 市総合福祉会館 ラポールひらかた内	072-844-2443	072-845-1897
	寝屋川市	572-8533	寝屋川市池田西町 28-22 市立総合センター内	072-838-0400	072-838-0166
	大東市	574-0037	大東市新町 13-13 市立総合福祉センター内	072-874-1082	072-874-1828
	門真市	571-0064	門真市御堂町 14-1 保健福祉センター内	06-6902-6453	06-6904-1456
	四條畷市	575-0043	四條畷市北出町 3 番 1 号	072-878-1210	072-878-6888
	交野市	576-0034	交野市天野が原町 5-5-1 市立保健福祉総合センター内	072-895-1185	072-895-1192
中河内	東大阪市	577-0054	東大阪市高井田元町 1-2-13 市立総合福祉センター内	06-6789-5550	06-6789-2924
	八尾市	581-0003	八尾市本町 2-4-10 社会福祉会館内	072-991-1161	072-924-0974
	柏原市	582-0018	柏原市大泉 4-15-35 市立健康福祉センター(オアシス)	072-972-6786	072-970-3200
南河内	富田林市	584-0037	富田林市宮甲田町 9-9 総合福祉会館内	0721-25-8200	0721-25-8230
	河内長野市	586-0041	河内長野市大師町 26-1	0721-65-0133	0721-65-0143
	松原市	580-0043	松原市阿保 1-1-1 松原市役所東別館内	072-333-0294	072-335-0294
	羽曳野市	583-8585	羽曳野市誉田 4-1-1 市立総合福祉センター内	072-958-2315	072-958-3853
	藤井寺市	583-0035	藤井寺市北岡 1-2-8 市立福祉会館(ふれあいセンター)	072-938-8220	072-938-8221
	大阪狭山市	589-0021	大阪狭山市今熊 1-85	072-367-1761	072-366-7407
	太子町	583-0991	南河内郡太子町大字春日 963-1 総合福祉センター内	0721-98-1311	0721-98-2111
	河南町	585-0014	南河内郡河南町大字白木 1371 河南町保健福祉センター内	0721-93-6299	0721-93-5299
	千早赤阪村	585-0041	南河内郡千早赤阪村大字水分 195-1 保健センター内 2F	0721-72-0294	0721-70-2037
泉北	泉大津市	595-0026	泉大津市東雲町 9-15 市立総合福祉センター内	0725-23-1393	0725-23-1394
	和泉市	594-0071	和泉市府中町 4-20-4 総合福祉会館内	0725-43-7513	0725-41-3154
	高石市	592-0011	高石市加茂 4-1-1 高石市役所庁舎別館 1 階	072-261-3656	072-261-9375
	忠岡町	595-0812	泉北郡忠岡町忠岡中 2-16-25 忠岡町総合福祉センター内	0725-31-1666	0725-31-3555
泉南	岸和田市	596-0076	岸和田市野田町 1-5-5 市立福祉総合センター内	072-437-8854	072-431-1500
	貝塚市	597-0072	貝塚市島中 1-18-8 保健・福祉合同庁舎内	072-439-0294	072-439-0035
	泉佐野市	598-0007	泉佐野市上町 1-2-9 市立福祉センター内	072-464-2259	072-462-5400
	泉南市	590-0521	泉南市構井 1-8-47 泉南市総合福祉センター内(あいびあ泉南)	072-482-1027	072-482-1618
	阪南市	599-0292	阪南市尾崎町 35 番地の 1 阪南市役所内	072-471-5678	072-471-7900
	熊取町	590-0451	泉南郡熊取町野田 1-1-8 熊取ふれあいセンター内	072-452-6001	072-452-2658
	田尻町	598-0091	泉南郡田尻町嘉祥寺 883-1 ふれ愛センター内	072-466-5015	072-466-8841
	岬町	599-0303	泉南郡岬町深日 3238-24	072-492-0633	072-492-5701
大阪府		542-0065	大阪市中央区中寺 1-1-54 大阪社会福祉指導センター内	06-6762-9471	06-6764-5374

平成 22 年 3 月現在

# 第3章 学校における取組み事例

## 1. 小学校の事例

### ゆびもじはみみのきこえないひとにとってたいせつなんだね ～聴覚障がい理解～

学年等

1年生 特別活動など

ねらい

- ◇ 日常の基本的な手話を学んだり、手話といっしょに気持ちをこめて歌ったりするなどして、手話に親しむ。
- ◇ 聴覚障がいのある子どもの保護者の思いを聞くなどして、学年に在籍する聴覚障がいの仲間を理解する。
- ◇ 地域のボランティア活動をしている方と出会い、「福祉のこころ」を育てる。

#### 【指導について】

学年には2人の難聴の児童が在籍しており、2人とも補聴器をつけているので、周りの児童も聞こえにくいということは理解している。コミュニケーションの手段は主に読話（相手の唇の動きを読み取る）と発声を組み入れた口話で、児童も教職員たちもゆっくりとした言葉で対話をしていた。また、この2人の児童は少しだが手話も使うことができる。そこで、聴覚障がい者にとって、話し言葉以外に手話や指文字で話すことも有効なコミュニケーション手段であることを伝えるため、本校の卒業生で聴覚障がいのある子どもをもつ保護者であり、地域で手話の指導をされている方に指導を依頼した。手話の指導とともに、聴覚障がいのある子どもの保護者の思いを直接聞くことにより、2人の聴覚障がいの児童への理解につながると考えた。

手話を身近なものとして感じることができるよう、口で歌うだけでなく、歌詞をよりどころにして、手や体で歌うことにより、歌詞のイメージをより広く、より深く伝えることができる。そして、心をこめて手話で表現することにより、人と人との温かい交流を育てることができる。指導においては、手話の習得を目的とするのではなく、メロディやリズムにのって、手や指あそびの感覚で楽しみながらやりたい。

また、この取組みの実施にあたっては、まずは教職員の聴覚障がいへの理解が重要であると考え、全教職員対象の校内研修において、指導していただく方に聴覚障がい者の取り巻く状況や家族の思いなどをお聞きした。

取組みの流れ

<全4時間>

- 第一次 聴覚障がいのある子どもの保護者による手話講座・・・・・・3時間  
① あいさつや月日など ② 気持ちの表し方など ③ 歌など  
第二次 福祉委員会の方による手話コーラス・・・・・・1時間

取組み例

第一次

3時間 聴覚障がいのある子どもの保護者による手話講座

#### ① 日常生活の基本的な言葉

- ▽ あいさつ
- ▽ 1月～12月
- ▽ 曜日
- ▽ 動物の名前
- ▽ 好き、嫌い など

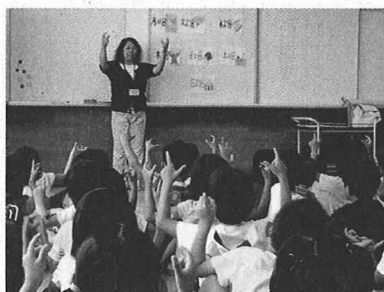
## ② 気持ちの表し方

▽ うれしい、悲しい、  
こわい、楽しい など

## ③ 日常的な基本的な言葉と歌

▽ 仕事の表し方 ▽ 歌（さんぽ） など

- ・曲想を感じ取って、明るい声で歌おう！
- ・歌詞の内容を生かして、手話といっしょに気持ちを込めて歌い、手話に親しもう！



## 第二次

1 時間

福祉委員会の方による手話コーラス

<曲名>

▽ つばさをください ▽ さんぽ ▽ あーおいし  
▽ 海 ▽ ふじさん ▽ きらきらぼし など



### <児童の感想>

### 「しゅわをおしえてもらって」

- たもくてきしつでおばちゃんたちにしゅわでうたをおしえてもらったよ。きらきらぼしはかんたんだったけど、ふじさんはむずかしかったよ。きょうせんせいにゆびもじをおしえてもらいました。じぶんのなまえができてたのしかったよ。
- きらきらぼしやかたつむりはかんたんでした。ゆびもじは、みみがきこえないひとにとってはだいじとおもいます。きょうはじめてゆびもじをしました。でも、はじめむずかしかったけど、だんだんなれてきました。とくに、てもじがたのしかったよ。ゆびもじはみみのきこえないひとにはたいせつなんだねっておもったよ。

- ◎ 手話の取組み実施にあたって、校内研修にて聴覚障がいのある子どもをもつ保護者(手話を指導していた方)の思いをお聞きし、児童への指導に生かした。

### 聴覚障がいのある子どもをもつ保護者の思い (校内研修より)

2歳の誕生日、近くの病院での検査の結果、お医者さんから「聞こえていません」と伝えられました。その時は何の感情もわからず、ただ「どうしたらいいのか…」と思うだけで帰宅しました。言葉の遅れは少し気になっていましたが、まさか自分の子どもの耳に障がいがあるなんて夢にも思っていませんでした。



細かい検査の結果、「感音性高度難聴」という診断でした。電車に乗っていても、電車の走る（ガタンゴトン）音が聞こえないという説明を受けました。そして、週2日A聾学校（現A聴覚支援学校）に通学を始めますが、毎回自然と涙があふれました。「補聴器をつけてもすぐには話せません。今から聞きだめ（言葉の基礎づくり）をして、一年後には必ずうれしいことがありますよ。それまで、いっぱい経験や体験、ことばの海を与えてあげてください。」という先生の言葉に励まされました。

また、「学校ではお母さんは泣かないで（先生がお母さんをいじめているととらえてしまって学校がいやな場所になってしまうから）」、「必ず連れて来て（後は任せてください）」、「兄弟姉妹関係をしっかり作ってください（将来大切な関係になるから）」という先生の言葉も心に残っています。

A聾学校の幼稚部に進み、話す、身振り・手振り、手話、キュードスピーチ（発音発語、読語の補助手段として、口形と手の動きで日本語の音を表す話し方）などいろいろな手段を使い、言葉の力を培っていきました。とにかくコミュニケーションを取り、言葉かけを増やしていきました。

これは、私が一週間に一回書いた日記です。

絵日記も成長に合わせてキュード文字（口形と色で五十音を表す文字）から簡単な文章へ変わっています。

5歳になると、地域の幼稚園にも週一回通園を始めました。

そして小学校入学。就学先はA聾学校の小学部か地域の小学校なのか悩みました。聾学校では元気なのですが、地域の幼稚園ではしょんぼりとした姿が多かったからです。

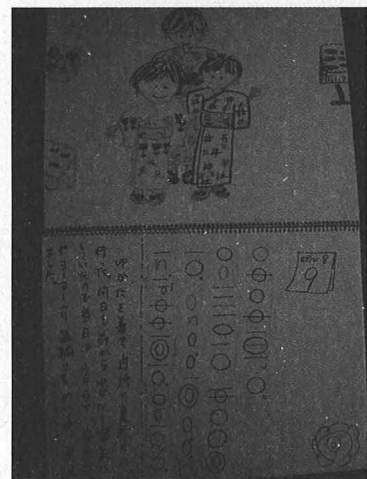
でも、「地域の人たちに娘の存在を知ってほしい」「近所に友だちをつくってほしい」という思いが強く、地域の小学校への就学を選びました。また、地域の幼稚園に行っている時に当時の校長先生から、「地域に帰っておいで」と声をかけてもらったり、小学校の先生が聾学校まで娘を見に来ていただいたり、『学校が受け入れてくれている』と思えたのも大きかったです。

地域の小学校に行くことになり、娘は近所に友だちがいっぱいでき、バスケットという夢中になれるものもできました。

私は自分が小さい頃からこの地域に生まれ、育ってきました。娘に聴覚の障がいがあるとわかってからこの地域から出ようかと考えたこともありました。

しかし、夫が「だからこそ、この地域で!」と言ってくれたのです。どこへでも連れて行っているなど娘のことを話していました。娘が難聴であるということもです。娘には「こうやって人と接するんだ」というのを身をもって示してきました。その姿を見て、私も地域に出て行こう、みんなとつながっていこうと思えるようになりました。

今、私は地域の幼稚園や学校で手話を教えています。幼稚園では「手話のおばちゃん」と呼ばれています。友だちとなじめない子も手話を使うと仲間に入れたりしゃべれたりしています。手話を話せる子が増えたらいいなあと思っています。でも、手話ができないとだめかというと、そうではなく、もっと大事なことがあります。例えば、話をしている時に「わかる?」と合図をしてくれたり、娘の方を見ながら話をしたりするだけで、娘は「自分のことを気にかけてくれている」



「仲間に入っている」と思うそうです。自分の居場所があるという安心感を感じることができるみたいです。そのことをみなさんにも知ってもらい、耳の聞こえにくい人に出会ったら、その人の方を向いて話をしてほしいなと思っています。

### 取組みを終えて

講師は、あいさつや気持ちの表し方など1年生にも十分理解できる内容を準備してくださり、児童らは講師の手話を必死でまね、覚えようと懸命であった。手話が自分にもできるという喜びと感動を3日間の手話講座で味わうことができたことは、大変貴重な体験であったと思う。

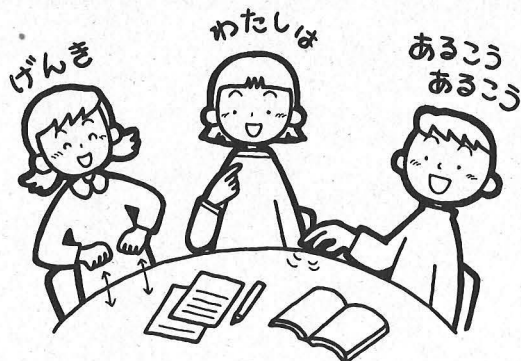
授業後、もっと手話を覚えたいという声も多く聞かれた。また、2人の難聴の児童とも習いたての手話を入れながら対話している光景も見られ、ほのぼのとした気持ちにさせられた。

また、講師は、聴覚に障がいのある子どもをもつ保護者でもあるので、手話の指導とともに、障がいのある児童の気持ちやその保護者の思いについても1年生にもわかりやすいように話していただき、学年に在籍する2人の難聴の児童への理解につながっていった。

今後は、低、中、高学年の発達段階にあわせて、聴覚障がいのある人の状況は個々様々であり、コミュニケーション手段としても手話だけでなく、筆談や読話など、聞こえを補う方法が様々あることを学ばせたい。このような指導の積み重ねを基に、児童たちに豊かな表現力と温かい心を培い、障がいのある人との心の交流を積極的に進めていきたいと考えている。

### 【ポイント】

- ☆ 学校の中で、難聴児童が他の児童とともに学び、ともに生活することが、障がいがある児童のみならず、周りの子どもたちにとっての福祉教育にもつながる可能性を示した実践であり、特に次の3点がポイントとしてあげられる。
- ① 担当教員だけでなく全教員が校内研修にて事前学習を行い、学校全体の取組みとして位置づけている。
- ② 教員と卒業生の保護者との協働参画の実践であり、卒業生の保護者は学校の特別支援教育を支援するボランティアであり、教育基本法の第13条に示されている「学校、家庭及び地域住民などの相互の連携協力」にあたる。
- ③ 手話習得を目的とするのではなく、「手話」をコミュニケーションの方法ととらえ、楽しみながら手話を使って「聴覚障がい児の生活理解」を深め、人間関係の拡大も図っている。(本資料集11頁参照)



# いっしょにいるとあんしん

## ～高齢者との交流～

### 学年等

2年生 生活 「わたしとかぞく」

～おじいちゃん おばあちゃんと いっしょ～

### ねらい

- ◇ 一人暮らしの高齢者を訪問し、昔の遊びを教わったり、昔話を聞かせてもらったりしながら昔から伝わっている知恵を知り、高齢者のやさしさやあたたかさにあふれる。
- ◇ 児童たちの合奏や、紙芝居を聞いてもらったり、手作りのおもちゃでいっしょに遊んだりして楽しい時間を過ごす。
- ◇ 高齢者と交流して智恵を学ぶことで、「福祉のこころ」を育てる。

### 【指導について】

民生委員さんたちは、80才以上の一人暮らしの高齢者のために、家に行き「元気にしてる？変わりない。」と、声をかけたり、月2回食事を届けたり、イキイキサロンを開き、楽しい時間をつくったりしておられる。また、「キッズ・Eyeぼらんていあ」といって、小学生が週1回、民生委員さんと一緒に一人暮らしの高齢者の家に行って学校であったことを話したり、歌を歌ったりしている。

これらの活動には、お年寄りの「孤独死」を出さないという強い思いがあり、クラスの中にこの「キッズ・Eyeぼらんていあ」に入って活動しているAさんがいるので、活動の話をしてもらった。すると「私も行きたい。ぼくも」という声が出たので、民生委員さんと相談し今回の活動につながった。

児童たちの生活を見ると、祖父母と同居している児童は少ないが、近くで暮らしていてよく行ったり来たりしている児童が3分の1以上いた。しかし、どこかに連れて行ってもらうことがあっても、「一緒に遊ぶ」ということはあまりないようだ。まして、曾祖父母ぐらいのお年寄りと一緒に過ごすことは、ほとんどない。また、学校では外遊びなど休み時間を待ちかねているが、家に帰るとゲームが中心で、遊びの幅が狭いように感じられる。そのような児童たちに、昔から伝わっている遊びは、遊びの幅を広げ、より豊かな生活を過ごすための貴重な体験となるであろう。

この活動をきっかけに、身近にいる多様な年齢の高齢者に直接ふれ合い、お互いの顔や名前を覚え、地域の人々とより交流を深めることを大切にしたい。そして、みんなでその遊びを楽しむ中で、身近な人々との接し方や、相手との関わりを大切にする心情や態度を養い、「福祉のこころ」の醸成につなげたい。

### 取組みの流れ

<全5時間>

- 第一次 準備をしよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・3時間
  - ・グループ分け ・役割決め、出し物の相談 ・おみやげ作り、出し物練習
- 第二次 高齢者宅訪問、手紙を書こう・・・・・・・・・・2時間
  - ・高齢者宅訪問 ・手紙を書こう

### 展開例

#### 第一次 3時間 準備をしよう

#### ① グループ分け

- ▽ 活動しやすいように、1グループを4～5人で編成する。
- ▽ 自分の住んでいる地区に入るようにする。
  - ・自分の地区の高齢者と親しくなり、挨拶や言葉かけがしやすくなる。
  - ・おじいさん、おばあさんが、誰の子どもか、誰の孫かを知ることができる。



② 役割を決める。出し物を考える。

- ▽ グループ活動により、リーダーとしての責任や協調性、思いやりを育てる。
- ▽ みんなで協力しながら計画を立てる。
- ▽ 視覚、聴覚など、体に障がいのある方がおられるので、それぞれの状況の方が楽しめるように工夫した出し物を考える。

- ・例えば、紙芝居や「きらきら星」を鍵盤ハーモニカとカスタネットで合奏する。
- ・座っていてもできるこま回しをする。

聞こえるように大きな声で読むね。



「ひまわり」(支援学級)さんで作ったこまをしよう。

③ おみやげを作る。練習する。

- ▽ おじいさん、おばあさんが、あまり動かなくても楽しめるものを考える。
- ▽ あいさつや司会など、自分たちで会を進められるようにする。

第二次 2時間 高齢者宅訪問、手紙を書こう

④ 高齢者宅訪問、手紙を書こう。

- ▽ 高齢者宅を訪問し、昔話を聞いたり、遊びを教えてもらったりする。
- ▽ 児童が紙芝居や合奏をしたりして、楽しい時間を過ごす。
- ▽ 親しみと礼儀をもって、話し方や接し方を考える。

- ・一方的なものでなく、双方向の交流になるようにする。
- ・負の面のみの理解にならないよう、楽しい交流にする。

学 習 活 動	活 動 の ポ イ ン ト など
1 民生委員さんが学校に迎えにくる。輪になって待つ。 ・あいさつをする。「おはようございます。」 「お願いします。」	・民生委員さんにお世話になることを理解させておく。
2 自分の住んでいる地区に行く。 (4～5人で8地区に分かれる)	・車に気をつける。ふざけて迷惑をかけないようにする。
3 一人暮らしの高齢者宅を訪問 ・リーダーあいさつ 「こんにちは。僕たちは、〇小学校の2年生です。」  ・鍵盤ハーモニカとカスタネットで合奏する。 「きらきら星の合奏をします。聞いてください。」  ・紙芝居をする。	・自己紹介をする。誰が来たのかをしっかりと知ってもらう。  ・出し物は、視覚や聴覚に障がいのある方がいらっしゃるので、ゆっくり大きな声(音)で伝える。  ・昔話のように親しみのあるものをする。

- ・手のりごまで、お年寄りと遊ぶ。

「ぼくたちが、見本を見せます。見てください。」

「これは、おみやげに置いていきます。遊んでください。」

- ・おしゃべりタイム



〇〇とこの  
孫か？

学校では今、何を  
習ってんや。

このこまよう回る。  
あんた上手やなあ。

#### 4 帰校

- ・お礼の手紙を書く。

- ・こまは、支援学級の仲間に教えてもらった物を、人数分作って一緒に遊ぶ。

- ・こまは、おみやげに置いてくる。

- ・昔の学校の話や遊びを教えてもらう。

あんたのおじいち  
やんと同級生や！

83 才や。  
ここらはきれい  
な海やってんで。



また来てや。楽しか  
ったわ。ありがとう。

- ・後日、民生委員さんに届ける。



大きな声で、  
はきはきと発表しました。



おもしろい！  
ようまわるわ！  
うまい！うまい！  
パチッ パチッ（拍手）



#### <児童の感想>

#### 「おばあさん・おじいさんと出会って」

- きょうは、おばあちゃんたちとこままわしをしました。BさんとCさんがものまねをしたよ。じこしょうかいをしました。昔の学校のことも教えてくれました。とても楽しかったです。
- きょう、近くのおばあちゃんの家に行きました。おばあちゃんは目があまり見えないことを知ったので、紙しばいもピアノカもしっかり目の前ではっきりとあげました。
- Dさんのおばあちゃんのところに行きました。紙しばいをしんけんに聞いてくれました。ピアノカをしました。えがおで、聞いてくれました。こまをまわしてあそびます。お元気でながいきてください。

○ Eさんのおばあちゃんのところに行きました。かさこじぞうの話をしんけんに聞いてくれました。合そうをしました。えがおで聞いてくれました。しりとりをしました。おもしろかった。家の中をたんけんしました。めいろみたいでした。おもしろかったと言ってくれました。うれしかった。「わらったのは、ひさしぶりや。」と、言っていました。楽しかった。

## 取組みを終えて

この取組みは、学年に在籍している児童Aさんの話を基にして、民生委員さんの力を借りてできたものである。

地域に住む高齢者との出会いを通して、児童は自分と違う立場の人を理解し、他者への思いやりの心が育っていったようだ。活動の後、「Aさんのように『キッズ』(キッズ・Eyeぼらんていあ)に入りたい。」という児童が増えた。一人でも多くの児童が「キッズ」に入って活動を続けてほしいと思う。また、児童たちは、自分のおじいさん、おばあさんだけでなく、いろんな年代の高齢者に、これからも優しく声をかけたり、接したりしていけるようになっていくであろう。教員からみてこの町は、本当に「人にやさしい町」である。

この取組みをきっかけにして、今後の障がい理解のための教育やボランティア活動につなげていくつもりである。児童たちには、「この町は、本当に『人にやさしい町』だ。」と気づかせ、このような町を作っていくのは自分たちなのだと理解させ、行動できる人に育てていきたいと考えている。

## 【 ポ イ ン ト 】

☆ この取組みは、民生委員や地元の高齢者が子どもたちの福祉教育の支援者となって活動し、また子どもたちも地元の高齢者の孤立化の防止や生きがいづくりに貢献している。まさに、子どもたちと高齢者の双方にとって意義のある福祉教育である。また、子どもたちが「キッズ・Eyeぼらんていあ」を通して、自分たちのできることを考え、行動化することも視野に入れており、「生きる力」を実践の場で育むことも期待できる。

核家族化・少子化で、子どもたちは日常的に高齢者と関わる機会が少なくなっており、高齢者が日頃感じている思いや生活を理解しにくく、高齢者を尊敬し思いやりの心をもつことは難しくなっている。

一方、「孤独死」といった社会的孤立や孤独感を感じている高齢者が増加しており、高齢者福祉の視点からも、このような異世代交流は非常に有効な取組みである。

このように、子どもたちと高齢者の双方向の交流を通して、お互いの優しいまなざしや自分たちが愛されていることを実感できる取組みを行うことは重要である。このような実践は、この取組みのように学校と社会福祉協議会との協働参画型で行われると一層効果的であろう。



# みんながっていいんやなあ

## ～支援学級との交流及び共同学習～

### 学年等

3年生 特別活動など

～支援学級生Aさん（発達障がい）が安心して過ごせるクラスづくり～

### ねらい

一人ひとりが安心して過ごすことができる学級をつくる。

◇ 児童どうしが、お互いに見合い、聴き合う関係をつくる。

◇ 違う考えをもっている、それを認め合い、つながりあう関係をつくる。

### 【指導について】

年間を通じて、児童がつながるためのワークなどの取組みを行い、多様な考えにふれ、自分とは違う考え方を受け入れる集団にすることを意識している。また、周りの状況を判断することが難しく、感情のコントロールをすることが苦手である児童Aさんを中心に位置づけた取組みを進めた。このようなAさんへの支援は、周りの児童たちへの支援にもつながるものだと考えている。

### 年間の取組み

(※)『わたし出会い発見』（大阪府人権教育研究協議会編）より

#### <見合う・聴き合う>

\* 朝の会でのスピーチ

\* 帰りの会の気持ちのカード

#### <トラブルがあった時>

\* ロールプレイングでの話し合い

\* コミック会話（写真①）

#### <クラスの雰囲気づくり>

\* ふわふわことば、ちくちくことば（※）

#### <協力のワーク>

\* 新聞紙ジグソー（※）

\* 絵合わせパズル（取組み例②）

\* 大根ぬき（写真②）

\* グループワークトレーニング

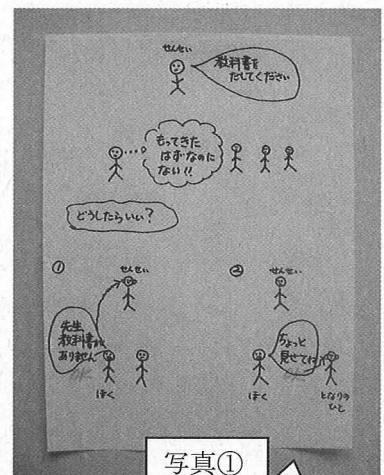
#### <多様性のワーク>

\* 動物ビンゴ、食べ物ビンゴ

\* どんな形になった？

\* 不安の穴（写真③）

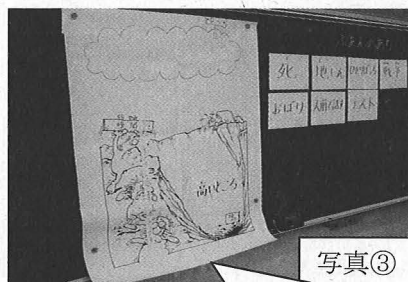
\* こんな友だちが大切（取組み例①）



写真①



写真②



写真③

困ったことやもめごとがあった時、3コマまんがに起こった事を書き、状況を整理する。書いて整理した後、対処法を考える。

大根チームが手をつないで固まっているのを、人間チームが引っ張って大根を抜いていく。ケガをしないように加減をしながら抜いたり、手が離れないように作戦を立てたり協力しあう。

「不安に思うことは一人ひとり違う」と多様性が実感できるワーク。「地震」「死」「戦争」「おばけ」「人前で話す」「一人ぼっち」等を、不安な順にランキングする。不安に思う心を穴の中へ落として終わるのだが、その過程で一人ひとりの思いを交流する。

## 取組み例

### <取組み例①> 「こんな友だちが大切」

- 【目標】 人それぞれの価値観のちがいに気づく。
- 【展開計画】 第一次 こんな友だちが大切（本時）  
第二次 自分はどんな友だち？
- 【本時のねらい】
- ・自分の思いや考えを友だちに伝えることができる。
  - ・人それぞれの価値観のちがいに気づくことができる。
- 【本時の展開】

学 習 活 動	予想される児童の様子	指導のポイント
○アイスブレイク 「てとてとて」ゲームをする。 ・「てと」は手を上へ ・「とて」は手を下へ	・「むずかしい」	・黒板にルールを提示する。 ・たいこを使って、手を動かすタイミングをはっきりさせる。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">             「こんな友だちが大切」           </div>		
①ダイヤモンドランキングの説明を聞く。 ②ダイヤモンドランキングをつくる。 ・ワークシートの上に並べる。 ③どうしてその順位に並べたのか理由を書く。 ・ワークシートに記入する。 ④グループの人の話を聞く。 ・一人ずつ発表する。	・文章の意味がわからなくて困る。 ・悩んでなかなか並べることができない。 ・どのように書いてよいのか悩む。	・説明を黒板に視覚的に提示する。 ・悩んで並べることができない場合は、ランキングするのが2位まででもよいことを伝える。 ・個別に援助する。 ・書いてあることを伝えればよいということを伝える。 ・声のものさしで、発表する時の声の大きさを確認する。 ・班の中で発表する順番を指定する。 ・ <u>自分にとって、友だちに大切な要素は何かを考えることができたか。</u> ・ <u>自分のランキングの理由を友だちに伝えることができたか。</u> ・ <u>自分と友だちのランキングの違いに気がつくことができたか。</u>
⑤自分のダイヤモンドランキングを決定する。 ・のりでワークシートにはる。 ⑥自分のランキングを発表する。	・ランキングを変えようか悩む。	・友だちの話を聞いて変更してもよいことを伝える。
○振り返り	・ワークシートに記入する。	

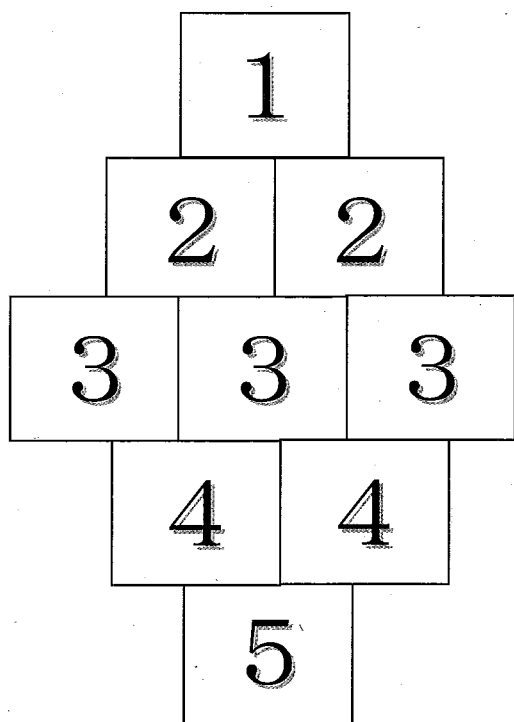
# こんな友だちが大切

名前 ( )

あなたにとって「大切な友だち」とは、どんな友だちですか。

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| ① 話が楽しい友だち          | ⑥ しっぱいしてもゆるしてくれる友だち |
| ② いっしょに遊べる友だち       | ⑦ 一人でいたら声をかけてくれる友だち |
| ③ べん強を教えてくれる友だち     | ⑧ こまったときにたすけてくれる友だち |
| ④ 自分の気持ちをわかってくれる友だち | ⑨ 話をきちんと聞いてくれる友だち   |
| ⑤ ふわふわことばを言ってくれる友だち |                     |

上のないようをダイヤモンドランキングしてみましょう。



<どうしてこのようにならべましたか>

<思ったことを書きましょう>



<カード>

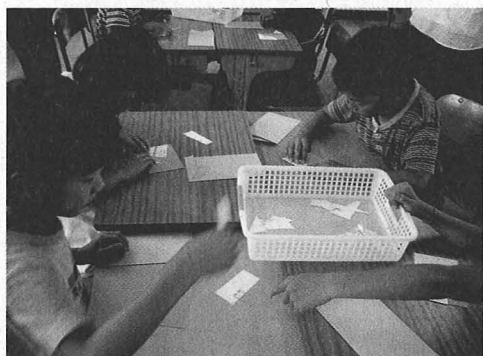
話が 楽しい	いっしょに 遊べる	べん強を教 えて くれる	自分の気持 ちをわかっ てくれる	ふわふわ言 葉を言って くれる
しっばいして もゆるしてく れる	一人でいた ら声をかけ てくれる	こまった時 にたすけて くれる	話をきちん ときいて くれる	

<取組み例②>    **絵合わせパズル    「協力して絵をあわせよう」**

【目標】                      課題解決のためには、お互いの協力が必要であることに気づく。

【本時の展開】

学 習 活 動	予想される児童の様子	指導のポイント
○アイスブレイク 「てとてとて」ゲームをする。 ・「てと」は手を上へ ・「とて」は手を下へ	・「だいぶできるようになってきたなあ」	・ 黒板にルールを提示する。 ・ たいこを使って、手を動かすタイミングをはっきりさせる。
「協力して絵をあわせよう」		
①パズルの作り方の説明を聞く。 ・言葉は使えない。 ・ジェスチャーも使えない。 ・使わないピースはかごに入れる。 ・必要なピースはかごから取る。 ②グループ毎に封筒をもらう。 ③各グループで作業を開始する。	・「どうやってできるの？」 ・「わからない」  ・パズルの組み合わせに苦労する。 ・言葉やジェスチャーで他の人に伝えようとしてしまう。	・ 前で見本を示す。 ・ 黒板にルールを提示する。
④作業を中断して意見を出し合う。	・「友だちが気づいてくれない」 ・「周りを見ながら作っている」 ・「教えてあげたいけど教えてあげることができない」	
⑤作業を再開する。 ・ジェスチャーは使ってよいことにする。	・ はりきって友だちに教える。	・ ピースを組み立てるための、台紙を全員に用意する。
○振り返り ・ワークシートに記入する。	・「うまくいってよかった」 ・「ほしいピースをもらえてよかった」 ・「教えてもらえてよかった」	・ ルールを書いた紙を提示する。 困っている場合は落ち着くように言葉かけをする。
○振り返りを交流する。		・ 気持ちの確認をする。



言葉が使えないと  
なかなかむずかしいなあ。



#### <「ふわふわことば」について>

言われるとうれしくなったり、元気が出たり、心があったかくなる言葉を「ふわふわことば」と呼び、反対に、言われると悲しくなったり、イライラしたり、心が傷つく言葉を、トゲトゲがいっぱいついてい  
る「チクチクことば」と呼んでいます。(『わたし出会い発見』(大阪府人権教育研究協議会編)より)

### 取組みを終えて

「みんなが安心して過ごせるクラス」にするにはどのようにしていけばよいだろうと試行錯誤してきたが、まずはAさんにとって安心して過ごすことができるクラスづくりをめざした。Aさんの実態を把握し、適切な支援を考え、一年間、「お互いを見合い、聞き合う関係づくり」「協力して達成感の得られる経験」「一人ひとり違うことに気づき認め合える空間づくり」を授業として取り組んだ。

その取組みを通して見えてきたことは、児童たちどうしの関わり方や関係から担任が学ぶことが多かったこと。そして、Aさんへの支援が周りの児童たちへの支援にもつながることを実感した。同時にAさんと周りの児童たちどうしのつながりが深まっていくことも実感できた。

「Aさんにとって安心できるクラス」というのは「みんなが安心して過ごせるクラス」であり、「みんなが安心して過ごせるクラス」は「Aさんにとっても安心できるクラス」なのだと改めて感じることもできた。

### 【 ポ イ ン ト 】

☆ 福祉教育は従来、障がい疑似体験や福祉施設訪問といった体験学習が一般的であった。しかし、十分な振り返りを行わなければ、体験が目的化してしまい、いわゆる「貧困的な福祉観の再生産」に陥ってしまう可能性がある。

この取組みは、同じクラスにいる仲間を中心にとらえ、様々なアクティビティ(ワーク)を取り入れて、クラスの中で個々の違いを認め、「障がい理解」の取組みから、「障がいのある友達の理解」へと導いている。「Aさんにとって安心があるクラス」は、「みんなが安心して過ごせるクラス」というメッセージは、ユニバーサルデザインやノーマライゼーション理念につながる大切なメッセージである。

# 自分たちにできることは何だろう、伝えようAさんのこと

## ～支援学級との交流及び共同学習～

### 学年等

3年生 特別活動など

～支援学級児童Aさんが安心して過ごせる学級、学校づくり～

### ねらい

一人ひとりが安心して過ごすことができる学級、学校づくり

◇ 友達の状況や思いを理解し、ともに生活し学習するにはどのように行動すべきか考える。

◇ 互いに認め合い、思いやり、助け合う心をもつ。

### 【指導について】

3年生になり、入学以来初めてのクラス替えがあった。男女の仲はよく、休み時間や放課後も「○○ちゃん」とお互い呼び合い遊んでいる。また、困っている児童がいたら、手助けもできる優しさがある。しかし、集団行動が苦手な児童、自己主張により自分の居場所を確認する児童、自分の気持ちを抑えることが苦手な児童、複雑な生活背景を抱えながら学校生活を送っている児童もいる。このような児童の中には、自分のことで精一杯で、支援学級在籍のAさんのことを思いやることができない児童もいる。

そこで、自主教材「○○学級（支援学級）のこと、Aさんのこと」を作成し、友達の状況を理解し、友達の思いや願いに寄り添いつつ、その上に自分たちにできることを考えさせた。

### 【Aさんについて】

Aさんは目や足の手術と、祖母や兄が住んでいる外国への渡航のため、学校を長期欠席することが多く、友達と関わる機会が少ない。また、相手の話を理解することや自分の気持ちを言葉で伝えることが苦手である。自分の思いを友達に伝えたいAさんの気持ちを受け止められる学級・学年づくり、よりよい仲間づくりのためには相互理解が必要である。

そこで、学年のみんながお互いを知り、より仲良くなるための取組みの一環として、休みがちで交流の少なかったAさんについて知ることができる機会を設定した。

### 取組みの流れ

<全8時間>

第一次 Aさんについて知る・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

第二次 自分たちのできることを考える・・・・・・・・・・5時間

第三次 Aさんのことを伝えよう・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

### 取組み

**第一次** 2時間 Aさんについて知ろう

① 知る 【○○（支援）学級のこと、Aさんのことを知る】 2h

◎ Aさんの生い立ち、家族の思いを知ろう。（保護者と話し合い、聞き取った内容を伝える）

事前に、Aさんの保護者の思いを聞き取り、指導の方針やあり方について話し合い、その内容を指導に生かすことについて承諾を得ておく。

◎ 支援学級でのAさんの活動の様子、得意なことなどを知ろう。



## 第二次 5時間 自分たちにできることを考えよう

### ② 考える 【Aさんの思いを話し合い、自分たちのできることを考える】 2h

- ◎ Aさんが得意なことや苦手なことについて知っていることを話し合い、Aさんの思いを考える。
- ◎ 自分たちがAさんのため、友達のためにできることは何かを考え、話し合う。

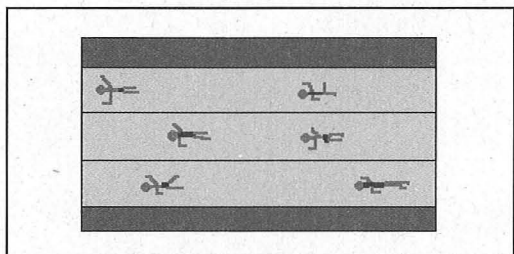
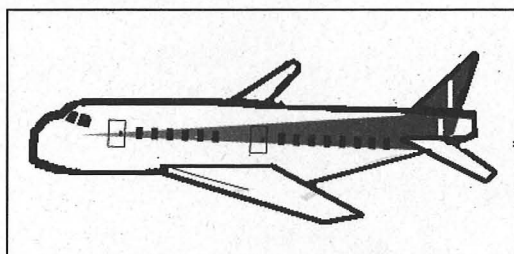
私たちがわかったAさんのこと（能力を発揮していること、気持ち、家族の思いなど）を、何も知らない下級生に知ってもらおうよ！そして思いやりのある学校にしていこうよ！

### ③ 動く 【自分たちで考えたことから、Aさんについての紙芝居を作る】 3h

- ◎ Aさんの状況や思いについてわかったことを下級生（1，2年生）に伝えるため、グループで紙芝居風に描き、伝える内容を画用紙の裏に書き込む。（Aさんとともに作成する）

学 習 活 動	指導のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Aさんについて、1，2年生に伝えることをグループで出し合う。</li> <li>○ 画用紙に描くことを選び、書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Aさんの好きなことや得意なこと、通常の学級での様子など、Aさんの個性が伝わるような視点で考えさせる。</li> <li>・ 低学年にわかりやすい表現にするよう伝える。</li> </ul>

<紙芝居の例>



Aさんは何回もひこうきにのっています。

Aさんは、ひこうきがとても好きです。

Aさんはプールで、泳ぐ練習をしています。足がつかなくてもいっし、ようけんめい泳ぎます。

## 第三次 1時間 Aさんのことを下級生に伝えに行こう

### ④ 深める 【下級生に、紙芝居でAさんを理解してもらおう】 1h

- ◎ Aさんが能力を発揮していること、状況や気持ち、家族の思いを伝える。
- ◎ 学年の仲間として、Aさんが困っている時にはどのようにしてほしいかをわかりやすく伝える。
- ◎ 互いに認め合い、助け合い、思いやりのある学校にしようと提案する。

紙芝居を見せながら、1，2年生にわかる言葉で、心を込めてゆっくりとはっきりと伝える。

## 取組みを終えて

### <児童やクラスの変化>

〔自己主張が強く、友だちとトラブルになることが多かった児童Bの変化〕

BさんはAさんに対して、からかって攻撃的な言葉を使うことが多かったが、この学習を進めるにつれて、Aさんの給食当番を手伝ったり、進んで手助けしたりするようになった。また、Aさんを気にかける発言も増えた。Aさんが転校してしまった後でも、「Aさんは新しい学校で友だちできたかな？いじめられてないかな？」と、Aさんのことを気にかけている発言がみられた。

また、少しずつ誰に対しても優しく接することができるようになり、「Bさんがこんなことをしてくれたよ。」と教員に報告する友達が増えてきた。

〔児童Aの変化〕

Aさんは優しく接するようになったBさんと活動をすることが増えた。友達の関わりの変化を感じ、穏やかな表情も増え、以前より、自分からクラスみんなに関わっていくようになった。

〔クラスの変化〕

クラスの児童は、Aさんが苦手なことをするとき、励ましの言葉や優しい声をかけたり、手助けする場面が増え、Aさんができたときにはともに喜ぶ姿が増えた。

また、Aさん以外の友達どうしについても良いところを積極的に見つけるようになり、友達が困っていたら助けるなど思いやりを持って接することができるようになった。

### <取組みを終えて>

支援学級担任と協働で通常の学級での授業を行い、普段はなかなかわからない支援学級でのAさんの一生懸命な姿を児童に知らせることができた。

また、教員からの一方的な話を聞くのではなく、同級生で仲間であるAさんについて、紙芝居にして下級生に伝えるという活動の設定をすることで、様々な状況にあるAさんの思いや周りの人たちの思いを自分で考えることができ、その思いをより共感することができたように思う。

さらに、同級生のために紙芝居を使ってAさんの思いを一生懸命に伝える3年生を見て、下級生は優しさなどを訴えようとする何かを感じることができたに違いない。

さらに、Aさんを中心にすえた取組みから、Aさんに対してだけでなく仲間が困ったときへの気づきにつながってきており、これからも様々な福祉教育の取組みを進める中で、継続して思いやりの心を育てていきたい。

## 【ポイント】

- ☆ 平成17年に出された中央教育審議会の「特別支援教育を推進するための制度の在り方について」では、「学校全体で特別支援教育を推進することにより、いじめや不登校を未然に防止する効果も期待される」と示されている。

この取組みは、障がいのある児童を学級の仲間の中心に位置づけて、「ともに生活し、ともに学ぶこと」の大切さを自分たちの学級だけでなく他学年に対しても働きかけるといった、福祉教育と特別支援教育を一体化した学校全体への「障がい者を取り巻く課題と、障がいについての理解を深める教育」としての実践である。

# ともに生きていく、やさしい町に

～視覚障がい者との出会いから行動へ～

## 学年等

4年生 総合的な学習の時間・国語

## ねらい

- ◇ 障がい者や高齢者の状況や思いを理解するとともに、生き方に共感し、優しさを培う。
- ◇ 点字への理解を通じて、文字をもつことの大切さ、すばらしさを知る。
- ◇ いろいろな人がいっしょに暮らしている町であることを知り、みんなが暮らしやすい町について考える。
- ◇ とともに生きていくために、様々な状況の人たちにどのように接したらよいか、自分たちにできることはないかなどを考え、行動する態度を養う。

## 取組みの流れ

<全9時間>

第一次 障がいについて正しく知る。Aさんと出会う。・・・3時間

第二次 高齢者について理解する。

いろいろな人が暮らしやすい町とはどんな町か考える。・・・2時間

第三次 自分たちにできることをやろう。・・・4時間

## 取組み

### 第一次 3時間 障がいについて知ろう

#### ① 知る【当事者が綴った本から障がい者の生活や気持ちを知る】 2h

◎「ぼくたちのコンニャク先生」(写真/文 星川ひろ子 小学館)

(脳性まひの保育園の先生と園児たちの温かな交流を描く写真絵本)

◎「ふしぎ ふにゃふにゃ フランケン」(企画/原案 近藤雅則 作/絵 立花尚之介 岩崎書店)

(脳性まひの保育園の先生が、障がいについての子どもの質問に明るく答える絵本)

◎「五体不満足」「乙武レポート」「だから、僕は学校へ行く!」(乙武洋匡 講談社)

(先天性四肢切断の著者が、自身の生活体験などを綴った本)

### 気づかせたいこと

- ◇ 障がいのある人は、『かわいそう』なのではない。
- ◇ やりたいこと、やれることを工夫しながらやっている。
- ◇ 周りの人たちは、自然に受け入れて助け合っている。

『正しく知ること』が、相手に対して優しくなれる  
一つのきっかけになると考えて・・・



#### ② 出会う【地域に在住している視覚障がい者Aさんからお話を聞く】 1h

事前に、社会福祉協議会の方、聞きとりをお願いしているAさん、サポート役のボランティアの方と打ち合わせを十分に行った。



### 気づかせたいこと

- ◇ 能力を発揮しているAさんの前向きさ。
- ◇ エフされた生活の道具があること、サポートしてくれる人がいること。
- ◇ 障がいがあることで不便なことはあるが、決して不幸ではないこと。
- ◇ サポート役ボランティアの方の言葉から、声をかけることの大切さ。

『人との出会い』は、心を動かす貴重な体験であり、自分に素直になれる瞬間だと考えて・・・。

Aさんが点字をうっているところを見ている子どもたち。その速さにびっくり！



### <児童の感想>

#### 「Aさんと出会って」

- 知らないことばかりでした。目に障がいがあると「イヤ」という気持ちが多いと思っていました。でも、その気持ちは少ない。今日来たらニコニコと笑って元気いっぱいという感じがしました。信号をわたるとき、空気で「青やな～」とかかわるとか、すごいです！うち、ぜったいわからないです。
- ぼくは今日初めて目の見えない人に会いました。Aさんが一番最初です。一番いんしょうに残ったのが、オルガンをひいてくれたことです。Aさんのジョークはすごくおもしろかったです。とくに「幸せいっぱい、はらいっぱい。」と言ったのが、一番おもしろかったです。スーパーやコンビニで会ったら話しかけます。

### 第二次

2 時間

高齢者について理解し、暮らしやすい町を考えよう

#### ③ 知る 【高齢者の気持ち、状況について理解する】 1 h

◎ 「ありがとうのヒミツ」(正本ノン アニメビデオ 社会福祉法人 中央共同募金会)を見る。

(小学生と高齢者がぶつかって体が入れ替わってしまう高齢者理解の話)

### 気づかせたいこと

- ◇ 高齢者の気持ちやおかれている状況。
- ◇ 「ありがとう」に込められた思いについて。
- ◇ 老人と入れ替わってしまった勇太が体験して感じたこと。(不便で困った、うれしかった)
- ◇ 今までわからなかったクラスの友だちのよさ。

同じ町で暮らしていてもすれちがうだけでは、相手のことはわからない。  
顔を見て、話をしてこそ、相手のことがわかってくる。

#### ④ 考える 【いろいろな人が暮らしやすい町とはどんな町か考える。】 1 h

- ◎ 私たちの町は、いろいろな人(障がい者・大人・子ども・高齢者)が暮らしやすい町(不便なことや困ることが少ない町)だろうか？

### 気づかせたいこと

- ◇ 段差（あちこちにある。歩道にもある。）
- ◇ 信号（渡りにくいところがある。音の鳴らないところも多い。）
- ◇ 駅（近くの駅はエスカレーターもエレベーターもない。）
- ◇ 自動販売機（コーラとコーヒーの区別がつかない。）

◎ 社会福祉協議会の方から、「ええやん ちがっても」というテーマでお話を聞く。

社会福祉協議会の方（Bさん）からお話を聞きました。



### ＜児童の感想＞ 「Bさんと出会って」

私は障がいがあるということが最初かわいそうだなと思ってました。でも、今日、かわいそうじゃないとわかりました。

Bさんが言っていたのは、「ええやん ちがっても」と「みんなが笑える町に」です。私もこういうことが言える人になりたいです。人と人が助け合うということは、とてもすてきなあとと思いました。

私も困っている人がいたら、助けられる人になりたいです。ガンバッテみます。

◎ 「補助犬ができること、あなたにできること」を見る。（DVD2007「24時間テレビ」チャリティー委員会）

（小学生が補助犬を通じて視覚、聴覚、身体障がい者のこと、自分のできることを考えるきっかけとなる内容）

◎ みんなが暮らしやすい町にするために、自分たちに何ができるかを考える。

### 気づかせたいこと

- ◇ DVDに出てくる耳や目や手足に障がいのある人が伝えてくれていること。
  - ・「こんにちは」という挨拶の一言だけでも、そこに人がいるなということがわかって、身の安全をはかることができる。
  - ・「どうしたのかな？」「大丈夫かな？」と思う瞬間の温かい気持ちを、素直に行動であらわせてくれたら、うれしい。
  - ・ちょっと手助けしてくれることで、ぼくたちの不便な生活が改善される。
  - ・「もし、自分だったらと考える」その気持ちがあれば、みんなが幸せになれる社会になると思う。
- ◇ 点字をやってみよう。
- ・3年生の国語の勉強ででてきた点字。先日、Aさんにうつところを見せてもらった。
- ◇ 道具やお金がなくてもできることがある。（席をゆずる。声をかける。）
- ◇ 暮らしやすい町というのは、人がやさしい（人の気持ちがやさしい）町である。

### ＜児童の感想＞ 「DVDを見て、自分のできることを考えて」

「ありがとうのヒミツ」のビデオを見て、私はぜったい「ありがとう」を言おうと思いました。私らにとって、この町は住みやすいか？私は住みにくいと思います。段差はいっぱいあるし、信号の青の時に音がならないところあるし。もっと住みやすいようにしてほしいです。（→次ページ）

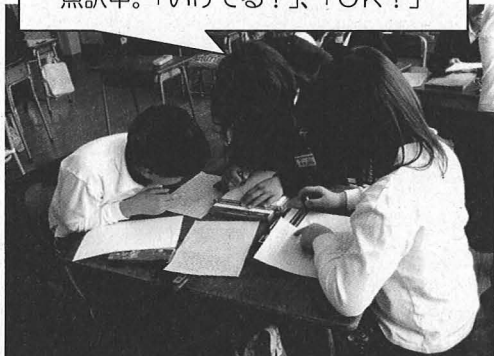
→でも、先生が言っていたように、自分らでやることはやりたいです。終わって教室に帰るとちゅう、「ありがとうの気持ち」を忘れない、自分でできることはやる、このことを守りたいと思いました。ちがっていても区別しない。5、6時間目の授業、いろんなことが心に残りました。

### 第三次 4時間 自分たちでできることをやろう

#### ⑤ 動く 【今、挑戦している『点字』を生かせることはないだろうか】 4h

◎ 点訳本を作ろう。

点訳中。「いけてる?」、「OK!」



みんなで作った点訳本は公民館と児童館へおいてもらえることになりました。



◎ 自動販売機に点字シールをはろう。



できあがった点字シールを自動販売機にはりに行きました。



◎ 自動販売機のメーカーに手紙を書こう。

#### <児童の手紙>

#### 「自動販売機メーカーへの手紙」

はじめまして。私たちは○小学校の4年生です。私たちは総合学習の時間に、視覚障がいのある人と出会いました。その時、その方から、たとえば、お茶がわいたことが目ではわからないので、音で知らせる道具を使っているということを聞いて、私たちはふつうに生活しているけれど、不便なことがたくさんあるんだなと感じました。出かけた時に、自動販売機でお酒とジュースをまちがえて飲んだということも聞きました。何とかならないだろうか、考えました。飲み物の種類を声で知らせたり、点字に表すと、こんな不便なことはなくなると思います。

まず、私たちにできることとして、点字シールを自動販売機にはることをやっていこうとしているのですが、点字のついている自動販売機ができたらいのになあという意見がでました。そこで、そういう自動販売機を作ってほしいというお願いをすることにしました。ぜひ、考えてみてください。お願いします。

#### 取組みを終えて

「人と出会う」ことで「相手のことを知る」ことができ、「知る」ことで「人にやさしくできる」ようになる。教員である自分もそうだが、児童たちにもそうあってほしいと願い、人との出会いを大切にしてい



た。児童たちには、視覚障がい者であるAさんと出会い、Aさんが「できないこと」も「できること」もリアリティをもって知り、「どう生きてきたか」にふれて人としての知恵について学び、話し合っていく中で、いろいろな状況の人が住んでいる町が暮らしやすい町であるために自分たちにできることはないか、考えさせてきた。

この一連の取組みは、社会福祉協議会の方と協働で授業を組み立てていった。「従来の福祉教育は車いすやアイマスクを使った疑似体験の活動が中心だったが、それでは障がいの不便な面が強調されて、『障がいのある人はかわいそう』という先入観を児童たちがもっただけで終わってしまいがちである。

そこで、当事者の生活にふれて、児童たちの気づきを促すところから始めてはどうだろうか。」という事務局長さんの言葉は、私たち教員と同じ視点であることがわかり、大きな力となった。

さらに、協議を深めていく中で、児童たちの活動を広げていくためのアイデアをもらうことができた。また、「点字をやってみたい」という児童たちの思いに応えようと、点字板を貸してくれるところも探して下さったおかげで、点字板を借りた地域の高校とのつながりもできた。

児童たちが、自動販売機のメーカーに手紙を出し、メーカーから「点字シールをはるという活動をいっしょにやりましょう。」という返事がきたということも、児童たちにとって大きな手応えとして心に残ったことであろう。

今後、自分たちの町が誰もが住みよい町にするために、児童たちが気づき、考え、行動できる人に成長していくことを期待している。

#### **<児童の感想> 「4年生の1年間の中で、1番心に残ったこと」**

私が4年生で1番心に残っていることは、Aさんに聞き取りをしたことです。なぜかという、Aさんは「視覚しょうがい」というしょうがいのある人です。生まれつき目が見えません。だけど、Aさんは子どものころバイオリンを習っていたそうです。そして今は、家でごはんをたいたりしているそうです。最後にAさんがオルガンをひいてくれました。私たちが手紙を書いて、Aさんから返事が来て、先生が読んでくれました。Aさんからの手紙はとてうれしかったです。私が「視覚しょうがいが、いやだと思ったことはありますか。」と聞きました。Aさんは「いやだと思ったことは、ありません。」と言いました。いやだと思ったことがないということが、すごいなと思いました。

もうどう犬・ちょうどう犬・かい助犬のDVDを見て、社会福祉協議会のBさんから話も聞きました。「ええやん、ちがっても」というのを教えてもらって、私はなくなったおじいさんのことを思い出しました。おじいさんは、病気で足を半分切っていて、うまくしゃべることができませんでした。それを私と弟がこわがって、お母さんやお父さんの後ろにかくれていました。4年になって、おじいさんをこわがらなくなりました。Bさんに聞いた「ええやん、ちがっても」というのは、見た目はちがっても、思ったり感じたりすることはいっしょで、みんな同じようにくらしている。「ええやん、ちがっても」というのは、そういうことかなと思いました。

#### **【ポイント】**

- ☆ 学校と社会福祉協議会が事前に綿密な打ち合わせを行い、子どもたちに伝えたいことを福祉と教育の両面から考えて授業案を作成している。このような事前打ち合わせによって、子どもたちだけでなく教員も福祉教育の重要性を理解することができる。
- ☆ 「知る→出会う(体験)→考える」といった体験学習のプロセスに加え、最後に子どもたち自らが企業に手紙を書くなど、社会に対して「行動」している。「自分たちの気づき」が行動することによって実際に役に立つ(社会貢献)ことを実感し、子どもたち自身が自己有用感を感じられるプログラムになっている。

# であい・つながり・ともに生きたい

～障がい理解と交流～

## 学年等

4年生 国語・道徳・総合的な学習の時間・特別活動など

「伝え合う」ということ <資料> 手と心で読む (大島 健甫)

(国語：光村図書 4年上)

「ぼくのお姉さん」

(丘 修三 偕成社)

## ねらい

- ◇ 様々な立場の人の状況を知ることにより、共生の視点をもつ。
- ◇ 自分の思いを伝え、仲間の思いを受けとめ、安心できる仲間関係をつくる。
- ◇ 地域の人との出会いや交流を通して、様々な立場の生き方にふれ、思いを知ることにより、自分の生活をふりかえる。

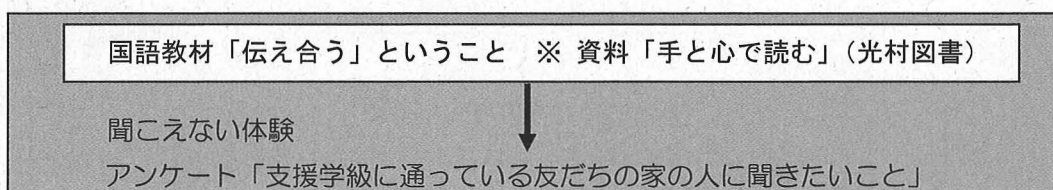
## 【指導について】

- ▽ 地域の方々をはじめ、学習の中で出会った方々のあたたかさや力強い生き方にふれることにより、その方々の願いや思いを気づかせたい。
- ▽ 学習の中で出会った人の思いに、自分自身の思いや願いを重ね、自分の生活を見つめ、家族や友達とのつながりについて考えさせたい。
- ▽ 総合的な学習の時間では、国語科の教材と関連づけて進めていく。

## 取組みの流れ

<全 38 時間>

第一次 (7 時間)

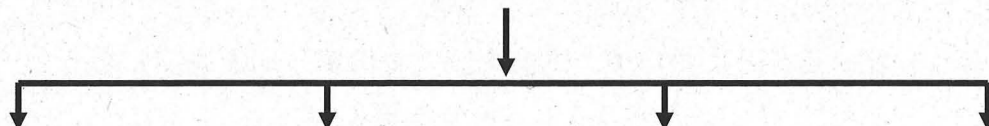
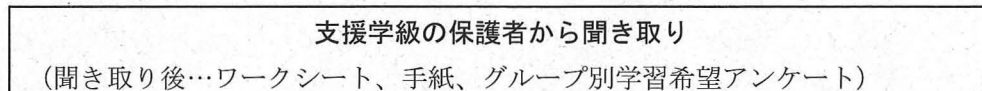


第二次 (6 時間)

道徳教材「ぼくのお姉さん」 作：丘 修三 (偕成社)

感想…自分ならどうするか考えながら書く。  
保護者に感想を書いてもらう。

第三次 (25 時間)



## 【テーマ別グループによる学習】

身体・知的障がい	精神障がい	高齢者	外国の方
身体・知的障がい者 作業所で働く方につ いて教材学習 (母の手記より)	精神障がい作業所の メンバー、スタッフ から聞き取り	高齢者と関わる仕事 をする保護者から聞 き取り	タイの方とそのサポ ーターから聞き取り
身体・知的障がい者 作業所訪問。 見学・聞き取り	精神障がい者作業所 訪問。見学・聞き取 り・交流	特別養護老人ホーム 訪問。見学・聞き取 り・交流	大学訪問。 留学生(中国)から聞 き取り

(聞き取り後…ワークシート、お手紙、まとめ2h)

クラス報告会(2h) グループ別学習で学んだこと、感じたこと

視覚障がいのある人とヘルパーの方から聞き取り  
(聞き取り後…ワークシート、お手紙)

作文「みんなに伝えたいこと」

Aさんから聞き取り

語　　る　　会  
自分を振り返り、仲間を見つめる。

まとめ：お家の方へお手紙  
この取組み全体で自分が学んだこと、伝えたいことを書く。

### 展開例

第一次 7時間 国語教材「伝え合う」ということより

#### 【目標】

- ◇ 文章を読んで伝え合う方法に興味をもち、自分の課題をもって調べたり、発表したりできる。
- ◇ 知らせたいことの中心がわかるように話したり、友だちの発表の大事なところを聞き取ったりできる。
- ◇ 自分の考えや思いが、相手に伝わるように工夫して書くことができる。
- ◇ 中心となる語や文をとらえて、話の内容を読み取ることができる。
- ◇ 相手やその場に応じた適切な声の大きさや速さに気をつけて話ができる。

#### ① 「伝え合う」ということについて、本文を読んでの第一印象を話し合う。 1h

- ▽ 伝え合い、分かり合い、支え合うことについての自分なりの考えをもち、話し合わせる。
- ▽ 本文を読んで第一印象を書き、これから学習していく内容について見通しをもたせる。



② 資料の最初のまとまりを読み、点字について知っていることを話し合う。 1 h

▽ 身の周りの物、生活経験などを思い出す。その際、実物や写真など、参考になるものを用意することにより、理解を深める。(点字を活用している物や施設などの写真や実物を用意)

③ 資料の中のまとまりを読み、筆者の苦労や思いを話し合う。 1 h

▽ 筆者が文字を失う悲しみ、母親の愛情、再び文字を持つことができる喜びを、文章から読み取らせる。

④ 資料の最後のまとまりを読み、点字について知る。 1 h

▽ 点字のしくみについて、実際に書いてみたり、読んでみたりしながら理解させる。  
(点字を打つ道具を用意)

⑤ 点字について、図書館やインターネットで調べてまとめ、発表する。 2 h

▽ 調べたことについて、ワークシートにまとめ、言いたいことを簡潔にまとめて発表させる。

⑥ 疑似体験を通して、視覚障がいの方の思いを話し合う。 1 h

▽ とともに生きるという視点をもてるよう、話し合わせる。

＜教員の振り返り＞ 「伝え合う」ということを学習して

子どもたちは、点字にとっても興味をもち、読み進めていった。その中で「視覚障がいのある人が白い杖をついているのを見たことがある。」「目が見えにくいのにポストに手紙を入れていた人がいた。」「缶かんにも点字がついていた。」と意欲的に身の周りの物や人に注目していった。そんな中から「視覚障がいのある人から話を聞いてみたい。」という意見も出てきて、「出会って、思いにふれる場があればいいね。」と学習を終えた。

また、この学習で、支援学級に在籍する4人の仲間について考える児童もいた。「1学期に支援学級に見学に行ったが、知らないことも多かった。」「障がいて何だろう。」「他のクラスの子のことも知りたい。」という子どもたちの思いを受け、支援学級に在籍する児童の保護者に聞き取り学習に協力いただけるようお願いした。

第二次 6 時間 読み物教材「ぼくのお姉さん」より

【目標】 (ダウン症の姉をもつ小学5年生の正一の視点から書かれた物語)

- ◇ 自分とは違う様々な個性や立場を持った人への理解を深める。
- ◇ 他の人とは違う自分の個性や立場を見つめ、家族や友達との中で、自分らしく生きていくことについて考える。
- ◇ とともに生きることについて、自分の思いを伝え、仲間の思いを受けとめながら話し合う。

① 本文を読んだの第一印象を書いて話し合う。 1 h

▽ 文章全体の構成をとらえて、一番心に残ったところについて、話し合わせる。

② 文章全体の構成をとらえ、各段階の内容を読み取り話し合う。 3 h

▽ 各段階で、中心となる言葉や文をとらえて、ぼく・姉・母・父の思いを自分なりにまとめ、発表させる。

第一段落：ぼくから見たお姉ちゃんの特徴

第二段落：ぼくとお姉ちゃんのエピソード

第三段落：お姉ちゃんの指きり

第四段落：お姉ちゃんの初給料とごちそう

③ 読み取ったことを、お家の人に手紙で伝える。 1 h

▽ 今まで話し合ったことなどを参考に、自分がわかったことや、考えたことを書かせる。

▽ 手紙の返事をお家の人からいただくことも伝えるように指導する。

#### ④ お家の人からの手紙を読み、感想を交流しあう。 1h

- ▽ 交流してもよい手紙であるかどうか気をつけて数点を選び、承諾を得て、読んで聞かせる。
- ▽ この後、実施する総合的な学習の時間で行う取組みにつなげられるようにする。

##### <教員の振り返り>

##### 「ぼくのお姉さん」を学習して

この話は、ダウン症の姉をもつ小学5年生の正一の視点から書かれた物語である。姉のよさをわかりつつも、友だちにならなかつた経験から自信が持てず悩む正一。自分の兄弟姉妹について作文を書くという宿題も、なかなか筆が進まない。しかし、姉が作業所で働いた初任給で家族にごちそうしてくれた後、心が動き作文を書き始める。「ぼくのお姉さんは障がい者です。」と…。

この話に登場する正一は、子どもたちと年齢も近く、心打たれる教材であり、障がいのある兄弟姉妹を持つ児童にとっても、エールを送ってくれる教材であった。また、仲間関係について考えさせられる場面もあった。

##### <児童の感想>

##### 「ぼくのお姉さん」を学習して

- 「Bがお姉ちゃんの口調をまねて、Aと顔を見合わせてわらいころげた。」

わたしは、この文を読んだとき、AとBが笑ったのはゆるせないと思った。もし、正一だったらもっともっとゆるせないと思う。なぜかというと、わざわざ口調をまねることなんてないと思うからだ。

- わたしのお母さんの弟が心の病気なので、わたしもその正一の気持ちがわかる。(後略)

##### <保護者の感想>

##### 「児童からの手紙」を読んで

- 学校でも科目の勉強を一生懸命するだけでなく、いろいろなことを正しく学んで、お互いに助け合い、思いやる温かい心をたくさん育ててほしいと願っています。そして、私たち大人もそれをしっかり見守り、協力できる人でありたいと思います。子どもたちと一緒に学んでいくことが大切ですね。

- 人と少し違うところがあると、それをからかってしまうことがあります。人は一人ひとり違うのだから、違いがあつて当たり前だと思っています。私は自分の子どもたちに、世の中には自分を含めていろいろな人がいて当たり前なのだから、誰とでも同じように仲良く、時には助け合つてほしいなと思っています。

### 第三次 25 時間 総合的な学習の時間などより

#### □ テーマ別グループによる学習（例：精神障がい理解）

##### 【精神障がい者小規模通所授産施設（作業所）について】

いつも、温かい雰囲気にもまれていた作業所。メンバー（利用者の方）さんは、心悩ますことなどに向き合いながらも、前向きに日々通っておられる。スタッフ（勤務している方）さんは、優しくそして力強く、メンバーさんを支えておられる。そこには、つながり、信頼関係がある。

##### 【聞き取りについて】

作業所からスタッフさん1名とメンバーさん2名に来ていただき、聞き取りをした。メンバーさんは、児童たちにわかりやすいように言葉を選びながら、作業の内容や自分の生活について、また作業所で仲間と出会えた喜びについて話して下さった。

スタッフさんからは、精神障がいとは、寂しいことや心悩ますことが重なり「心のハンドルを切るのが難しく」なった状態であるということなどを教えていただいた。

### ＜児童の感想＞ 「作業所」のスタッフさんのお話を学習して

- （前略）作業所の方が一番うれしかったことは「仲間ができたこと」でした。私は、仲間は大人になっても大事なんだなあと思いました。○○作業所の人が言っていたように「精神障がい者」という言葉はいいのかわるいのか考えたいです。
- （前略）お話を聞いて心に残ったことは「みんな（仲間）がすごくやさしい」ということです。わたしはそれを聞いて、「そういう仲間をわたしもほしいなあ。」と思いました。（後略）
- 「障がいとはとく別じゃない。」と作業所の人は言っていた。お母さんは、弟に障がいがあっても、決して甘やかさない。私と同じように育てる。その理由は聞いていないけど、障がいとはとく別ではないというもあるんじゃないかと私は思った。（後略）

### 【訪問・交流について】

作業所に行き、メンバーさんから活動（製品づくり、畑仕事など）やりハビリのこと、ボランティアに手伝ってもらいながら地域に出て活動していることなどを教えていただいた。また、製品にもふれさせてもらった。児童たちは、さおり織りの帽子やかばん、ビーズ製品に「うわあ、すごい！かわいい！」「どうやってつくるん？」と歓声をあげていた。その後、じゃんけんサインゲーム・風船バレーで楽しく交流した。我が家のようなあたたかな雰囲気の中で、やさしさを感じていた。

ここを訪問したグループには兄弟姉妹が支援学級に在籍している児童がいる。その児童にはこの出会いを通して、家族との関係を見つめ、胸を張っていつてほしいと願った。



### ＜児童の感想＞ 「作業所」交流後のワークシートより

- みんな入ったしゅんかん「かわいいね。」とかしゃべりかけてくれて、明るいし、しゃべりかたもやさしいし、楽しく遊べたから、いっしょに交流してよかったと思った。みんながやさしいから、安心してしゃべりかけられた。障がいだからなにもできないわけじゃなく、みんながひとつ手伝ってくれるだけでできることがふえるときいた。
- 作業所の人はみんなやさしくて明るい。仲がよくて、物をつくるのも上手だし、今までいろいろなことを乗り越えてきたんだなあと感じる。（中略）いやなことを言われても気にしないという人もいた。自分はいやな事を言われたら、すっごく気にするけど、話をきいて気にしなかったら少しはいい気分になれるかなあと思った。
- 前は、たんぼぼ（支援学級）の子と日直が同じだったけど、どうやってやればいいのか、どんなやり方でやればいいのかわからなかったけど、今日、作業所に行って少しわかってよかったです。（中略）家族に「障がいのある人たちはあたたかい人やでえ。」と教えてあげたいです。
- ぼくは○○作業所にいきました。いろいろな障がいがある人がいました。その障がいがある人は、ぼくたちがきて楽しそうにしていました。障がいがあっても特別じゃないと思いました。



## 取組みを終えて

児童たちは、多くの人に出会い、その人のくらしや願い、やさしさ、あたたかさにあふれることができた。さらに、たくましい生き方に励まされ、自身のこれまでの仲間や家族とのつながりをふり返り、「語る会」では自分の生活や思いを出し合うことができた。そして、そこには聞いてくれる仲間がいた。共感して、気持ちを返してくれる仲間がいた。児童たちは、支えてくれる仲間の確かな存在を実感したに違いない。

### <児童の手紙>

### 取組み後の母にあてた手紙より

この学習で、人のことを考えることとかを学んで、作業所に見学に行ったりしたことを話すと、お母さんはちゃんと聞いてくれたからうれしかった。弟のことをみんなに話して、弟にやさしくするようにしている。この学習で家族ともっとつながれた。

この学習をして、命の大切さがわかったよ。「産んでくれてありがとう。」(後略)

### 【その後の取組みとして】

その後、5年生となった児童たち。「仕事ウォッチング～心・技・体」の取組みで、地域の仕事場に出かけていった。〇〇作業所では、製品づくりを手伝わせていただいた。体験した児童たちは、帰ってくるなり、目を輝かせながら「家みたいやったわ。また来てもいいって!」と喜んでいた。

### <児童の感想>

### 体験後のワークシートより

- さおりという道具で、布をおりました。はじめは、どうやってやるかぜんぜんわからなかったけど、やさしく、わかりやすく教えてくれたので、すぐなれて楽しかったです。(中略)「上手だね。」とか「色をえらぶのが上手」とか言ってくれました。
- 働いている人は、よく働いている手や、やさしい手をしていました。楽しそうに仕事をしていました。働いている人は、みんなでにぎやかに食事できたり、しゃべったり、自分の作品ができるということが、喜びだそうです。苦労するのは、作品がうまくできない時や、考えがうまくまとまらない時だそうです。

「出会い」から、児童たちが学ぶことは多い。作業所との出会いが、児童たちの心を豊かにし、家族や仲間との関係を見つめる力を育ててくれた。この学習の本当の成果は、これからの児童たちの姿に表れてくるものと期待している。また、同時に見えてくる課題に、前向きに取り組んでいきたい。そして、今後とも児童たちを、「どのように地域と出会わせていくか」について継続して考えていきたい。学校全体として系統的に地域との交流を進めていく中で、児童たちを「地域の子」として、教職員、保護者、地域住民が一丸となって、あたたかく支え、見守っていければと思う。「違い」を「豊かさ」として受け止められるような子どもに育つことを願って…。

最後に、毎年、児童たちを快く受け入れてくださる〇〇作業所、その他の施設の方々に心より感謝している。

## 【ポイント】

☆ この取組みは福祉教育のテーマに即して、国語・道徳・総合的な学習の時間・特別活動といった各教科などと関連させて指導を行っている。これは一年間の年間指導計画の中に福祉教育や人権教育が明確に位置づいていることを示しており、各教科などが年間指導目標にそつうま連携を図り、実践されている。

国語の授業で個々の問題意識を高めた児童が、実際の調べ学習や交流学习を通して自分自身の問題として考え、行動化(「仕事ウォッチング～心・技・体」)も行っている。このように個々の学びを知識として理解するだけでなく、実際に行動化することで内面化させることも福祉教育では重要な教育目標である。

# 車いすから見た新しい世界

## ～障がい（肢体）理解とバリアフリー～

学年等

4年生 総合的な学習の時間など

ねらい

- ◇ 障がいへの理解を深める。
- ◇ 車いすを体験することをきっかけにして、身の回りのバリアフリーの大切さに気づき、みんなが暮らしやすい町について考える。
- ◇ 車いすを使っている人への必要な援助をするための知識・技能を身につけ、ともに生きていくために、どのように接していったらいいか、自分たちにできることはないか、などを考える。

取組みの流れ

<全7時間>

- 第一次 障がい（肢体）について知る。Aさんと出会う。・・・・・・2時間
- 第二次 車いすを体験する。・・・・・・2時間
- 第三次 身の回りのバリアフリーの工夫について調べ、自分たちの町を住みやすい町にするためにできることを考える。・・・・・・3時間

展開例

### 第一次 2時間 障がいについて知ろう

#### ① 知る 【障がい者の生活や気持ちを知る】 1h

- ◎ パラリンピックに向けてのドキュメンタリーを視聴し、スポーツにチャレンジしている姿から学ぶ。

気づかせたいこと

障がいは決して『かわいそうなこと』ではない。障がいのある人の意志や周りの支えにより人生を切り開いておられる。

このような番組を見るのが初めてという児童がほとんど。障がいのある人たちのチャレンジする姿に児童たちは、ただただ「すごい」と驚き、感心するばかり。児童たちは、その本人や周りの人の、あたたかさやひたむきさなどにふれて、何かを感じ、考えたことでしょう。

#### <児童の感想>

北京オリンピックならテレビでよくやっているけど、パラリンピックはニュースでちょっとしかながされないのはなんでだろうと思った。車いすバスケットで、何度こけてもあきらめず起き上がったのがすごかったです。人間ってその気になれば何でもできるんだと思いました。

#### ② 出会う 【地域に在住の車いすを使っているAさんからお話を聞く】 1h

- ◎ 車いすに乗りながらフライングディスクをあやつるAさんから、車いすでの生活の様子と日頃感じている思いなどをお聞きする。

- ▽ 普段の生活で障がいのある人から見たマナー違反の例として、スーパーの障がい者用駐車スペースに健常者が駐車していることや、障がい者優先エレベーターに健常者がいっぱい乗っていて車いすが乗りにくいときがあることなどを紹介。
- ▽ 障がいの有無に関わらず、一つのことに一生懸命に取り組むことの大切さを述べられた。

### 気づかせたいこと

- ◇ 自分たちの身近な方の話から、車いすから見える世界と思い。
- ◇ みんなが暮らしやすい町にするには、バリアフリーの考えが必要である。
- ◇ 不便な面がありながらも能力を発揮している。それをサポートしてくれる人がいる。
- ◇ 障がいがあることで不便なことはあるが、決して不幸ではない。



### <児童の感想>

#### 「Aさんと出会って」

今度、フライングディスクの大会があるようなので、優勝してくださいね。マナーが悪い人がいるということをお母さんに話しました。大人でも気づいていないことがあるようでした。

僕たちにとっては、歩道の端に犬のふんがあるのはあまり気にしてなかったけれど、それは車いすのタイヤがとおるあたりにあるので、とても困ってしまうということをはじめて知りました。

これからは車いすに乗っている人のお手伝いをしたいと思います。

### 第二次 2時間 車いすを体験しよう

#### ③ 体験する 【車いすに乗っている人の状況について、体感してみて理解する】 1h

- ◎ 実際に車いすに乗って階段や狭い場所、段差のある場所を通り、ドアの開け閉め、トイレで手を洗ってみるなど、いろいろな場所で様々な行動を試みる。
- ◎ 車いすを使っている人への必要な援助をするための知識・技能を身につける。

#### ④ 感想 【実際に車いすに乗ってみて、自分で歩いたときとの違いを知る】 1h



段差があったら一人ではあがれないよう！



### 気づかせたいこと

- ◇ 車いすに乗っている人にとって、学校内で不便を感じる場所はどこか、なぜか。
- ◇ 車いすを使っている人の気持ちやおかれている状況。
- ◇ 操作の途中で、どのように声をかければいいのか、どこに立てば一番いいのか。

### <児童の感想>

#### 「車いすに乗ってみて」

- 「この学校は古い」と改めて感じました。いちいちティッピングレバーをふまないといけないので、とても大変でした。もうちょっと、がたがたの道や段差がなかったらいいのと思いました。途中で溝にはまって、介助の人に助けてもらった。階段の下や上は介助の人がいたからいけたけど、いなかったら無理だと思った。



- 人を乗せて段差を降りるとき、ちょっとこわかった。自分で曲がったりするとき、かたがとても痛かった。車いすであんなにつかれるとは思っていなかった。乗ったとき、こけへんか不安だった。いつもは何も考えずに手を洗っていたけど、車いすに乗りながら手を洗うときは背中を丸めて手を伸ばして、やりづらかった。今度、車いすの人がこまっていたら、手伝ってあげたい。

### 第三次 3時間 暮らしやすい町を考えよう

#### ⑤ 調べる 【学んだバリアフリーについて、身の回りの状況を調べる】 2h

##### ◎ バリアフリーについて話し合い

→ 自分たちの身の回り（校内、学校の周辺、近所など）で、バリアフリーになっている所、なっていない所について意見を出し合う。

##### 【バリアフリーになっている所】

レストランのトイレ、新しくできた駅、市役所、バリアフリー対応信号機など

##### 【バリアフリーになっていない所】

手洗い場、バス、歩道、古い駅  
駅前の自転車置き場など

##### ◎ 実際に車いすに乗ってみて、学校周辺でバリアフリーになっていない所を調べる。



#### ⑥ 考える 【いろいろな人が暮らしやすい町とはどんな町か考える】 1h

##### ◎ 自分たちの町を暮らしやすい町（不便なことや困ることが少ない町）にするためにはどうしたらいいのか話し合う。

##### 気づかせたいこと

- ◇ 段差、信号、駅、自動販売機など、実際に車いすに乗った視点で見ると、いろいろと不便なことがあることを体感する。
- ◇ ただ感想を述べ合うのではなく、自分たちにできることはないだろうかを考える。

##### 【児童の意見】

- ▽ 新しくできた駅はバリアフリーが進んでいるが、古い駅は車いすの人には使いにくい。
- ▽ 身近な大人に不便な場所を知らせることで、暮らしやすい町にしていく。
- ▽ バリアフリーマップを作って市長に相談する。
- ▽ 普段からいろいろな人の立場にたって、ものごとを考えていかないといけない。

## ＜児童の感想＞

## 「取組みを終えて」

- ビデオを見たり、お話を聞いたり、車いすに乗ったりして、今まで体験したことがないことをやってみて知らないことがわかり、今までとは町の見方が変わった。
- 犬を散歩させるとき、話（犬の糞は車いすの通行に支障がある）を聞いたことを思い出した。  
みんなが住みやすい町にするためには、まだまだバリアフリーじゃないところがたくさんあるので、みんなで改善していかないといけないと思った。

## 取組みを終えて

児童たちは障がいのある人との豊かな出会いによって、障がいのあることが「かわいそう」というネガティブな感想をもつのではなく、その人の特性を生かした能力を発揮する姿や心の持ち方、周りの人々の援助によっていきいきと生活している様子を聞いて、認識を新たにしようだ。

そして、車いすを実際に体験することにより、大変さ、気持ちが実感でき、障がいのある人の目線で身の回りのバリアフリーを考察できた。また、車いすに乗りながら、サポートしながらのフィールドワーク学習によって、車いすに乗っている人に対する関わり方を体で学ぶと同時に、新たな「課題」（誰もが暮らしやすい町をつくる）が見えたようだ。

今回の取組みにより、バリアフリーとは障がい者が社会生活に参加する上で生活の支障となる物理的な障がいを取り除くことだけをいうのではなく、一人ひとりの心にある障がいを取り除くこと（心のバリアフリー）も含んでいることが理解できたであろう。人の立場に立って物事を考える感性を養えたことで、障がい者への見方、関わり方が変わったようであり、このような取組みを継続することにより、車いすを利用している人だけではなく、身近にいる様々な支援を要する人たちの思いに気づき、その思いに応える行動ができる人に育てていきたい。

そのためにも今回の取組みだけで終わるのではなく、これからも人の立場に立って物事を考える感性を養っていくような取組みが必要であると考えている。

## 【ポイント】

☆ この取組みは「障がい者の生活などの理解」として、「視聴覚教材や当事者の講話などの事前学習」を行った後で、「車いす疑似体験」を行い、バリアフリーの重要性を学ばせる教育実践である。日頃、障がいがある人と出会ったり話したりする機会の少ない児童に対して、「パラリンピックを鑑賞する」「実際に地域生活をされている障がい者からの講話」といった十分な事前学習が行われている。従来から福祉教育の一方法として取り組まれている「車いす疑似体験」であるが、事前学習なしに、疑似体験のみを行うと「障がい者はかわいそう、大変」「私たちは障がいがないとよかった」といったネガティブな意識を子どもたちが感じてしまう可能性もある（本資料集10頁参照）。

そこで、障がい者ができないことを強調するのではなく、当事者の話を通して、児童が「何度こけてもあきらめず起き上がっていたのがすごかったです。」「僕たちにとっては歩道の端に犬の糞があるのは、車いすのタイヤがとあるあたりにあるのでとても困ってしまうことをはじめて知りました。」などの問題意識を持って、「疑似体験（体験学習）」を行うことで、障がい者個人の問題ではなく、社会の問題としてバリアフリーの重要性を考えるといった、より深い学びに導くことができる。

# 心（こころ）通（かよ）わせて

## ～支援学校との交流～

### 学年等

5年生 総合的な学習の時間など

### ねらい

- ◇ 障がいのある児童とふれあいをもつことを通じて、ちがうことの素晴らしさや生命の尊厳を体感する。
- ◇ 障がい者の状況を知り、ともに生きるためには、どのように考え、どのように行動すべきかを考える。

### 【指導について】

- ▽ 障がいのある児童と出会い、ふれあいをもつ体験を通して、ちがいのあることの素晴らしさや生命の尊厳を体感し、自分も含め一人ひとりがかけがえのない存在であることに気づかせたい。
- ▽ 障がいのある児童とともに楽しく遊ぶための工夫を考える過程を大切にするとともに、実際に活動することで、いろいろなコミュニケーションの取り方があることを体得させたい。
- ▽ 支援学校の中にある様々な設備や機器にふれて、それらの役割を知り、誰もが生活しやすい社会について考えさせたい。
- ▽ 支援学校との交流を通して、社会には様々な人々が暮らしていること、その誰もが自分らしく幸せに生きていける権利を持っていることを理解し、どんな場面においても相手を思いやる心、助け合える心をもって生きていける人に育てたい。

### 取組みの流れ

<全 10 時間>

第一次	障がい者の状況を知る	3 時間
第二次	支援学校との交流に向けて	4 時間
第三次	支援学校との交流	2 時間
第四次	振り返り	1 時間

### 展開例

#### 第一次 3 時間 障がい者の状況を知る

#### ① 知る 【障がいについて知る】 2 h

◎ 「五体不満足」（乙武洋匡 講談社）（先天性四肢切断の著者が、自身の生活体験などをつづった本）

◎ 「光とともに…自閉症児を抱えて」（戸部けいこ 秋田書店）

（自閉症児「光」とその家族の葛藤や日常生活の大変さ、保育園や小学校の特別支援学級での生活、中学校の特別支援学級へ進学した「光」の成長と新たな問題などが描かれている本）

#### ② 考える 【バリアフリーやユニバーサルデザインについて考える】 1 h

◎ 乙武さんのビデオ（テレビを録画）を見て、バリアフリーなどについて考える。

#### 気づかせたいこと

- ◇ 普段、何気なく生活している中でも、障がいのある人にとっては生活しづらいことがたくさんあること。
- ◇ ユニバーサルデザインの考え方が広まってきていること。



## 第二次

4 時間

支援学校との交流に向けて

### ③ 知る、考える 【支援学校を知る】 2 h

- ◎ 支援学校からのビデオレターを見る。
- ◎ 支援学校の先生による事前授業、質問タイム

支援学校の小学部にも1年生から6年生までの友達があります。車いすに乗っていたり、足に装具をして生活している友達もいます。支援学校の時間割には、国語や算数などの小学校と同じ教科もありますが、自立活動(※)という時間もあります。

他に、いろいろな種類の車いすの紹介、車いすの押し方 など

※自立活動の目標＝個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達 of 基盤を培う。(特別支援学校小学部・中学部学習指導要領より)

### ④ 考える、動く 【交流に向けて】 2 h

- ◎ 支援学校へのビデオレターを作成する。
- ◎ 交流会でのあいさつや内容について考える。

わたしたちもビデオレターを送ろうよ！

どのようにして、いっしょに楽しもうかなあ。

考えさせたいこと

◇ どういうところに着目して、何を工夫すればいっしょに楽しめる交流ができるのだろうか？

学 習 活 動	指 導 の ポ イ ン ト
<p>○ 交流会の内容について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ わかりやすいあいさつを考える。</li> <li>・ いっしょに楽しめる遊びを考える。</li> <li>・ 遊び方や楽しみ方の説明を考える。</li> <li>・ どのようにコミュニケーションをとっていけばいいかを考える。</li> </ul> <p>みんなのよく知っている歌を歌ったらどうかなあ。</p> <p>よくわかるように、ゆっくりと話せばいいかなあ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バリアフリーやユニバーサルデザインについて学んだことを思い出す。</li> <li>・ 乙ちゃんルールやビデオレター、支援学校の先生の話を読み出し、わかりやすいあいさつやいっしょに楽しめる遊び、その方法について考える。</li> <li>・ 言葉を交わさなくてもできるコミュニケーションの方法について考える。</li> </ul> <p>スロープを使ってペットボトルボーリングをしようよ！</p> <p>手をつなぐだけでも通じ合えるかもしれないなあ。</p>

## 第三次

2 時間

支援学校との交流

### ⑤ 深める 【支援学校の児童との交流】 2 h

- ◎ 自分たちの考えた遊びを通して交流する。

【目標】障がいのある児童とふれあう中で、心を通わせ生命の尊厳やちがうことの素晴らしさを体感する。

学 習 活 動	指 導 の ポ イ ン ト	備考(準備物)
1 交流全体会 ・ 支援学校の児童のあいさつを聞く。 ・ 支援学校の児童へのあいさつと歌を披露する。	・ 話している人をしっかり見て、心を傾けて聞く。 ・ わかりやすく表現する。	名前カード  歌詞カード
2 各クラス（グループ）に分かれて交流する。 ＜主な交流内容＞ ・ 風船バレーボール ・ ハンモックでゆらゆら ・ サイコロコロコロ（すごろく） ・ 手話で歌う 「ともだち」 ・ おしくらまんじゅう ・ スロープでのペットボトルボーリング ・ フルーツバスケット ・ ころがし卓球	・ 相手の障がいの特性に配慮して行動する。  ・ 支援学校のそれぞれのクラスの先生の説明、注意をよく聞く。  ・ わからないことや疑問に思ったことは素直に質問する。	
3 全体で集まり、終わりのあいさつ ・ ふれあった児童たちと別れとお礼のあいさつ	・ お互いに、次の出会いへの期待感をもてるようにする。	

ころがし卓球の様子



第四次

1 時間

振り返り

⑥ 振り返りを交流する 1h

◎ これまでの学習について話し合い、感想を書く。

＜児童の感想＞

「交流会」を終えて

- 手話をしながら歌を歌いました。「ともだち」という歌でした。手話をするのがちょっとむずかしかったです。行く前とかは不安やったけど、遊んでみて楽しかったです。
- くすぐり遊びとかハンモックとかをやりました。Aさんの手の動きや表情の変化で、わらってるとか、ねむたそうとか、先生はちゃんとわかっていました。教室に入ると、みんな横になりながらお茶を飲んでいました。体温調節や水分調節がとても大切だとわかりました。

○ Bちゃんとあいさつした後、わたしが手を差し出すと、笑顔になりギュッと手をにぎり返してくれました。私はその時、とてもうれしかったです。その後、ふうせんバレーをしました。  
みんな一生けんめいやってくれたので、うれしかったです。

### 取組みを終えて

校内に重度の障がいのある児童が在籍していないので、この交流を実施するまでは、障がいのある人どのようにコミュニケーションをとればよいのかわからず、不安を感じている児童が多かった。

しかし、支援学校の児童や先生方に明るく温かく迎えていただき、緊張していた気持ちも少しずつほぐれたようだ。どうすればよいかわからないことを素直に支援学校の先生に聞きながら実際にふれあう中で、言葉だけでなく様々な方法でコミュニケーションがとれることがわかって、支援学校の児童たちとのゲームなどの交流を本当に楽しんでた。これまでの知識だけの学習ではわからなかった、たくさんのことを心と体で学んだ交流会であった。

この取組み全体を通して、自分の身の回りだけの狭い範囲でしか物事を見ていなかった児童たちの視野が広がったことであろう。さらに、この交流会をきっかけとして、支援学校の「もちつき大会」に参加したり、本校の「チャイルドカーニバル」（児童会主催の行事）に支援学校の児童を招待したりして交流を継続している。また、児童たちは「チャイルドカーニバル」の計画を立てる際、バリアフリーの考え方を取り入れて、障がいのある人も楽しめるよう計画を立てていた。

このように、この取組みにより体感し、気づき、学んだことは、障がいのある人に対しての思いやりから行動に確実につながっている。今後は、日々の生活における身近な友達や家族への思いやりや助け合いにも生かすことができるよう、さらに支援していこうと考えている。

### ◎ 支援学校の「もちつき大会」での交流の様子



### 【 ポ イ ン ト 】

☆ 支援学校との交流を通して、障がい児(者)の生活理解を深めることを目的とした取組みである。単に「交流すること」を目的とするのではなく、支援学校からのビデオレターや教材学習を行うなど丁寧な事前学習を行い、事前学習を基に自分たちに何ができるかを主体的に考え、アイデアを出し合って、交流を行っている。知識のみの福祉教育や障がい理解教育ではなく、実際に出会い、交流を通して感じたことがともに生きる社会を創造することの必要性を考える機会となる。この交流で築いた、支援学校と地域の学校の児童の互いの顔がわかりあうようなつながりは、児童たちの将来の生活にとって貴重な財産になるであろう。



# みんなであくしゅ

## ～学校全体をあげての構造化の取組み～

学年等

学校全体 ～共生社会をめざして～

ねらい

児童が安心していきいきと学ぶ中で、生きる力を身につけ、自分らしく自己表現を図っていくことのできる教育活動の推進をめざす。

- ◇ どの児童もいきいきと生活ができるように、組織的に学校をあげて構造化に取り組む。
- ◇ 障がいのあるなしや、教科の得意・不得意などにかかわらず、どの児童にもわかりやすく学習できるように、授業内容を工夫する。
- ◇ 学びあい、支えあい、高めあう児童と先生のいる学校をめざす。

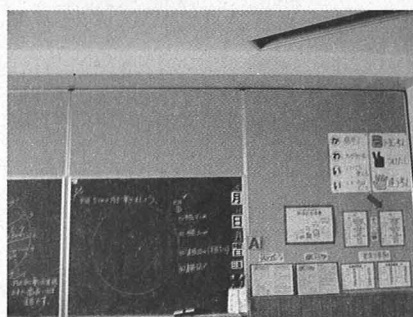
### 【構造化について】

構造化とは、見通しをもたせ、集中しやすくするための環境や指導の工夫である。例えば、LDなどの支援の必要な児童が、自律的に自発的に行動したり考えたりできるようになることを目的として行う。理解が進み、適切な行動が可能になり、成功体験ができるように、場所や場面、スケジュールや時間、活動の内容や順序などを構造化する。このような構造化の取組みは、全ての児童にとっても安心して生活を送る上で有効である。

### 取組み例

### 【教室環境の場所や時間などの構造化】

#### ① 前面黒板の壁面



黒板に集中できるように、黒板の上部には掲示物をはらずにすっきりさせている。

#### ② 1日のスケジュール



教員を頼らずに、児童自ら一日のスケジュールを把握できるようにしている。

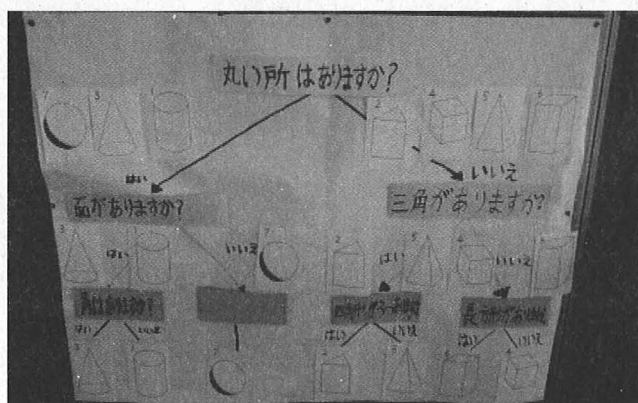
#### ③ 当番表



名前カードに顔写真をはり、誰がどの当番なのかすぐにわかるようにしている。

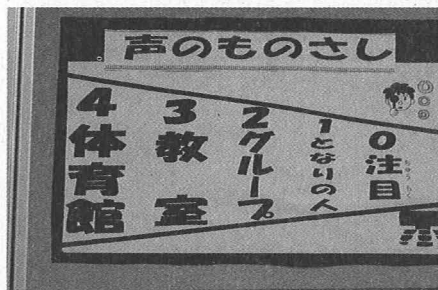
#### ④ 立体の呼び方

問題を図解し、解き方の流れをわかりやすく説明している。



## 【授業中のルール】

- ①「 声のもののさし（中高学年用） ② 挙手するときの決まり ③ 話し合い時のルール



出す声の大きさを「ただ大きい声で話さない」と指示するのではなく、図解することで誰にでも理解しやすいようにしている。



全員が授業に参加できるように、挙手するときの決まりごとをつくり、図解している。



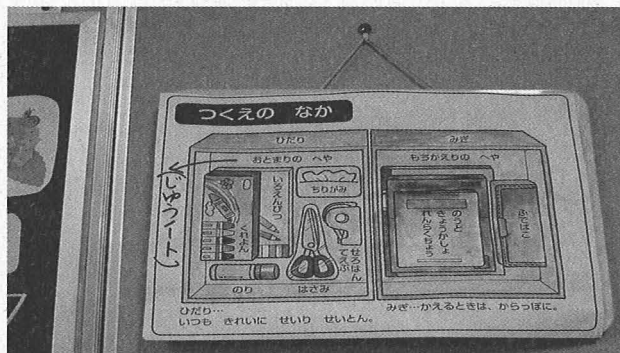
話し合いのルールを決め、取組み内容により「ひそひそモード」や「おだまりモード」のカードを黒板に貼り、はじめをつけやすいようにしている。

- ③ 声の大きさ表（低学年用）



出す声の大きさを「ただ大きい声で話さない」と指示するのではなく、動物の大きさに理解しやすいようにしている。

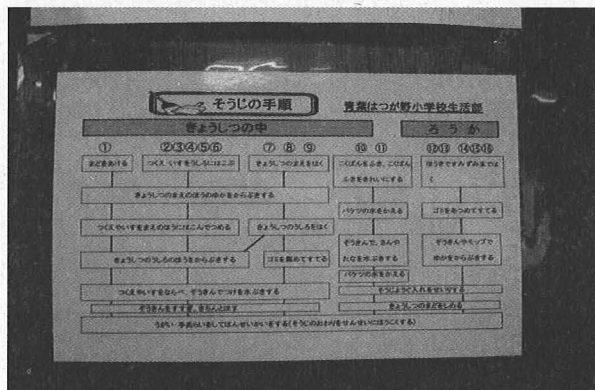
- ⑤ 机の中



何があって、何がないのか。  
また、使った物をどこにしまうのかを図解し、整理しやすいようにしている。

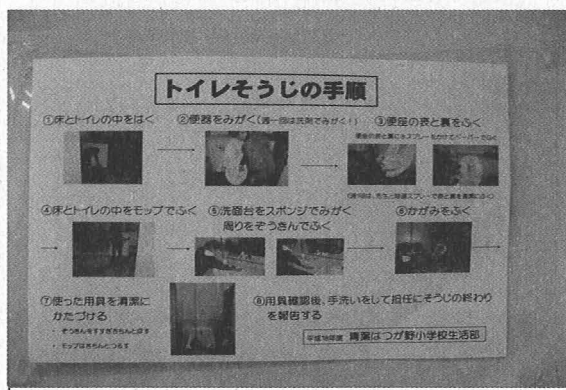
## 【そうじの構造化】

- ① そうじの手順



誰がやっても同じようにきれいに掃除できるよう、一枚に図解し、わかりやすくしている。

- ② トイレそうじの手順



トイレのように、そうじ手順が複雑である場所には、できるだけわかりやすいように画像で表示している。



### ③ ごみはここへ！



ゴミ箱の位置がすぐにわかるように、また、設置場所を固定するために、図示している。

### ④ スリッパの並べ方



使うときにはきやすいように、脱ぐときに整えやすいように、仕切りをつけている。

### ⑤ 道具の置き場所



そうじ道具入れがない場所では、使いやすい状態で、かつ教室活動の妨げにならないように一箇所に道具を集めている。

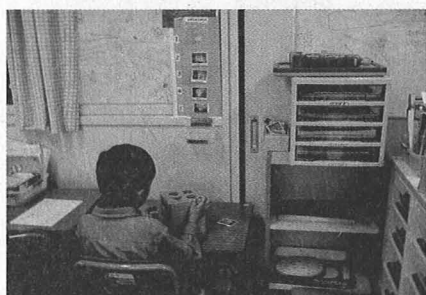
### ⑥ ぞうきんをきれいにならべよう！



洗ったぞうきんを、きちんと干すというのは、児童にとって少し面倒なことである。そこで、できるだけわいくて楽しそうなイラストを使い楽しく作業ができるように工夫している。

## 【支援学級の構造化】

### ① 座席の配置



みんなと一緒に勉強するのが苦手な児童には、自分でできることを増やせる場所として、教室を仕切って居場所を決める。

### ② 整理カゴ



机の横のカゴは、課題を入れておくもの。課題を一つずつカゴにわけて、混乱をさけている。

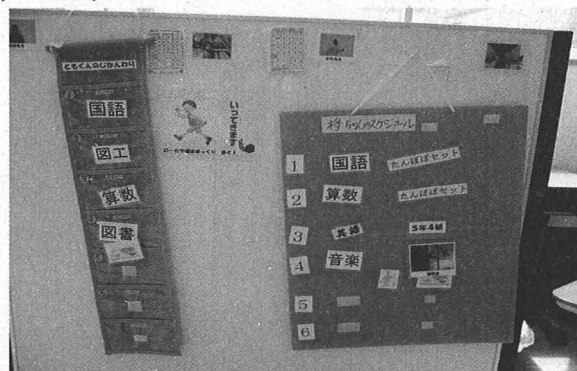
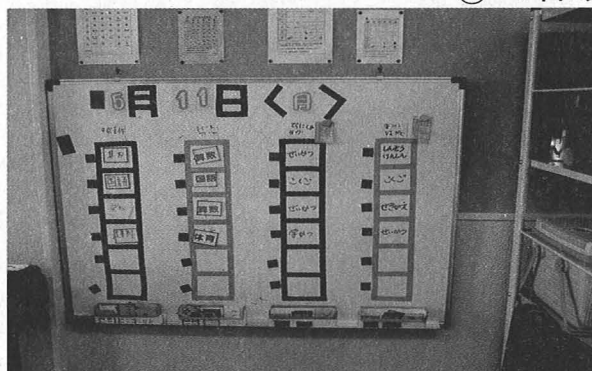
### ③ ブースの工夫



児童一人ひとりの特性に応じて、ブースの掲示物をかえている。



#### ④ 1日のスケジュール



児童も教員も、すぐに一日の流れが把握できるように図示している。

#### 【学習への視覚支援】

##### ① スピーチの仕方

スピーチの組み立て方がわかるように、カードにしている。

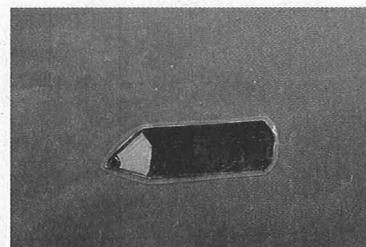


##### ② いまここ



黒板上で「今、どこを学習しているのか」を示すカード

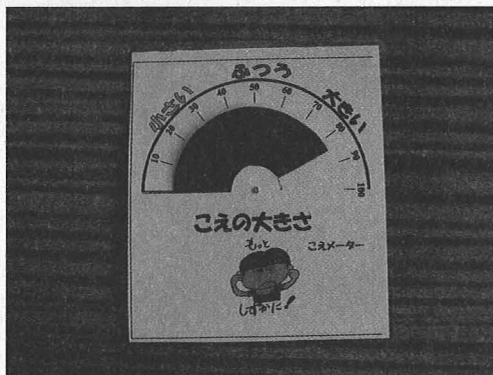
##### ③ ここを書く



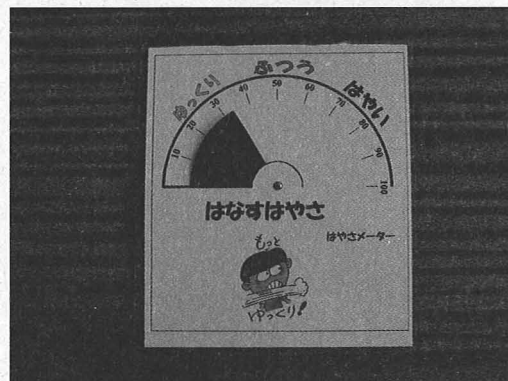
黒板上で「どこを書くのか」を示すカード

「こえメーター」「はやさメーター」「カメーター」はそれぞれの大きさをメーターにして視覚的に示す。

##### ④ こえメーター



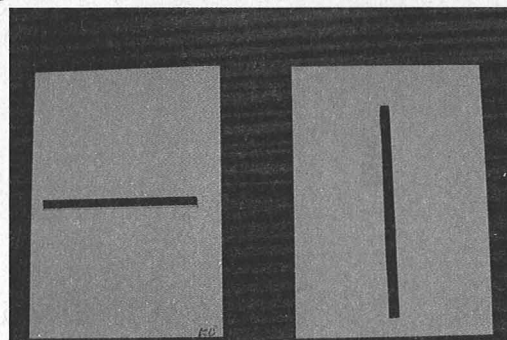
##### ⑤ (はなす) はやさメーター



##### ⑥ カメーター



##### ⑦ 読みのスリット板(本読み用の補助グッズ)



一行ずつ本を読むときに使う補助グッズ  
(左:よこがき用、右:たてがき用)

本にシートをかぶせて、  
一行ずつ見えるようにスライドさせる。

## 取組みを進めて

[障がいを理解するための教育を、次の3点を軸にして推進]

- 啓発 <教職員へ> ・肢体に障がいのある児童の保護者の話を聞く ・市教育委員会指導主事の講話
  - ・肢体に障がいがあり、パラリンピックに挑戦している先生による講演
  - ・支援教育学習会（発達障がい、WISC-Ⅲの検査法、模擬事例検討会）
- <児童へ> ・車いすダンスの人たちとのワークショップ ・各学年と支援学級との交流会
  - ・支援学級担当教員による通常の学級に出向いてのワークショップ
- 支援教育の推進 ・学校便り ・支援教育校内委員会（事例検討会、支援教育学習会）
  - ・支援教育校内研修会（年2回：配慮児童の報告会）（年2回：校内全体研修会、学識の講演など）
  - ・構造化（学習環境の整備、掃除など） ・大阪府発達障がい者支援センター（アクト大阪）の巡回相談
- 交流教育の推進 ・支援学級と他校の支援学級や地域との交流
  - ・支援学級と通常の学級との交流（授業時間、休み時間、給食時間、当番・委員会活動、学年交流会）

これら様々な取組みを進めていくことを通じて、学習環境面での構造化が自然に進んできた。特に教室の環境整備についての、前面黒板の壁面はすっきりと、1日のスケジュール、授業中のルール、机の中、当番表、名札のチェックなどの学級担任の工夫を始めとして、教室やトイレ掃除の仕方などでも工夫するようになってきた。これは、発達障がいなどの支援の必要な児童だけでなく、どのような状況の児童にもわかりやすいユニバーサルデザインをめざしている。もちろん、支援学級でも構造化を進め、自立課題が取り組めるように工夫しており、介助の必要な児童も少しずつ自分でできることが増えてきた。1日のスケジュールは、その児童に適するよう活動の内容や順序を立てている。また、スピーチにも力を入れており、スピーチの仕方を視覚により支援している。

これらの取組みのおかげで、支援学級の児童は様々な人と関わる中で本当に楽しくいきいきと自信をもって学校生活が送れていると実感している。支援教育は、磐石な学級経営のもとで成立すると日頃感じている。一人では支援教育は進められない。学校全体の体制の中で全教職員の共通理解の下、障がい者を取り巻く課題と障がいについての理解を深める教育がますます浸透し、児童みんなが安心していきいきと生活でき、学びあい、支えあい、高めあう子どもと先生のいる学校をめざしていきたい。

## 【 ポ イ ン ト 】

☆ 全ての児童が安心して生き生きと学ぶためには、支援学級在籍の児童のみならず、様々な教育的ニーズをもつ児童たち一人ひとりに対して個々のニーズにあった教育を提供することが必要である。

この取組みは、聴覚からの情報が理解しにくいとされている広汎性発達障がいの児童などに対して「構造化」をキーコンセプトに校内や教室での「共学・共生社会」をめざした取組みであり、特別支援教育と人権教育を統合する形での福祉教育の実践であるといえる。

☆ <学校におけるユニバーサルデザイン化のポイント>（愛媛大学 花熊 暁 教授）

\* 教室・学習環境づくり ・教室環境の整備 ・学習環境の整備

\* 授業づくり ・見通しがもてるように ・指示、説明をわかりやすく

・視覚的にわかる手がかりを用意 ・個人差に考慮し、基礎と発展を明確に

\* 学級集団づくり ・落ち着いてすごせる学級の雰囲気 ・間違いや失敗を否定的にみない学級

・学び方の違いを認め合える学級

2. 中学校の事例

「違い」を認める  
～障がい理解～

学年等

1 年生      総合的な学習の時間など

ねらい

- ◇ 自分の特性を理解しながら夢をかなえた人について知り、私たち一人ひとりが「違い」をもつ存在であることに気づく。
- ◇ 「違い」をいじめや排除につなげるのではなく、認め活かすことができる集団とは、どのような集団なのか考える。

【指導について】

- ▽ ワークショップを通じて、生徒一人ひとりの考えや思いを互いにしっかりと聞くとともに、違う意見に対しても受け入れたり、同感したりする大切さを理解させる。
- ▽ アメリカの俳優（トム・クルーズ）が自分の特性（難読症）を理解しながら夢をかなえたエピソードを資料にして、一人ひとりの「違い」について考えさせる。
- ▽ 生徒自身の誕生のエピソードを聞き取ることによって、生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する大切さを考えさせる。

取組みの流れ

< 全 4 時間 >

- 第一次    ワークショップ    「言葉でコピー」「わたしは誰でしょう」
- 第二次    トム・クルーズの難読症について
- 第三次    誕生エピソードについての交流
- 第四次    「わたしのいもうと」を読んで話し合う

（作：松谷みよ子    絵：味戸ケイコ    偕成社）

展開例

第一次      1 時間      ワークショップ

□ 「言葉でコピー」「わたしは誰でしょう」

【目標】自分とは違う様々な個性や立場を持った人への理解を深める。

学 習 活 動	指 導 の ポ イ ン ト	備考(準備物)
1 「言葉でコピー」ワークショップ ・ゲームの方法を聞く。 ・指示に従って、白い紙に絵を描く。 「まるを三つと、棒を一本かきましょう」 ・書いた絵を交流する。 ・ゲーム終了後、感想を話し合う。	・一人ひとりの考えたことや、思っていることが違っていることに気づき、違っていても当たり前だということを確認する。  ・それぞれの感想を、相手に伝わるように話をさせる。	白い紙 命令カード



<p>2 「わたしは誰でしょう」ゲームをする。</p> <p>・5人の有名人の特徴的な文章と写真から、誰かをあてる。</p> <p>A ハンス・クリスチャン・アンデルセン</p> <p>B アルバート・アインシュタイン</p> <p>C トーマス・エジソン</p> <p>D 黒柳徹子</p> <p>E トム・クルーズ</p> <p>・5人の人物に共通していることを話し合う。</p> <p>・ゲーム終了後、感想を話し合う。</p>	<p>・子どもの頃に、個性的で周りとは違うと見られていた人物が、周りの理解や本人の努力により、人より秀でた部分を伸ばして夢をかなえてきたことを知る。</p> <p>・有名な人物だが、一人ひとりの特徴が違うこと、また、そのことから苦労や努力をしてきたことについて知る。</p>	<p>5人の特徴的なエピソード文と写真を掲載したワークシート</p>
--	---	------------------------------------

【ワークシート】

### わたしは誰でしょう？有名人クイズ

Q1 A～Eは誰のことを説明した文章ですか？ヒントの写真を見て考えよう！

＜5人の写真＞

【ヒント語群】

黒柳 徹子  
アルバート・アインシュタイン  
トム・クルーズ  
トーマス・エジソン  
ハンス・クリスチャン・アンデルセン

A 少年時代、彼は文字を読むことが苦手だった。しかし、後に世界でもっとも読み継がれているたくさんのお話を創作した。デンマークの詩人・童話作家で、『みにくいあひるの子』『人魚姫』『はだかの王様』などが世界中で親しまれている。 ( )

B 彼は4歳まで話さなかった。勉強も苦手で、友達ともなじまず、スポーツにも無関心、暗記ができない。質問してもすぐ答えず、答えても口の中で何度も繰り返している。大学受験にも失敗。後に彼は相対性理論の基礎を築き上げたその業績から、20世紀最高の理論物理学者と言われている。1921年にノーベル物理学賞を受賞。 ( )

C 小学校に入学するも、教師と相性があわず中退した。小学校当時、算数の授業中には「1 + 1 = 2」と教えられても理解することができず、「1個の粘土と1個の粘土を合わせたら、大きな1個の粘土なのになぜ2個なの？」と質問したり、国語の授業中にも「A（エー）はどうしてP（ピー）と呼ばないの？」と質問するといった具合で、授業中には事あるごとに「なぜ？」を連発していたという。電話機、蓄音機、電球、発電機などを発明し、「発明王」と呼ばれる。 ( )

D 「森」という文字を書こうとしても位置関係がとれず「木木木」と書いてしまう。最初に登校していた私立小学校を退学になった。大人になってからは、30年以上続く日本初のトーク番組『徹子の部屋』の司会や、累計750万部を誇る戦後最大のベストセラー『窓際のトットちゃん』の著者として知られる。 ( )

E 12歳のときに両親が離婚したため、経済的に苦しい生活を送った。学生時代はスポーツに熱中するが挫折し、その後、演劇に関心をもつようになった。1986年の『トップガン』の世界的大ヒットでトップスターの仲間入りを果たした。 ( )

Q2 A～Eの人物に共通することはなんだろうか？

Q3 教室で彼らが「自分への自信」を失わないため、どんなことが必要だと思いますか？

Q4 人にはそれぞれ個性や違いがあります。自分の個性を伸ばすためにどんなことができると思いましたか。

### ～よみもの～

「子どもの頃はすごく孤独でさびしかったよ。なぜかって？字が読めないから周りの連中にかかわれ、いじめられていたんだよ。だから、子どもの頃の私はすごい内気で静かな少年だったよ。」「一生懸命、文章を読んだけれど、読み終わった後にはほとんど何も記憶に残らないんだ。自分に失望し不安を常に感じ、常にストレスを感じていたんだ。字が読めない自分を恥じていたしね。」

子どもの頃から字が読めないことを隠し続けてきたトム・クルーズ。何回か転校を繰り返していたが、その都度、字が読めないことを隠してきた。しかし授業でそのことがばれてしまう。子どもの頃のつらい体験が、大人になっても忘れることができない。しかし、そんな彼にも心から信頼できる仲間がいた。

「いつもお母さんと3人の姉妹と遊んでいたよ。」トムにとって一番の理解者であり友達であるのは家族であった。「お母さんは当時、3つの仕事をかけもちしていたよ。それに僕たちの世話もきちんとしてくれたんだ。『トム、あなたはすごい才能と可能性を持っているわよ。』『決してあきらめちゃダメよ。』」といつも励ましてくれたんだ。宿題や勉強も根気よくつきあってくれたんだよ。」

## 第二次 1時間 トム・クルーズの難読症について

【目標】他とは「違う」自分が、「ありのままの自分」でいられることの大切さを実感する。

学 習 活 動	指 導 の ポ イ ン ト	備考(準備物)
1 ハリウッドで活躍するトム・クルーズの簡単な紹介を聞く。 ・12歳までに転校7回、転校先でのいじめ、父の暴力、貧困、両親の離婚、高校時代アキレス腱の損傷により大好きなレスリングをやめる。難読症である。	・トム・クルーズの写真を用意し、馴染みの深い人物であるが、様々な苦勞を乗り越えていることに共感を持って聞けるように話をする。 ・難読症についての説明をし、理解させる。	トム・クルーズの写真など
2 トム・クルーズのインタビューを観る。 (NHK番組 発達障がいについて 3分)	・夢をかなえるには、自分なりに生きていくことを知ることや自己を表現することが必要になるが、本人の力だけでなく、周りの理解も大きく影響していることをおさえる。	NHK番組ビデオテープ
3 人それぞれの個性や違いについて、自分や周りの仲間はどうかについて、考えて話し合う。	・自分なりの感想を持ち、自分の言葉で言えるように書いてから発表させる。	

## <生徒の感想>

## 「トム・クルーズのこと」を学習して

- トム・クルーズが必死で努力を積み重ねて自分の難読症を克服したことは、かっこいいし尊敬できた。もし、自分のクラスにトム・クルーズのような子がいたら、俺は本気で役に立ちたいし、「あいつがおらんかったら、今の俺はないやろな。」と思わせる人になりたい。人の体のこととか特徴をネタにしている芸人が消えていくみたいに、人の「違い」をネタにするやつは、中学生までは友だちがいるかもしれないが、高校生になって他中学から来た人に嫌われると思う。
- 今のクラスは人と人との「違い」を認められるクラスだと思う。からかうようなヤツはいないし、ネタにされている人もいない。でも、Aみたいに自分のことをまだ口に出せない子もクラスにいると思う。もし、人のことをネタにしてからかっているヤツがいれば俺は絶対に止める。
- もし、友だちにトム・クルーズのような人がいれば、今の自分はバカにしないけど、うまく関われるかどうかわからない。今のクラスでもからかわれている人はいると思う。あまり「違い」を認められてないように思う。自分を出せている人は出せていると思うけど、それをからかう方向へもって行って、その人を傷つけている。勉強がわからない子にやさしく教えるという感じではないと思う。そこはみんなを変えなければいけないと自分は思う。
- 実は、私も運動は苦手だし勉強も苦手で、他の友だちはどちらかが得意なのに、なんで私は両方苦手なんだろうと思っていました。自分の部屋で必死に特訓したことを思い出します。小さいとき自分の体の特徴を言われて何度も泣いたことがありました。今のクラスでは、……。まだ出せないと思う。自分のことを出したら、他の人に言いふらされそう……。

## 第三次 1 時間 誕生エピソード（生命の学習）についての交流

【目標】一人ひとりが「違う」特別な存在であることを実感する。

学 習 活 動	指 導 の ポ イ ン ト	備考(準備物)
<p>◎ 家族に事前聞き取り</p> <p>1 聞き取ったことを交流する。</p> <p>・家族に事前聞き取りをしたときの家族の様子について交流する。</p> <p>2 名前の由来について、発表する。</p> <p>・一人の生徒の名前の由来を発表し、感想を出し合う。</p> <p>・自分と似ている点、違う点などを聞き取ったことをもとにして発表する。</p> <p>3 誕生エピソードについて発表する。</p> <p>・一人の生徒の誕生エピソードについて発表し、感想を出し合う。</p>	<p>・事前に保護者へのアンケートを依頼し、生徒自身に聞き取らせる。聞き取りが難しい家庭については、十分配慮する。</p> <p>・一人ひとりの名前の由来については、何らかの保護者の思いがあることに気づかせる。</p> <p>・発表する生徒については、特に伝えたいところや、伝えて欲しいことを十分に打ち合わせておく。</p> <p>・家庭の事情を十分に把握し、伝えきれない場合は、補足をしたり、説明をしたりできるようにしておく。</p>	<p>保護者への依頼状</p> <p>アンケート用紙</p>



4 聞き取りしたと重ねて、命の大切さについて話し合う。	・生まれてきた命を大事にするとともに、他の人の命も大切にしていかなければいけないことについて、それぞれの思いや考えを出しあう。	便箋
5 保護者へ手紙を書く。	・保護者に、普段、面と向かって言えない思いを手紙に表す。	

第四次

1 時間 「わたしのいもうと」を読んで話し合う

(作：松谷みよ子 絵：味戸ケイコ 偕成社)

【目標】一人ひとりが「違う」特別な存在であることを実感する。

学 習 活 動	指 導 の ポ イ ン ト	備考(準備物)
1 「わたしのいもうと」を読む。 (いじめの悲惨さを描いている絵本)	・黙読、指名音読、一斉音読などしながら読みこなしていく。	絵本「わたしのいもうと」 感想を書くプリント
2 感想を書く。	・自分の生活や生き方を重ね合わせて、感想を書くように助言する。	
3 感想を発表する。	・自分の言葉で伝え、それに対して周りからもコメントさせる。	
4 身近な友だち、地域の方々など、ちがっていてあたりまえの社会になっているのかどうかについて考え、話し合う。	・まとめの話し合いとして、これまでの学習を思い出させながら、最初は班で話し合い、その後学級全体で話し、生徒の感想を引き出す。	

取組みを終えて

学習障がいなどの支援の必要な生徒が、自身の障がいに気づかないまま自尊感情を低めてしまい、学習への意欲をさげ、夢へ向かう努力をあきらめてしまわないために、どんな気づきが必要か。そんな思いが教材づくりのスタートだった。

「思いもよらなかった仲間の『違い』について知ることが相互理解の深まりとなること」「集団の励ましや理解が人を伸ばし、夢への一步を踏み出す勇気を与えること」を、夢をかなえた人を例に挙げ示した。

「誰もが『違い』のあるかけがいのない命」「お互いを知ることによりつながることができる」そのようなことを生徒たちが気づき理解できることで、「違い」を認め、生かすことができる集団に成長していくことであろう。

【 ポ イ ン ト 】

☆ 誰もが知っている著名人が、実は発達障がいであったエピソードを紹介し、生徒たちが興味を示すような導入を行っている。周りの関わり方や、本人が自分の特性を受けとめ「どう生きてきたか」にふれることによって、一人ひとりが違う存在であり、様々な可能性を秘めていることを考えさせている。このような導入から、自分自身の誕生のエピソードを聞き取ることで、個々の「違い」はありながらも生命の大切さの共通性を、自分について振り返ってみて考えさせている。このような取組みは、発達障がいがある生徒の自尊感情を高めることとともに、周りの生徒たちの発達障がいに対する意識変革を図り、偏見をなくしていくことにもつながると考えられる。このような取組みでは、導入から個々へと導いていくプロセスが大切であろう。

## 地域に育まれ、発展する学校づくり

～ 地域、社会福祉協議会と連携したボランティア活動（高齢者との交流）～

### 学年等

全学年 特別活動、総合的な学習の時間、放課後などの課外活動 など  
～10 年先、20 年先の地域を担う人材の育成～

教員が田畑（学校や地域）を耕し、そこに蒔かれた種（生徒）が太陽の光を浴び（保護者や地域の人々の見守り）、  
十分な水や肥料を与えられること（福祉委員会や市社会福祉協議会の協力）で、実りの秋を迎える。

### ねらい

- ◇ 高齢者とふれあい、地域との関わりをもつことにより、人を思いやる優しい心を育む。
- ◇ 自分たちの住んでいる地域で役立つ活動を行うことを通して、『自己有用感』や『自己効力感』を育み、「自分自身」や「生きる意味」について考えるきっかけとする。
- ◇ 地域の方と生徒が一方通行の関係でなく、双方向の関係を作ることにより、地域との連携を深め、「学校力」（学校のもつ総合的な力）を高めていく。

### 【指導について】

学校周辺は、駅前の再開発が進み高層マンションが次々と建設される一方、それらの建物に埋もれてしまうように一人暮らしの高齢者の多く住む長屋もあちこちに残り、過去と未来が交錯する今日を代表するような環境である。一方、生徒の家庭生活面は昨今の不況が影をおとし、共働き世帯はもちろんのこと、経済的に厳しい母（父）子家庭も増え、生徒が家庭や地域の中で、日々あたたかく見守られることが少なくなってきた。また、学校生活においては、一見落ち着いているように見えるものの生活上の課題を抱えている生徒が多数いるのが現状である。

このような課題に対して、校区で小・中学校を見通した上で、どのように生徒を支援していくのかを考えると、学校・地域・保護者の連携をもとに様々な活動をする中で、人を思いやる優しい心を小さい頃から育てていくことが重要であると強く感じ、これらの実践が始まった。

生徒たちが高齢者との会話を楽しみ、はつらつとした前向きな姿にふれることにより、自然な形で自らの生き方を見つめるとともに、高齢者に対する敬愛の念を抱かせるようにしたい。

### 取組み

#### 〔登録した生徒によるボランティア活動での取組み〕

- 「フラワー・プレゼンター」活動（一人暮らしの高齢者へ、誕生月に花束を渡して交流する）
- 毎月、保育所や特別養護老人ホームなどにおける絵本の読み聞かせ
- 季節ごとの駅前清掃に参加
- 地域イベントスタッフとして参加（盆踊り、コミュニティセンター祭り、土曜サロン、福祉祭り、敬老の集い、ミニ運動会など）

#### 〔総合的な学習の時間などでの取組み〕

- 一鉢プレゼント（1年生が育てた花鉢を、地域の約 400 人の一人暮らしの高齢者宅にメッセージカードとともに届ける）

## 【取組みについて】

### ① 地域の関わり

校区の福祉委員会と中学校の連携は、地域におけるボランティア活動の高まりを背景に様々な形で展開されてきた。平成7年に、校区福祉委員会主導で『ふれあいの中から生まれる思いやり』をモットーに“福祉啓発看板”を設置し、翌平成8年には“ボランティア情報掲示板”を設置した。この後、生徒のボランティア活動への自主的な参加を呼びかける機運が生まれた。具体的には、校区福祉委員会を通して、一人暮らしの高齢者へ、誕生月に校区で準備された花束を中学生3～4人のグループが持参・訪問する世代間交流が始まり、平成10年からは『フラワー・プレゼンター』と名づけられ、「花束を届けることで、美しい心を届けよう」と、今日まで続いている。

もともと中学校3年間を見通した福祉体験学習を、校区福祉委員会が主体的に推進してきた経緯がある。これらの活動を通して、中学生に「人を思いやるやさしい心が育ってきた」と地域の方よりお褒めの言葉をいただき、生徒が日常的に地域の人たちと関わりを持つ中で、人としての生き方を学べる土壌をつくっていただいたと感謝している。

### ② 学校の取組み

地域の様々な応援を受けて、平成18年からは中学校が主体となり、生徒が自分たちの住んでいる地域で役立つ活動を行い、その体験を通して「自分」や「生きる意味」について学ぶ取組みを進めている。

福祉委員会、中学校、市社会福祉協議会の3者で「地域を通じた福祉教育」について論議を重ね、様々なボランティア活動を通して地域が子どもを育てるとともに、子どもが自分の中で育んだ心を地域にお返しする仕組みが構築された。

「こどもの夢が地域に花ひらく学校」を合い言葉に、『フラワー・プレゼンター』に加え、保育所や高齢者施設での絵本読み聞かせ、季節ごとの駅前清掃活動や地域行事スタッフ参加などを通して、地域づくりの後継者としての自己有用感(人の役に立つことがうれしい)を育む活動を行っている。

市社会福祉協議会も、福祉体験学習における用具貸し出しの申込みを受け付けるなどの事務的な作業にとどまらず、市教育委員会と合同で教職員向けの説明会や講演会を開催したり(啓発活動)、学校の会議や行事などにも参加し協力関係を築き、地域と学校を強く結びつける役割を担っている。

このような中で、生徒は「自分」や「生きる意味」について学ぶことができ、様々な体験を通して地域づくりの後継者としての自己有用感を育んでいる。

#### 取組み例

#### □ 一鉢プレゼント(一年生の特別活動や総合的な学習の時間など)

年に一度、一年生が育てた花鉢を地域に住む約400人の一人暮らし高齢者宅へメッセージカードとともに届けている。民生児童委員に協力を依頼し、校区内に住む600人を越える一人暮らし高齢者宅へ事前に趣旨を伝えてもらい、受けとってもらえるかどうか確認することから始める。高齢者の中には、「今年は何の花?」と、孫のような中学生と話ができることがうれしくて、今年は「いつ来てくれるの?」と心待ちにしてくださる方もたくさんいる。

土に種をまき、水や肥料を与え、月日をかけて自分たちが育てた鉢花を開花時期にあわせて地域に住む高齢者宅へ届ける作業は、自然が相手でこちらの思う通りにはいかず大変であり、すくすくと成長するものもあれば、芽を出さなかったり、成長のよくないものがあったり、中には途中で枯れてしまうものもでてくる。その月日と苦勞が生徒たちに、「この一鉢プレゼントは、単に花そのものを届けること

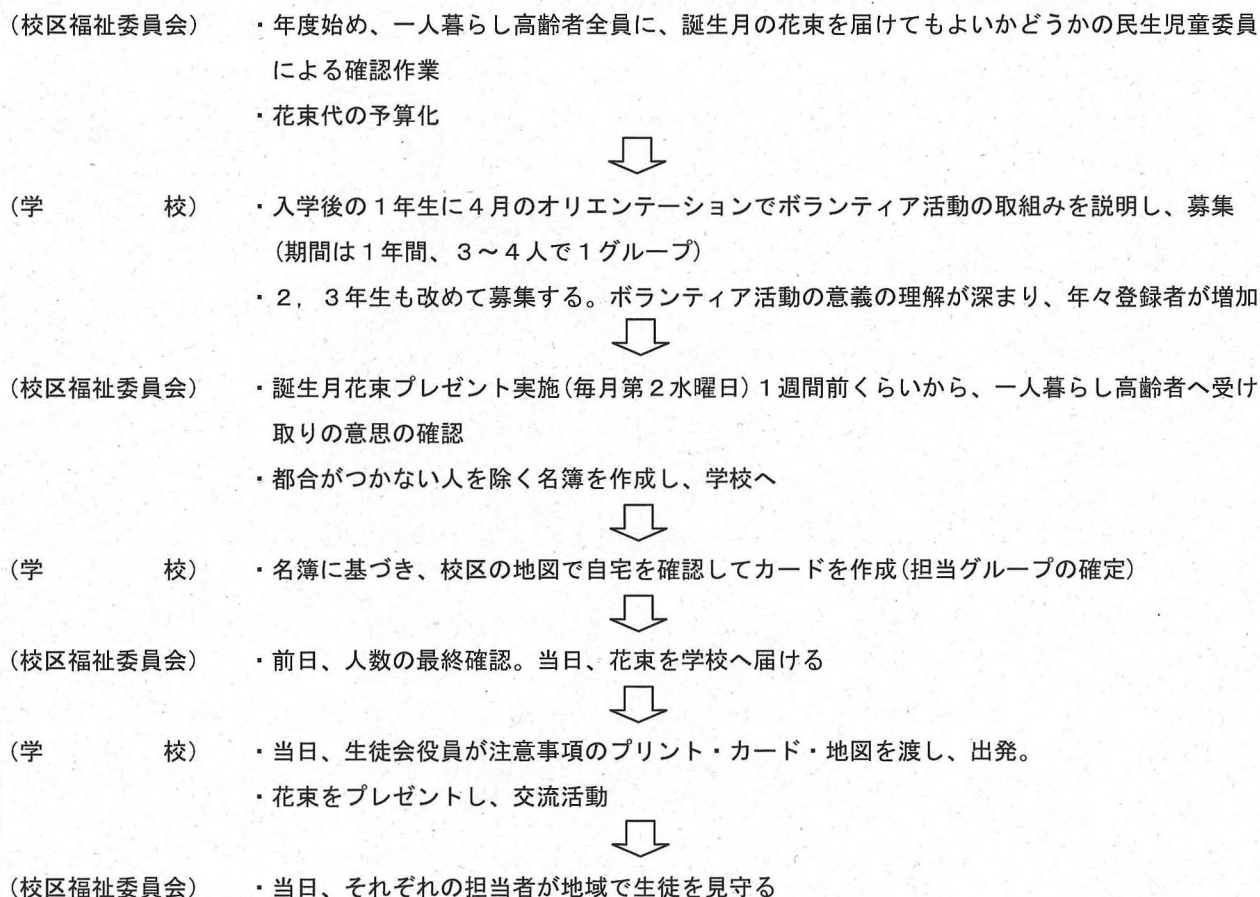


ではないんだ。自分たちが時間をかけて育ててきた思いと、地域に住む高齢者の方たちにいつまでも元気でいてほしいという願いを込めて、メッセージカードとともに届けるんだ。」ということをお教えている。

## □「フラワー・プレゼンター」活動（放課後の課外活動：毎月約15人の方に切り花や鉢花を届ける）

校区福祉委員会を通して、一人暮らしの高齢者の誕生月に、校区で準備された花束を生徒会からあずかり、中学生3～4人のグループが持参・訪問する世代間交流（ボランティア活動）

### <役割と実施までの流れ>



ありがとう。3年生？  
受験がんばらんなあかんな。  
勉強中の頭の休め方を教えてあげよう。  
1都1道2府43県を書き出してごらん。



お誕生日、おめでとうございます！

＜当日、生徒に配布するプリントの文面の例＞

【フラワー・プレゼンターのみなさんへ】

今月は、みなさんのグループに行ってもらいます。途中、気をつけてしっかりと届けてください。よろしくお願いします。

おじいさん、おばあさんへは、地域の民生委員さんが、事前に、今日、みんながお花を届けてくれることを伝えてくれています。

「お誕生日おめでとうございます。」、「お元気にお過ごしですか？」などと言ってお花を渡したら、せっかくだから、どんなことでもいいのでお話をきてください。喜んでもらえるはずです。

【注意事項】

- \* カードに感想を記入し、地図といっしょに返却してください。

個人情報(住所・電話番号など)が記載されているので、落したりなくしたりしないように注意し、必ず、学校へ持ち帰り返却してください。

- \* 万一、留守の場合は（あきらめずに何回か呼んでください！）、いったん学校へ戻り、先生の指示にしたがってください。
- \* 担当の民生児童委員さんも巡回してくださっています。訪問先がわからないなど困ったときは、近所の方に尋ねてみてください。
- \* 服装はきちんとしていきましょう！      \* 道幅いっぱいには広がって歩かない！
- \* 今月のお花は「コスモス と シクラメン」です。

＜高齢者に花束とともに渡すメッセージカードの例＞

お誕生日（月）おめでとうございます

お元気にお過ごしですか。

今月お届けする鉢植えの花は、A中で種をまき育ててきた『コスモス（秋桜）』と、校区福祉委員会からの『シクラメン』です。

コスモスの原産はメキシコの高原地帯で、これが18世紀末ヨーロッパに持ち込まれ『コスモス』と名づけられたようです。日本には明治20年頃渡来したと言われています。

日当たりと水はけが良ければ、やせ地でもよく生育します。景観作物としての利用例が多く、河原や休耕田、スキー場などに植えられたコスモスの花畑がよく紹介されたりしています。

鉢植えの『コスモス』と一緒にお届けする『シクラメン』の花は、皆様の手で鉢植えにしていただくか、庭に直植えしてください。

＜生徒の感想＞

～帰り道でのつぶやきより～

- 一人で生活してすごい。面白いところがうちのおばあちゃんに似てる。これからは元気で長生きしてほしいです。
- 話を聴くのが楽しい。勉強の仕方を教えてもらえた。最初の頃は緊張したけど、「ありがとう」と言われるとうれしくて自分も幸せだなと感じる。次はどんな人に会えるのか楽しみ。
- 道がわからず迷ったけれど、途中で道を教えてくれる人がいて助かった。いろいろな人のおかげ。
- 81歳には見えないめっちゃ若々しいおばあちゃん、今でも山登りをしているらしく、スゴイ！感動！お花が好きだったみたいで、すごく喜んでもらったのがうれしかった。

### <お花を届けた方からのお礼の手紙>

- 今年もまた、A中のお子たちが、花束をもって訪ねてくれました。外は暑い日だったのに、有難く思いました。三人のお子たちはにこにこして、私の話をずっと聞いてくれて、長話をしてしまい、みんなの帰るのを遅くしてしましますまなかったです。

テレビや新聞で、一部の子どもたちのすさんだ記事を見るたびに、A中の子どもたちの未来に幸多かれと祈りたい気持ちです。A中の先生様やA校区の役員の皆様のがんばりで、お子たちを守ってあげておられるのだと思っています。

どうか皆様、病氣やケガに気をつけてがんばってくださいね。きれいなお花ありがとうございました。

先ずは、お礼まで、早々

A町のおばあさんより

- B、C、Dちゃん。こんにちは、先日花の苗を届けて頂いた76才のおばあちゃんです。

三人共お変わりありませんか？雨の中ほんとに大変でしたね。でも私達年寄りにとっては幸せなひとときでした。嬉しすぎておしゃべりして時間オーバーしたこと、お詫びします。反省…。

お花はもちろんのこと、何よりも貴女達の可愛かった笑顔は何にも代えがたい宝物になりました。子どものいない私にとって、やさしかったあの笑顔はいつまでも心に残って忘れることができません。お花が咲いたらと思っておりましたが、赤い蕾が出ましたので、報告のお礼の一言、またこれからの貴女達の幸を願って一筆取りました。来年には故郷、鹿児島に引き上げますが、いつまでもあの笑顔のままで貴女達が大人になれます様に。ほんとにありがとうございました。A中の先生方にも心より感謝致します。

さようなら

### <生徒の感想>

#### ～3年生最後のフラワープレゼントを終えて～

おばあさんが私たちに会うために、用事をぬけてきてくれて、とてもうれしかったです。

今日が最後のフラ・プレ（フラワープレゼンター活動）だと思うと、さみしいです。このフラ・プレで、人の優しさ、あたたかさ、それから人とふれあうことの大切さを学ぶことができました。

たくさんの人の笑顔を見ると幸せになれる……！！

### 取組みを終えて

#### 〔地域との新しい関係作りをめざして〕

総合的な学習の時間などで実施している福祉体験学習にしても、フラワー・プレゼンター活動を始める様々なボランティア活動にしても、従来のように教員が準備したものを生徒へ伝達していくという一方通行ではなく、地域の方と生徒が直接相互に関わり合う双方向的な関係づくりをめざしている。このことこそが、「学校力」を高めることになると考えている。

地域で様々な活動に取り組んでいる人々の姿を直接見ることがなくても、一人暮らしの高齢者との関わりを通して、実に多くの人に関わりや協力があることを知ることができる。そうして「ありがたいなあ」という気持ちを持ち、お互いを認め合う関係づくりができ、教室では学ぶことのできない貴重な体



験として生徒たちの心の中に蓄積されていく。地域に生まれ、発展する学校づくりをめざすこととは、言い換えれば、10年先、20年先の地域を担う人材を育成することである。そのためにも生徒自身が企画・立案・実行していく方法を取り、例えば、主体的な運営を生徒会役員などに任せ、生徒会活動の一つとして取り組むようにしている。

その他、生徒会の朝のあいさつ運動（全生徒が交代で1週間校門に立つ）時に、生徒による校門周辺の清掃活動も行われている。校内美化活動については、生徒会の委員会活動としてだけでなく、別にボランティアを募り、昼休みや放課後にも清掃活動を行っている。このボランティア活動は、「学校にアメやガムの包み紙が落ちていたり、ガムが吐き捨てられていたりしているのはおかしい。もっと自分たちの学校をきれいにしたい。」という一部の生徒の訴えかけが、生徒会を動かしたものである。今では、「今から校内美化活動を始めるので、美化委員の人とボランティアの人は中庭に集まってください。」という放送が昼休みに流れ、自然と生徒たちが動く姿が定着してきた。

さらに、このような一つの中学校での小さな取組みが広がり、市内の中学校生徒会全体（中学生サミット）において、“街ピカパレード”という清掃活動が企画された。このように生徒が生徒を動かす活動は、教科の学習ではなかなか学びにくいことを多く学べ、良好な人間関係を築くことができる。そのことは、生徒それぞれが夢の実現に向かっていく一助となり、いつの日か地域の一員として新たな地域づくりを進めていってくれるに違いない。

今日、教員が声を大にして「さあやるぞ、ついてこい。」では、生徒たちはなかなか動かない。生徒が生徒を動かしてこそ、本当の意味でのボランティア活動が定着していくのだと思う。

このようにして生徒の心に芽生えた蕾が地域に広がり、高齢者からは優しさと思いやりという肥料も加わり、あちこちに花がひらく町になることが、生徒と地域とのつながりや生徒の心の落ち着きや成長に繋がり、ひいては10年先、20年先の地域を担う人が育っていくのだと実感している。

## 【 ポ イ ン ト 】

☆ 核家族化やコミュニティ意識の低下により、現在の子どもたちは、「教員と生徒」、「親と子」といった「タテの関係」と、同学年どうしの「ヨコの関係」の二次元の世界で生活することが多い。「タテの関係」も「ヨコの関係」も責任感や競争意識といった緊張感が高い関係である。

一方、この取組みにより、地域住民とのリラックスできる「ナナメの関係」の交流を通して、生徒たちが「自己効用感」や「自尊感情」を身につけていくことが可能となろう。地域住民と学校が協働参画型で展開されている、地域福祉の推進に資するボランティア学習の実践である。

### 【学校における取組み事例作成協力校】

学 校 名
高槻市立五領小学校
茨木市立白川小学校
茨木市立福井小学校
松原市立天美小学校
和泉市立青葉はつが野小学校
和泉市立和気小学校
岬町立深日小学校
寝屋川市立第三中学校
松原市立松原第三中学校

### 【平成 21 年度：大阪府福祉教育指導資料集作成委員会名簿】

所属・職名	氏 名
大阪教育大学教育学部教養学科・准教授	新 崎 国 広
高槻市教育委員会・指導主事	佐 藤 美 恵
茨木市教育委員会・指導主事	尾 崎 洋 司
寝屋川市教育委員会・指導主事	竹 内 和 雄
松原市教育委員会・指導主事	中 山 久美子
河内長野市教育委員会・指導主事	今 村 尚 美
和泉市教育委員会・指導主事	大 橋 敏 宏
岬町教育委員会・参事	山 路 浩 史
大阪府教育センター支援教育研究室・主任指導主事	野 崎 理 子
大阪府教育委員会小中学校課・主任指導主事	野 田 健 司
大阪府教育委員会支援教育課・指導主事	中 平 好 美
大阪府教育委員会小中学校課・指導主事	堤 周 作
大阪府福祉部障がい福祉室計画推進課・主査	河 原 竜 義
大阪府福祉部障がい福祉室計画推進課・主事	菅 祥 明
大阪府社会福祉協議会地域福祉部・主事	高 田 哲 平



教育委員会事務局 市町村教育室 小中学校課 平成22年3月発行

〒540-8571 大阪市中央区大手前2丁目 / TEL 06 (6941) 0351

